

明治国際医療大学 鍼灸学部

鍼灸学科

講義概要

〔2017〕

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	1	必修
担当教員			
吉田行宏			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	鍼灸を行うにあたり、人と人とのコミュニケーションという人間活動に関する基本的な考え方について理解する。また、医療従事者や患者の心理状態を理解するとともに、鍼灸臨床に及ぶさまざまなコミュニケーションについて理解し、鍼灸臨床の現場で演習を行い、鍼灸師として必要なコミュニケーション能力について身につける。		
授業計画	1回目	<p>イントロダクション</p> <p>[到達目標] コミュニケーションの重要性について理解する。</p> <p>[備考] 鍼灸師をめざすにあたって、自分が考えるコミュニケーションについて整理し、各施設の演習について予習すること</p>	
	2回目	<p>コミュニケーションとは何か(1)</p> <p>[到達目標] コミュニケーションの種類や構造について理解する。</p> <p>[備考] コミュニケーションの種類について復習すること</p>	
	3回目	<p>コミュニケーションとは何か(2)</p> <p>[到達目標] コミュニケーション障害が発生するメカニズムについて理解する。</p> <p>[備考] 言語および非言語コミュニケーションの特徴について復習すること</p>	
	4回目	<p>ことばとコミュニケーション</p> <p>[到達目標] ことばの特色、機能、人間関係を営む上での日本語の特徴を考えコミュニケーションについて理解する。</p> <p>[備考] ことばの重要性について自分の日常生活からコミュニケーションをまとめる</p>	
	5回目	<p>交流分析（自己分析）</p> <p>[到達目標] エゴグラムによる自己分析を行う。</p> <p>[備考] 自己分析結果の長所・短所を整理すること</p>	
	6回目	<p>医療現場のコミュニケーション</p> <p>[到達目標] 医療従事者および患者の心理の基礎について理解する。</p> <p>[備考] コミュニケーションの基本を再度復習し、医療現場で活かせるコミュニケーションを復習する。</p>	
	7回目	<p>医療面接について</p> <p>[到達目標] 鍼灸臨床を行う上で医療面接の基礎を理解する。</p> <p>[備考] 治療者と患者の身になって、実際の医療面接を練習すること</p>	
	8回目	<p>鍼灸臨床現場のコミュニケーション（1）</p> <p>[到達目標] 附属鍼灸センターの施設概要およびコミュニケーションについて理解する。</p> <p>[備考] 施設の特徴について予習し、施設見学するにあたってドレスコード等について整理すること</p>	
	9回目	<p>鍼灸臨床現場のコミュニケーション（2）</p> <p>[到達目標] 京都駅前鍼灸院の施設概要および医療従事者とのコミュニケーションについて理解する。</p> <p>[備考] 施設の特徴について予習し、施設見学するにあたってドレスコード等について整理すること</p>	
	10回目	<p>鍼灸臨床現場のコミュニケーション（3）</p> <p>[到達目標] 介護老人保健施設の施設概要および高齢者とのコミュニケーションについて理解する。</p> <p>[備考] 施設の特徴について予習し、施設見学するにあたってドレスコード等について整理すること</p>	
	11回目	<p>鍼灸臨床現場のコミュニケーション（4）</p> <p>[到達目標] 施設内演習：附属鍼灸センターにてコミュニケーションについて演習する。</p> <p>[備考] 施設の特徴をまとめ、施設での演習結果をまとめてレポートすること</p>	
	12回目	<p>鍼灸臨床現場のコミュニケーション（5）</p> <p>[到達目標] 施設内演習：京都駅前鍼灸院にてコミュニケーションについて演習する。</p> <p>[備考] 施設の特徴をまとめ、施設での演習結果をまとめてレポートすること</p>	

	<p>13回目 鍼灸臨床現場のコミュニケーション（6） [到達目標] 施設内演習：介護老人保健施設にてコミュニケーションについて演習する。 [備考] 施設の特徴をまとめ、施設での演習結果をまとめてレポートすること</p> <p>14回目 鍼灸臨床におけるコミュニケーションについて [到達目標] 各施設を統括して鍼灸師が必要なコミュニケーションについて理解する。 [備考] 施設の特徴をまとめ、施設での演習結果をまとめてレポートすること</p> <p>15回目 まとめ [到達目標] コミュニケーションのまとめ [備考] 鍼灸師が必要なコミュニケーションをまとめられるようにすること</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業は講義と共に、鍼灸に関わる施設において演習し、体験したことについてレポートを課す。
教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	授業出席および各施設（3施設）の演習結果のレポート提出にて評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田行宏 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日 16:40～17:00</p> <p>担当教員名 : 附属鍼灸センター治療担当教員 京都駅前鍼灸院治療担当教員 はぎの里治療担当教員</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
河井 正隆			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	この授業では、大学でどのように学ぶのか、あるいはそのために必要なスキルは如何なものかについて学習する。高等学校までとは異なる大学における学習の方法に慣れること、グループで協力して知識を得ること、さらには大学生活に積極的な姿勢で向き合えるようになることが授業全体を通した目的である。学びの方法や技術を獲得し、その根底にある学びに対する姿勢や態度を理解する。
授業計画	<p>1. "大学"ってどんなところ！？</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学について考え、大学で求められる学力、学習態度について理解する。 ・ 高校と大学との学習の違いを理解する。 ・ 明治国際医療大学の歴史を知り、本大学で学ぶことの意義を見いだす。 <p>[備考]</p> <p>宿題： 図書館・研究室を訪問 ⇒ 次回の授業前日までに訪問結果を提出する (C-learningへ)。</p> <p>2. "図書館・研究室"ってどんなところ！？</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生としての"私"と図書館や研究室との関わりを知る。 <p>[備考]</p> <p>宿題： 図書館・研究室を訪問 ⇒ 次回の授業前日までに訪問結果を提出する (C-learningへ)。</p> <p>3. "学習スタイル"を知ろう！</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の学習スタイルを理解する。 <p>[備考]</p> <p>宿題： 図書館・研究室を訪問 ⇒ 次回の授業前日までに訪問結果を提出する (C-learningへ)。</p> <p>4. "考える"ってどういうこと！？</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考えることの大切さやその方途を知る。 <p>[備考]</p> <p>『学長への手紙』の予告</p> <p>5. "学部長への手紙"</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内で『学部長への手紙』を作成する。 <p>6. 作文</p> <p>7. 作文</p> <p>8. レポート作成</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	講義内容や資料をもとに考えるスキルが求められる。 また、宿題の提出は携帯電話、スマートフォンおよびパソコンを使用して行う場合がある。
教科書	とくに指定はしない。
参考書	授業中、指定する場合がある。
成績評価	出席、提出物、授業態度 (いわゆる平常点)、レポート、プレゼンテーションの完成度などの項目を中心に担当教員が評価を行う。 出席点、レポート
担当教員の基本情報	担当教員名：河井正隆 研究室：明治東洋医学院専門学校 メールアドレス：kawai@meiji-s.ac.jp オフィスアワー：授業の前後を充てます。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
谷口 和隆			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	日本語を読み、理解し、書く能力は学習を進めるアカデミックスキルとして不可欠であり、また社会人、医療人としても必須の能力です。 この授業では、テキストを実際に読み、要約し、書くことなどを通して、日本語のリテラシーを身につけ、日本語を正しく使うための基礎的知識を学ぶことを目標とします。
授業計画	<p>1回目 語彙力の確認 [到達目標] 簡単なテストをとおして自らの語彙力を確認する</p> <p>2回目 テキストの読み方 [到達目標] テキストの読み方について理解する</p> <p>[備考] 資料中の語彙を調べる</p> <p>3回目 テキストを読み、要約する（1） [到達目標] 要約の仕方がわかる</p> <p>[備考] 資料中の語彙を調べる</p> <p>4回目 テキストを読み、要約する（2） [到達目標] テキストを要約できる</p> <p>[備考] 資料中の語彙を調べる</p> <p>5回目 テキストを読み、課題に答える（1） [到達目標] 文章で課題について答えることができる</p> <p>[備考] 資料中の語彙を調べる</p> <p>6回目 課題に即して考えを文章でまとめる テキストを読み、課題に答える（2） [到達目標] 文章で課題について答えることができる</p> <p>[備考] 資料中の語彙を調べる</p> <p>7回目 課題に即して考えを文章でまとめる 要約をもとに発表する（1） [到達目標] 要約をもとに発表できる</p> <p>[備考] 発表準備を行う</p> <p>8回目 要約をもとに発表する（2） [到達目標] 要約をもとに発表できる</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	返却後の資料を復習しておくこと。
教科書	評論文や看護学論文を素材(授業で配布)に、テキストの読み方、パラグラフ間のつながり、段落の区切り、全体の論理的な流れの把握、要約の仕方などについて学びます。また、読む側が正確に理解できる文章の書き方について練習します。
参考書	国語辞典（高校時代のものでよい）が必要である。
成績評価	出席や提出物、発表と試験、の四項目を総合的に評価します。出席、提出物、試験等で評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 谷口 和隆（非常勤講師） 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー : 授業後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>人体の仕組みを理解する上で必要となる物理、及び数学の基礎知識を習得し、人体の動きに代表される自然界の様々な現象を、物理量によって表現できることを到達目標とする。</p> <p>骨、筋肉、神経など人体の構造と役割を理解する上で必要となる、力学や電磁気学など物理学的な考え方を習得し、呼吸や血液の働きと密接な関わりのある、液体と気体の性質について学習する。</p>
授業計画	<p>第1回 力のつりあいとモーメント 到達目標：力学の基礎である力のつりあいとモーメントについて理解できる。</p> <p>第2回 摩擦と運動方程式 到達目標：力学の基礎である運動方程式が理解できる。</p> <p>第3回 等加速度運動 到達目標：等加速度運動とはどのようなものであるか理解できる。</p> <p>第4回 放物運動 到達目標：放物運動とはどのようなものであるか数式から理解できる。</p> <p>第5回 慣性力と運動方程式 到達目標：慣性力とはどのようなものであるか、どのようなときに考慮すべき力なのか理解できる。</p> <p>第6回 2つの保存則 到達目標：エネルギー保存則と運動量保存則について理解できる。</p> <p>第7回 中間試験 到達目標：第1回～第6回までの力学の内容を理解できる。</p> <p>第8回 円運動 到達目標：円運動について理解できる。</p> <p>第9回 万有引力 到達目標：万有引力の法則について理解できる。</p> <p>第10回 単振動 到達目標：単振動と等速円運動との関係を理解できる。</p> <p>第11回 電磁気 到達目標：電気の性質を理解し、電気抵抗、電流、電圧の計算ができる。</p> <p>第12回 波動 到達目標：気体の状態方程式を理解できる。</p> <p>第13回 熱力学 到達目標：原子及び分子の構造と化学反応を説明できる。</p> <p>第14回 原子 到達目標：原子の基礎的な物理特性について理解できる。</p> <p>第15回 試験及び総括 到達目標：講義全体を振り返り、自然現象を総合的に判断し理解することができる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	必ず復習すること。(30分)
教科書	特に指定しない。
参考書	視覚でとらえるフォトサイエンス物理図録―新課程 数研出版株式会社(著) ISBN-10: 4410265121
成績評価	試験80%、課題20%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○赤澤 淳</p> <p>研究室 : 8号館4階</p> <p>メールアドレス : j_akazawa@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 火曜日</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
鳴瀬 善久			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	生物体のなりたちを、それを構成する分子から細胞・組織へと順に学ぶ。生物の遺伝の原理と発生のしくみを理解し、人間が受精卵というたった1個の細胞からどのようにして発生し、この世に生まれてくるかを知ること、一人一人の人間が生活している不思議さと尊厳さを再認識する。人は、この地球上の多種多様な動物・植物、微生物種やウイルスが存在する広い生物界にいる。人は、この生物界の生存をかけた食物連鎖の中におり、食物をどのようにして食べ、その栄養分をどのように利用してカラダの構成成分を作るかなどを学習し、医療人の一人として人間の存在意義について理解し考察できることを目指す。
授業計画	<p>1回目 序論：ヒトを含む高等哺乳動物の共通性と特性 [到達目標] この地球上に生息する生物種の分類について説明できる。 [備考] 毎回、講義に必要な部分のプリントを配布。講義終了後は、必ず復習をしてその日のうちに講義内容を理解しよう！ ヒトは生まれてから死ぬまで、いったい何をしているのだろうか？（数字でみる人体の不思議）</p> <p>2回目 生体物質 [到達目標] 体を作り上げるさまざまな分子とその働きを理解する。タンパク質、糖質と脂質について説明できる。 [備考] タンパク質、糖質、脂質、核酸、ビタミン、ミネラル、水など</p> <p>3回目 生命の実体、細胞と細胞小器官 [到達目標] 細胞とその働きを理解する。組織、器官と器官系の成り立ちについて説明できる。 [備考] 生命の最小単位である細胞。細胞の仕組みと働き。組織、器官、器官系の成り立ち</p> <p>4回目 生物のカラダの維持と生命活動に必要なエネルギー [到達目標] 呼吸をする、食べる（栄養素の供給）を通してエネルギーの生産および体成分の変化を説明ができる。さまざまな代謝系（代謝経路マップ）の説明ができる。 [備考] 生命維持と活動に必要なエネルギーはどこからくるのか？</p> <p>5回目 動物の体の成り立ち。ホメオスタシス（恒常性） [到達目標] ヒトとは異なる体の生き物も同じような器官・組織系からできていることを理解し説明できる。 [実習と演習] 大学内に棲む生物を探索し観察して見よう！京丹波の生き物を通して生物の多様性を理解する。 [備考] 多種多様な生物の理解。外部環境に対する生体の巧妙な対応。体内環境の調節（生体の化学成分はほぼ一定）。代謝。カラダを守る（免疫系、血液凝固、組織の再生、解毒など）</p> <p>6回目 遺伝子の働き（1） [到達目標] 染色体と遺伝子について説明できる。 [実習と演習] 遺伝暗号を解読しよう。 [備考] 生命の設計図、DNA、RNA、染色体、遺伝子、セントラルドグマ、転写、翻訳</p> <p>7回目 遺伝子の働き（2） [到達目標] 遺伝暗号とタンパク質ができる仕組みを説明できる。 [実習と演習] 遺伝子DNAを見てみよう！ [備考] 生命体の設計図であるDNAを簡単な実験で見てみよう！（DNAはどれだけ集めれば肉眼で見えるのか？）</p> <p>8回目 細胞分裂とガン [到達目標] 細胞分裂とガンがおこる仕組みを説明できる。 [備考] 複製、体細胞分裂、細胞周期</p> <p>9回目 遺伝の仕組み、突然変異と遺伝病 [到達目標] 遺伝、特にメンデル遺伝について説明できる。 [備考] メンデル遺伝、伴性遺伝、遺伝病など</p> <p>10回目 命の誕生（生殖と発生）性の決まるしくみ [到達目標] 生殖と性、減数分裂と受精について説明できる。</p>

	<p>11回目</p> <p>[備考] 途切れの無い生命をつなぐ担い手、子孫を残す生殖細胞（精子、卵子、受精）減数分裂、染色体ヒトの発生</p> <p>[到達目標] ヒトの体はどのようにしてつくられるのか、発生のしくみを説明できる。</p> <p>12回目</p> <p>[備考] 発生（受精卵の分化、胎児の発育・出生） 発育と老化（寿命）</p> <p>[到達目標] 老化、寿命、死、そして生命をはぐくむ自然環境、有機体元素の循環や食物連鎖について理解できる。</p> <p>13回目</p> <p>[備考] 生命、老化、寿命、死、食物連鎖 生物の起源</p> <p>[到達目標] 生物の多様性と進化のしくみ。進化論について理解する。</p> <p>14回目</p> <p>[備考] 生物起源の仮説：進化論か創造説か？ 生命科学・バイオテクノロジー</p> <p>[到達目標] 現代生物学の発展について理解し、生物学がもたらす未来について考えることができる。</p> <p>15回目</p> <p>[備考] 生命科学の発展と未来について 講義のまとめと試験 1-14回を範囲として筆記試験</p> <p>[備考] 講義の総括。1-14回の講義を範囲として筆記試験を行う。</p> <p>[備考] テストを行い、試験結果を評価する（80%）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義は、生物学の参考書を基にプリントを作成し、それらを用いて講義を進める。そのため講義後は必ずプリント内容の理解に努め、わからない場合は調べ、質問して解決に努めること。また、毎回ではないが、講義内容の確認のために講義中に演習プリントを行い、どの程度自分自身が理解できているのか確認する（講義後提出）。高校で生物を習っていた人も、遅刻、欠席は授業の妨げになるので、必ず出席すること！
教科書	特になし（講義時間ごとにプリントを配布）
参考書	『視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録』鈴木孝仁 監修（数件出版） 『高校の生物が根本からわかる本』藤井 恒 著（中経出版） 『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学』D・サダヴァ（著）、石崎 泰樹他（翻訳）（ブルーバックス 講談社） 『キャンベル 生物学』Neil A. Campbell、小林 興 監訳（丸善）
成績評価	講義内容に関連した知識を筆記試験にて把握し、その理解度を評価する。 評価割合：出席と演習20%、試験80 %
担当教員の基本情報	担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、木曜日放課後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
千葉 章太			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	医療系学生に必要な化学の知識を習得することを目標とする。 到達目標： ・おもな元素記号、分子を覚える。 ・物質量の計算ができる。 ・溶液の濃度計算ができる。 ・化学反応式から反応物と生成物について定量的に説明できる。
授業計画	<p>第1回 元素記号・周期律・化学の基礎 到達目標：おもな元素記号を記述できる。</p> <p>第2回 原子の構造、電子配置と原子軌道 到達目標：陽子、中性子、電子を使って原子を説明できる。 s軌道とp軌道を使って電子配置を説明できる。</p> <p>第3回 価電子と共有結合 到達目標：分子軌道により共有結合を説明できる。</p> <p>第4回 炭素の化学 到達目標：ヘキサン、シクロヘキサン、ベンゼンの空間的構造の違いを説明できる。</p> <p>第5回 陽イオンと陰イオン 到達目標：主要な塩の組成式を作ることができる。</p> <p>第6回 分子の間に働く力 到達目標：化学結合の特徴を説明できる。</p> <p>第7回 分子量と物質量mol 到達目標：分子量と物質量を計算できる。</p> <p>第8回 質量、物質量、分子量 到達目標：理想気体の体積を物質量から計算できる。</p> <p>第9回 溶液と濃度・コロイド 到達目標：モル濃度を計算できる。</p> <p>第10回 化学反応 到達目標：主な化学反応を化学反応式で表せる。 化学反応式の係数を決定できる。</p> <p>第11回 酸・塩基、水素イオン濃度、酸化・還元 到達目標：酸・塩基、水素イオン濃度、酸化・還元反応の性質を説明できる。</p> <p>第12回 化学反応とエネルギー 到達目標：化学反応の進行をエネルギーの観点で説明できる。</p> <p>第13回 イオン化傾向・電池・電気分解 到達目標：イオン化傾向・電池・電気分解を説明できる。</p> <p>第14回 無機・有機・高分子化合物 到達目標：身近な化合物の性質を理解する。</p> <p>第15回 試験 期末試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通しておくこと。 2. 講義の後に該当する教科書の部分と配布したプリントを読み返しておくこと。
教科書	「化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本－」 中川 徹夫著 (化学同人) ISBN978-4-7598-1437-8
参考書	「よくわかる化学基礎＋化学」 富田 功監修 (Gakken) ISBN978-4-05-303852-4
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 出席10%、期末試験を90%として成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日、木曜日 12:40-13:30
備考	

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
中川 光			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	生物、人体、宇宙などをテーマとして扱ったエッセイを読みながら、英語による情報収集に習熟してもらいます。科学的な擁護に慣れてもらい、科学的論文を読む際の一助とします。また練習問題を通して使用頻度の高い語句を学び、文法の復習も行い、英語への親しみを深めてもらいます。		
授業計画	1回目	ガイダンス：授業に関する注意事項 [到達目標] 英語学習の心構えを確認する。	
	2回目	[備考] 教科書・辞書の準備。 テーマ：シジミチョウ [到達目標] 英文内容理解	
	3回目	[備考] 辞書で単語等をあらかじめ調べておく。英単語等を発音し、覚える。 テーマ：現在時制、進行形など [到達目標] 文法事項理解。問題練習。	
	4回目	[備考] 辞書で単語等をあらかじめ調べておく。英単語等を発音し、覚える。 テーマ：蜂 [到達目標] 英文内容理解。	
	5回目	[備考] 辞書で単語等をあらかじめ調べておく。英単語等を発音し、覚える。 テーマ：過去時制など [到達目標] 文法事項理解。問題練習。	
	6回目	[備考] 辞書で単語等をあらかじめ調べておく。英単語等を発音し、覚える。 テーマ：生物の性転換 [到達目標] 英文内容理解。	
	7回目	[備考] 辞書で単語等をあらかじめ調べておく。英単語等を発音し、覚える。 テーマ：関係代名詞など [到達目標] 文法事項理解。問題練習。	
	8回目	[備考] 辞書で単語等をあらかじめ調べておく。英単語等を発音し、覚える。 テーマ：脳細胞 [到達目標] 英文内容理解。	
	9回目	[備考] 辞書で単語等をあらかじめ調べておく。英単語等を発音し、覚える。 テーマ：受動態など [到達目標] 文法事項理解。問題練習。	
	10回目	[備考] 辞書で単語等をあらかじめ調べておく。英単語等を発音し、覚える。 テーマ：知覚について [到達目標] 英文内容理解。	
	11回目	[備考] 辞書で単語等をあらかじめ調べておく。英単語等を発音し、覚える。 テーマ：過去分詞、現在分詞など [到達目標] 文法事項理解。問題練習。	

	<p>12回目</p> <p>[備考] 辞書で単語等をあらかじめ調べておく。英単語等を発音し、覚える。 テーマ：感染症 [到達目標] 英文内容理解。</p> <p>13回目</p> <p>[備考] 辞書で単語等をあらかじめ調べておく。英単語等を発音し、覚える。 テーマ：現在完了など [到達目標] 文法事項理解。問題練習。</p> <p>14回目</p> <p>[備考] 辞書で単語等をあらかじめ調べておく。英単語等を発音し、覚える。 テーマ：サンゴについて [到達目標] 英文内容理解。</p> <p>15回目</p> <p>[備考] 辞書で単語等をあらかじめ調べておく。英単語等を発音し、覚える。 まとめ [到達目標] 総合的復習。学習内容を定着させる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	本文の単語の意味を調べておくこと。練習問題に目を通しておくこと。
教科書	Mysteries in Science 科学の不思議 永田・トウィリー 共著 南雲堂
参考書	各種英和辞典
成績評価	期末テストの結果 (50%) 授業内演習結果 (30%) 小テスト (随時 20%) で総合評価します。 ただし出席回数が60%に満たない場合は最終得点から30点減点します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中川 光 (非常勤講師) 研究室 : 非常勤講師控室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業時間の前後の休憩時間
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
渡邊 康晴			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>コンピュータとインターネットを便利に使い、様々な書類を作成するスキルの獲得を目標とします。また、コンピュータとインターネットに絡んだ犯罪から身を守る知識の習得し、具体的に対処する方法について学びます。</p> <p>4年間の大学生活を送るにあたり必要なコンピュータスキルと犯罪に巻き込まれないための知識を習得し、実践できることを到達目標としています。</p> <p>ガイダンスには「必ず」出席して下さい。本学のコンピュータシステムおよびメール等、学生生活に必要な事項について説明します。</p>		
授業計画	第1講	<p>ガイダンス、PCとメールの利用法</p> <p>[到達目標]</p> <p>本学のコンピュータとメールを使うことができる 携帯電話（スマホ）で本学メールを使用できる 学生支援システムの役割を知り、利用できる</p> <p>[備考]</p> <p>授業内で大学メールの携帯転送設定を確認する</p>	
	第2講	<p>情報を探す</p> <p>[到達目標]</p> <p>情報メディア教室で印刷が行える 高度なWeb検索が行える</p> <p>[備考]</p> <p>USBメモリー（容量は問わない）とイヤホン（or ヘッドホン）を持参すること</p>	
	第3講	<p>ワープロで文書を作る、タッチタイピングを身につける</p> <p>[到達目標]</p> <p>ワープロが使える、文書のレイアウトを整えることができる タッチタイピングの習得方法がわかる ショートカットキーを使うことができる</p> <p>[備考]</p> <p>課題提出・小テストあり</p>	
	第4講	<p>表計算1：基本操作と便利な使い方を学ぶ</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算ソフトを操作し、四則演算ができる 表計算ソフトを使って表が作成できる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第5講	<p>表計算2：関数とグラフを学ぶ</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算ソフトで棒グラフが作成できる 表計算ソフトで良く使う関数を使うことができる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第6講	<p>表計算3：分散と標準偏差を理解する</p> <p>[到達目標]</p> <p>データのバラツキについて説明できる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第7講	<p>表計算4：グラフ、表、数値の読み方</p> <p>[到達目標]</p> <p>種々のグラフ、表、数値を読み解くことができる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第8講	<p>表計算5：復習と演習</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算で学習した内容を独力で実践できる</p> <p>[備考]</p> <p>小テストあり</p>	
	第9講	<p>表計算を用いたデータ整理と表示法のテスト</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算ソフトを独力で使いこなすことができる</p> <p>[備考]</p> <p>表計算のテストを実施する</p>	
	第10講	<p>プレゼンテーション1：プレゼンテーションソフトを使いこなす</p> <p>[到達目標]</p> <p>プレゼンテーションソフトを使うことができる プレゼンスライド上で様々な表現が行える</p> <p>[備考]</p>	
	第11講	<p>プレゼンテーション2：他者と意見を交える</p> <p>[到達目標]</p>	

	<p>他者と円滑にグループワークが行える ディスカッションの内容に従って、プレゼン資料が作成できる [備考] プレゼンテーション3：自分達の意見を発表する [到達目標] グループの一員として自分の考えを提示できる 他者の意見を傾聴できる [備考] プレゼン発表を実施します</p> <p>第13講 ビジネスでメールを使う [到達目標] メールのCCやBCC、署名が使える ビジネスメールのマナーが実践できる [備考] 課題提出・小テストあり</p> <p>第14講 パスワード管理、悪意のあるプログラムを知る1 [到達目標] 適切なパスワードを作り管理することができる マルウェア（コンピュータウイルス）の実態を説明できる [備考] 小テストあり</p> <p>第15講 悪意のあるプログラムを知る2、ネットの脅威から身を守る [到達目標] マルウェア（コンピュータウイルス）対策を実行できる ネットの脅威から身を守るための対策を実施できる [備考] 課題提出・小テストあり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	適宜、復習を行い、コンピュータスキル獲得に努めて下さい。
教科書	「情報倫理ハンドブック」 (NOA出版) 学内専用ホームページ http://mmh1.meiji-u.ac.jp/moodle 学外からもアクセスできるホームページ http://www.meiji-u.ac.jp/md-medinfo/lecture
参考書	「知へのステップ」 学習技術研究会 著 (くろしお出版)
成績評価	評価割合は授業内課題17%、小テスト23%、プレゼン発表20%、第9講で実施するテスト40%とします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 〇渡邊 康晴 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 梅田雅宏 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 河合 裕子 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
石崎 直人			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>本科目の目標は、医学・医療及び社会とのかかわりについて、考え、理解するための基礎知識を習得し、医療人としての資質を身につけることであり、そのために医学、医療に関連する基本用語を理解し、また医学・医療の現状および問題点などについて幅広く学習する。</p> <p>具体的には、医療の歴史、健康の概念、医の倫理、医療の質と安全性、医療事故と医療者の責任、QOLとヘルスプロモーション、医療と経済、EBMと補完代替医療などについて理解を深める。上記を踏まえ、生命倫理、医療倫理の諸問題について考える基礎力を身に付けることを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン～医療の歴史 INTROクシヨンとして医療概論を学ぶ意義を説明し、その後医療の歴史について概説する。</p> <p>第2回 医療及び健康の概念 「医療とは何か」について説明し、それと関連づけて「健康とは何か」を説明し理解する。健康についてはWHOによる健康の定義を中心に説明する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第3回 医の倫理 医の倫理について概説し、医療従事者が心得るべき倫理指針について説明する。また鍼灸師の倫理についても説明する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第4回 バイオエシックス（1） 医学研究の倫理について概説する。配布資料とスライドにより解説する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第5回 バイオエシックス（2） 遺伝子工学と臓器移植について概説し、それぞれの倫理面について考える。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第6回 医療の質と安全性 医療の質の評価や安全性について概説する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第7回 医療事故と防止策 医療事故の種類や原因について説明し、防止策について解説する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第8回 医療者の責任と医療訴訟 医療者の責任について特に安全性の面から説明し、医療訴訟の基礎知識について解説する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第9回 QOLとヘルスプロモーション 生活の質（QOL）の概念について説明し、健康増進施策について解説する。特に健康日本21について詳しく説明する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第10回 医療と経済 国民医療費について説明するとともに、日本の医療保険制度について概説する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第11回 EBMとCAM エビデンスに基づく医療（EBM）と補完代替医療（CAM）について概説する。</p> <p>第12回 医療概論のまとめ（1） 本講義のまとめと復習（第1回～第5回までを振り返る）</p> <p>第13回 医療概論のまとめ（2） 本講義のまとめと復習（第6回～第11回までを振り返る）</p> <p>第14回 はり・きゅう国家試験と医療概論（1） 本講義の中で、特に「はり師きゅう師国家試験」と関連の深い事項について、過去問等を中心に解説する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第15回 はり・きゅう国家試験と医療概論（2） 本講義の中で、特に「はり師きゅう師国家試験」と関連の深い事項について、過去問等を中心に解説する。配布資料とスライドにより解説する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	毎回の講義で配布される資料を見て復習してください。
教科書	なし（配布資料に基づいて講義します）
参考書	「医療概論」 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社 「公衆衛生がみえる」 メディックメディア
成績評価	出席は全講義回数の3/5以上が必要です。筆記試験により単位認定します。
担当教員の基本情報	研究室 : 鍼灸センター2F石崎教授室 メールアドレス : n_ishizaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜～金曜の17:00以降
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
榎原 智美、熊本 賢三			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>医学全般の根本的な基盤となる学問体系が人体構造学（解剖学）である。正常な人体を構造学的にいかにつえるかの能力を培う。本科目では、その入門となる総論に引き続き、各論の運動器系の構造と主たる機能について理解する。</p> <p>総論（人体の構成）、細胞・組織学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体のなりたちの概要を理解する。 2. 人体を構成する器官系の概要を理解する。 3. 人体を構成する細胞の基本的構造と4種の組織構築の概要を理解する。 4. 鍼灸治療において重要な皮膚の組織学的構造と特徴を理解する。 <p>運動器系：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する骨の名称、各部位名および関節・靭帯について理解する。 2. 人体を構成する筋の名称、付着部位および作用について理解する。 3. 筋紡錘・腱器官・腱の構造と機能を理解する。
授業計画	<p>総論 解剖学総論（人体の構成） [到達目標] 人体の構成要素を知り、基本的ななりたちの概略（*）を説明できる。 *例：個体→器官系→器官→組織→細胞+細胞間質 各自、ノート作りを始めて下さい</p> <p>組織学 1 細胞学 細胞の基本構造と機能 [到達目標] 細胞膜、細胞小器官の構造と機能、細胞の周期と分裂を理解し概略を説明できる。 ポイント：細胞とは何か。細胞は”そこ”で”生きている”。 解剖学では、”そこ”がどこかを、マクロからミクロへの視野をもって知ることが重要。</p> <p>組織学 2 組織学総論 1. 組織は4種。上皮組織の構造と分布 [到達目標] 4種の基本組織（上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織）を把握する。 上皮組織の基本構造と分布および機能を解説できる。 ポイント：4種の組織はどの点で分類されているのか。 上皮組織は、ほぼ上皮細胞のみの集団によってできている。</p> <p>組織学 3 組織学総論 2. 支持組織の構造と分布と機能 [到達目標] 支持組織の基本構造と分布および機能を説明できる。 ポイント：支持組織は、細胞と細胞間質、細胞間質は、線維と無形基質でできている。 結合組織・軟骨組織・骨組織はどの点で分類されているのか。</p> <p>組織学 4 組織学総論 3. 筋組織の構造と分布と機能 [到達目標] 筋組織の基本構造と分布および機能を説明できる。 ポイント：筋組織にのみ特徴的な点は、筋細胞が自ら収縮能を有すること。</p> <p>組織学 5 組織学総論 4. 神経組織の構造と分布と機能 [到達目標] 神経組織の基本構造と分布および機能を説明できる。 ポイント：神経組織は、神経細胞と神経膠細胞でできている。 神経細胞は、興奮を他の細胞に伝えることができる。</p> <p>組織学 6 外皮学 1. 人体の“膜”構造。 [到達目標] 皮膚、粘膜、漿膜の定義と構造をと役割を説明できる。 皮膚の層構造を解説できる。 ポイント：皮膚は人体の外表面で粘膜は内部でそれぞれ外界に面して内界とを境する膜状組織。 皮膚は、表皮・真皮 および 皮下組織の三層を区別する。</p> <p>組織学 7 外皮学 2. 皮膚の種類と分布と組織構造および機能 [到達目標] 皮膚の組織構造の特徴と種類、分布および機能を説明できる。 ポイント：表皮、真皮、皮下組織とは？</p> <p>組織学 8 外皮学 3. 表皮の細胞構築と角化およびメラニン形成 [到達目標] 表皮の細胞構築と角化、メラニン形成について説明できる。 ポイント：表皮を構成する細胞と層構造を理解する。 角化とは、表皮の細胞にケラチンが生成・沈着すること。</p> <p>組織学 9 外皮学 4. 皮膚における神経支配と免疫。皮膚感覚受容器 [到達目標] 皮膚における感覚受容器について説明できる。 ポイント：皮膚感覚受容器は 軸索終末と終末シュワン細胞で構成される。 細胞・組織学の間試験を実施する。試験範囲：総論・組織学1～9。試験日時は別途掲示。</p> <p>運動器系 1 骨・関節・靭帯学 1. 骨の組織構造。骨化。役割と形態学的分類 [到達目標] 骨の組織構造、役割と形態学的分類を説明できる。</p>

	<p>ポイント: 理解の前に、軟骨と骨組織が区別でき、骨の発生、骨化および改築について理解できる。</p>
運動器系 2	<p>骨・関節・靭帯学 2. 骨の連結様式と関節の構造 [到達目標] 主要な骨の連結様式と関節の構造が説明できる。 ポイント: 骨の各連結様式の特徴と関節の構造を理解する。</p>
運動器系 3	<p>骨・関節・靭帯学 3. 頭蓋の骨. 内頭蓋底と外頭蓋底 [到達目標] 頭蓋の個々の骨を、内・外頭蓋底頭蓋において区別できる。 ポイント: 頭蓋骨、15種23個が明記でき、内・外頭蓋底の構造を理解する。</p>
運動器系 4	<p>骨・関節・靭帯学 4. 体幹の骨. 脊柱、胸郭の構成および体幹の関節 1 [到達目標] 体幹の骨の名称、脊柱・胸郭の構成、体幹の主な関節を説明できる。 ポイント: 椎骨・肋骨・胸骨が区別と胸郭の構成を理解する。</p>
運動器系 5	<p>骨・関節・靭帯学 5. 体幹の骨. 脊柱、胸郭の構成および体幹の関節 2 [到達目標] 体幹の骨の名称、脊柱・胸郭の構成、体幹の主な関節を説明できる。 ポイント: 胸鎖関節、肋椎関節、椎間関節、仙腸関節の構造を理解する。</p>
運動器系 6	<p>骨・関節・靭帯学 6. 上肢の骨と関節 1 [到達目標] 上肢帯、上腕、前腕、手の各骨の名称と主な関節を説明できる。 ポイント: 上肢帯(鎖骨・肩甲骨)・自由上肢(上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・指骨)を理解する。</p>
運動器系 7	<p>骨・関節・靭帯学 7. 上肢の骨と関節 2 [到達目標] 上肢帯、上腕、前腕、手の各骨の名称と主な関節を説明できる。 ポイント: 胸鎖関節、肩鎖関節、肩関節、肘関節、橈骨手根関節を理解する。</p>
運動器系 8	<p>骨・関節・靭帯学 8. 下肢の骨と関節 1 [到達目標] 下肢帯、大腿、下腿、足の各骨の名称と主な関節を説明できる。 ポイント: 骨盤、大腿骨、脛骨、腓骨、足根骨、足の指骨を理解する。</p>
運動器系 9	<p>骨・関節・靭帯学 9. 下肢の骨と関節 2 [到達目標] 下肢帯、大腿、下腿、足の各骨の名称と主な関節を説明できる。 ポイント: 仙腸関節、股関節、膝関節、距腿関節を理解する。</p> <p>骨・関節・靭帯学の間試験を実施する。試験範囲: 運動器系1~9。試験日時は別途掲示。</p>
運動器系10	<p>筋学 1. 骨格筋の種類と構造. 運動終盤の構造と筋収縮理論の概説 [到達目標] 骨格筋の構造と種類、筋組織と運動終盤の構造を述べ、筋収縮理論を概説できる。 ポイント: 筋細胞がなぜ収縮できるのかを理解する。</p>
運動器系11	<p>筋学 2. 筋紡錘・腱紡錘の構造. 頭蓋の骨格筋(表情筋・咀嚼筋) [到達目標] 筋紡錘の構造を解説できる。表情筋と咀嚼筋について、名称と作用を説明できる。 ポイント: 体性深部受容器と頭部の動きと作用する骨格筋を理解する。</p>
運動器系12	<p>筋学 3. 頸部の骨格筋(前頸部・側頸部・後頸部) [到達目標] 頸部の骨格筋について、名称と作用を説明できる。 ポイント: 頸部の動きと作用する骨格筋を理解する。</p>
運動器系13	<p>筋学 4. 体幹の骨格筋(胸部・腹部・背部・腰部) 1 [到達目標] 体幹の骨格筋について、名称と作用を説明できる。 ポイント: 体幹の動きと作用する骨格筋を理解する。</p>
運動器系14	<p>筋学 5. 体幹の骨格筋(胸部・腹部・背部・腰部) 2 [到達目標] 体幹の骨格筋について、名称と作用を説明できる。 ポイント: 体幹の動きと作用する骨格筋を理解する。</p>
運動器系15	<p>筋学 6. 上肢の骨格筋(肩・上腕・前腕・手) 1 [到達目標] 上肢の骨格筋について、名称と作用を説明できる。 ポイント: 上肢の動きと作用する骨格筋を理解する。</p>
運動器系16	<p>筋学 7. 上肢の骨格筋(肩・上腕・前腕・手) 2 [到達目標] 上肢の骨格筋について、名称と作用を説明できる。 ポイント: 上肢の動きと作用する骨格筋を理解する。</p>
運動器系17	<p>筋学 8. 上肢の骨格筋(肩・上腕・前腕・手) 3 [到達目標] 上肢の骨格筋について、名称と作用を説明できる。 ポイント: 上肢の動きと作用する骨格筋を理解する。</p>
運動器系18	<p>筋学 9. 下肢の骨格筋(臀部・骨盤部・大腿・下腿・足) 1 [到達目標] 下肢の骨格筋について、名称と作用を説明できる。 ポイント: 下肢の動きと作用する骨格筋を理解する。</p>
運動器系19	<p>筋学10. 下肢の骨格筋(臀部・骨盤部・大腿・下腿・足) 2 [到達目標] 下肢の骨格筋について、名称と作用を説明できる。</p>

	<p>ポイント： 下肢の動きと作用する骨格筋を理解する。</p> <p>運動器系20 筋学11. 下肢の骨格筋（臀部・骨盤部・大腿・下腿・足）3 [到達目標] 下肢の骨格筋について、名称と作用を説明できる。 ポイント： 下肢の動きと作用する骨格筋を理解する。</p> <p>運動器系・筋学の期末試験を実施する。試験範囲：運動器系10～20。試験日時は別途掲示。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書および配布プリントを精読し、トレーニングノートを作成し、自分なりに理解を深めるためのサブノートを作る。わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして、とことん解決すること。
教科書	「読んでわかる解剖生理学」竹内修二著 医学教育出版 「解剖学トレーニングノート」竹内修二著 医学教育出版
参考書	「鍼灸師・柔整師のための局所解剖学アトラス」北村清一郎・熊本賢三 編 南江堂 「カラー人体解剖学」井上貴央 監訳 西村書店 「入門組織学」牛木辰男著 南江堂
成績評価	成績評価は試験のみとし、総論1回（試験範囲は解剖学総論・組織学1～9）と、運動器学を2回（試験範囲は、運動器系1～9、10～20）に分けて試験を実施し、それぞれの試験が60%以上取れたものを合格とし、評価を行う。 なお、出席率60%未満の者には受験資格を与えないので注意すること。 また、習熟度アップのため自作のノートを採点評価しますので、各自ノート作りに励んで下さい。評価のポイントは、あなた自身がどこまで深く内容を理解しているか、です。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 熊本 賢三 研究室 : 5号館1階 メールアドレス : k_kumamoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 15:00-16:00</p> <p>担当教員名 : ○ 榎原 智美 研究室 : 5号館1階 メールアドレス : s_ebara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 15:00-16:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
榎原 智美			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>本科目では、人体の生命を維持する働きのうち、循環機能、消化機能、呼吸機能、泌尿機能にかかわるそれぞれの器官の、正常な肉眼的構造と組織・細胞学的構造を、豊富な画像や図譜を駆使して各器官系ごとに学習する。各器官系、各器官の個々の機能は、各々に特徴的な各種細胞とそれらが構成する特徴的な組織構造に裏付けられ、各構造が有機的に連携して全体としての機能を担っている。個々の器官特有の形態学的知識とともに、統合的に器官系の正常構造を理解することにより、主に体幹の内臓に関する基礎医学、臨床医学の基礎を作る。</p> <p>以下の5項目は、全日を通じての共通事項。なお、前期の「人体構造学実習」で修得した組織学的基礎を、復習、応用する必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各器官系に属する器官を明確に列挙し、区分できること。 2. 各器官の形態学的特徴（肉眼的特徴・組織像と所属細胞の特徴）を解説できること。 3. 胸腔および腹腔の局所解剖を理解すること。 4. 各器官系の機能を各器官の形態学的特徴に基づき概説できること。 5. 内臓諸器官の機能を循環器と併せて形態学的側面から概説できること。
授業計画	<p>内臓学総論 胸腔と腹腔。中空性・実質性内臓諸器官。粘膜。 [到達目標] 胸腔と腹腔を定義し、中空性・実質性内臓諸器官の一般構造を説明できる。 粘膜を定義できる。 ポイント： まず、内臓とはなにか、を把握しましょう。 各自、ノート作りを始めて下さい。</p> <p>循環器 1 循環器総論 [到達目標] 血管系（心臓と血管）とリンパ系を区別して定義できる。 血管の種類（動脈・静脈・毛細血管）を区別して定義できる。 血管壁の基本構造を概説できる。 体（大）循環と肺（小）循環を区別して概説できる。 ポイント： 動脈・静脈・毛細血管の定義を完璧に把握すること。血管と血液を混同しない。</p> <p>循環器 2 縦隔と心臓 [到達目標] 胸郭・胸腔・縦隔・胸膜腔・心膜腔を区別して説明できる。 心臓の位置および基本構造を解説できる。 ポイント： 縦隔とは。</p> <p>循環器 3 心臓の構造 [到達目標] 心臓の構造と心膜および心臓壁の組織学。心臓の刺激伝導系。 心臓壁の血管・神経。 ポイント： 心臓壁の組織構造と刺激伝導系を解説できる。冠状血管系を説明できる。</p> <p>循環器 4 大血管 [到達目標] 大動脈の4区画と各流域および静脈系を概説できる。 ポイント： 大動脈とはどの部分をさすのか、よく把握すること。</p> <p>循環器 5 主要な動脈と静脈 1 頭部・頸部・上肢の動脈と静脈 [到達目標] 頭頸部と上肢の主要な動脈と静脈を説明できる。 ポイント： 大動脈弓の枝は3本。各流域は？</p> <p>循環器 6 主要な動脈と静脈 2 体幹に分布する動脈と静脈、門脈系。 [到達目標] 体幹に分布する主要動脈と静脈および門脈系について説明できる。 ポイント： 胸大動脈の枝とその流域。腹大動脈の枝とその流域。</p> <p>循環器 7 主要な動脈と静脈 3 下肢に分布する動脈と静脈 [到達目標] 下肢に分布する主要動脈と静脈を説明できる。 ポイント： 骨盤と下肢の血流。</p> <p>循環器 8 リンパ系総論 [到達目標] 主要リンパ管の名称・分布・流路およびリンパ節の構造と機能が説明できる。 ポイント： 静脈角とは？ 左右の静脈角にそそぐリンパの流域は？</p> <p>呼吸器 1 呼吸器系総論 [到達目標] 呼吸器系器官の配置、区分、外鼻孔から肺胞まで気道壁の基本構造を説明できる。 ポイント： ”空気が入るので肺が膨らむ”の誤解をただす。</p> <p>呼吸器 2 呼吸の解剖生理学。 空気血液関門 [到達目標] 呼吸を概説できる。 肺胞におけるガス交換の場を図示でき、空気血液関門を説明できる。 ポイント： 血液空気関門がどこにあるのか、マクロからミクロへの視野で把握する。</p> <p>呼吸器 3 肺と胸腔</p>

呼吸器 4	<p>[到達目標] 肺の肉眼的特徴を説明できる。 胸郭・胸腔・胸膜腔を、区別して図示できる。 呼吸運動について説明できる。</p> <p>ポイント: 胸膜腔を明確に把握すること。休息筋と呼吸筋の収縮が何をもちたらすか。</p> <p>顔面・鼻腔・副鼻腔</p> <p>[到達目標] 顔面の構造、鼻腔の骨格を図示できる。 鼻粘膜(呼吸部と嗅部)の特徴を説明できる。 副鼻腔の種類と所在および鼻腔との通路を説明できる。</p> <p>ポイント: 鼻粘膜は、固有鼻腔と副鼻腔で連続している。</p>
呼吸器 5	<p>咽頭・喉頭</p> <p>[到達目標] 咽頭の隣接器官との位置関係を説明できる。 ワルダイエルの咽頭リンパ輪の構成と位置を説明できる。 喉頭の構造(とくに軟骨骨格)を概説できる。 声帯の構造と発声のしくみを説明できる。</p> <p>ポイント: 咽頭腔は5器官と連続する(鼻腔、口腔、耳管、喉頭、食道)。 扁桃とはどのような組織? 後輪状披裂筋は、声門開大筋である。</p> <p>中間試験を実施する。試験範囲: 内臓学総論・循環器系(1-8)・呼吸器系(1-5)。</p>
消化器 1	<p>消化器系総論</p> <p>[到達目標] 消化器を構成する器官名と配置、区分を把握する。 消化管壁の基本構造を説明できる。消化管の構造と壁内外の腺組織を把握する。 消化器生理を説明できる。</p> <p>ポイント: 三大栄養素は、どこから分泌される何によって加水分解されどこで吸収されるか。</p>
消化器 2	<p>腹腔と腹膜</p> <p>[到達目標] 腹腔・腹膜・腹膜腔・臓側腹膜・壁側腹膜・腸間膜・漿膜を区別できる。 腹膜後器官を列記できる。</p> <p>ポイント: 漿膜の組織構造</p>
消化器 3	<p>口腔</p> <p>[到達目標] 口腔の肉眼的構造を説明できる。 口唇、歯、舌、唾液腺のマクロと組織構造を説明できる。 舌乳頭について説明できる。</p> <p>ポイント: 口腔・咽頭・食道の構造を、周囲器官との位置関係とともに示せるか。 糸状乳頭・茸状乳頭・(葉状乳頭)・有郭乳頭、角化しているのは糸状乳頭。</p>
消化器 4	<p>咽頭・食道</p> <p>[到達目標] 咽頭の構造(咽頭は呼吸器系5へ)を説明できる。 食道の三狭窄部を示すことができる。</p> <p>ポイント: 喉頭・気管の後ろに咽頭・食道。食道下部には機能的括約筋がある。</p>
消化器 5	<p>胃</p> <p>[到達目標] 胃の区分と胃壁の基本構造が説明できる。 固有胃腺の組織構造を説明できる。</p> <p>ポイント: 胃液は”どこ”から出てくるの?</p>
消化器 6	<p>小腸</p> <p>[到達目標] 小腸の区分と各部の肉眼的特徴を説明できる。 小腸壁の基本構造および粘膜の基本構造を、図を用いて示せる。 小腸粘膜での栄養の吸収の場を、図を用いて示せる。</p> <p>ポイント: 小腸粘膜の、胃や大腸と異なる点は何か(輪状ヒダ、腸絨毛は必須)。</p>
消化器 7	<p>大腸</p> <p>[到達目標] 大腸の区分と各部の肉眼的特徴を図を用いて示せる。 大腸壁の基本構造を図を用いて示せる。 直腸の構造を、肛門とともに説明できる。</p> <p>ポイント: 小腸と大腸の肉眼的特徴の相違は何か。 内肛門括約筋と外肛門括約筋の相違は何か。</p>
消化器 8	<p>肝臓</p> <p>[到達目標] 肝臓の基本構造を説明できる。 肝組織の特徴的な組織構造を説明できる。</p> <p>ポイント: 肝三ツ組と肝小葉</p>
消化器 9	<p>門脈系と胆路</p> <p>[到達目標] 門脈系および胆路を示し、胆管系における血液・胆汁・膵液の流路を説明できる。</p> <p>ポイント: 胆管系の模式図にみられるすべての管についてその名称、内容物、どの方向へ、どこからどこへ流れるのかを把握する。</p>
消化器10	<p>膵臓</p> <p>[到達目標] 後腹壁における膵臓の位置を説明できる。 膵臓の外分泌部と内分泌部(ランゲルハンス島)を区別して説明できる。</p> <p>ポイント: 膵臓で大半を占めるのは外分泌部。消化酵素を含む消化液を十二指腸へ。</p>
泌尿器 1	<p>泌尿器系総論</p> <p>[到達目標] 腎臓・尿管・膀胱・尿道とその配置、区分を説明できる。</p>

	<p>尿生成の過程を説明できる。</p> <p>ポイント： 尿の原料は血液である。</p> <p>泌尿器2 腎臓1. 腎臓組織構造と血液路 [到達目標] 腎臓の断面模式図を描き、組織構造と腎臓の血液路を説明できる。 ポイント： 皮質と髄質。腎臓の血流。</p> <p>泌尿器3 腎臓2. ネフロン構造. 腎小体と血液尿関門。 [到達目標] 機能的単位ネフロンの構成と構造を図を用いて概説できる。 血液尿関門は、腎臓の”どこ”かをマクロからミクロに連続して概説できる。 ポイント： ネフロン=腎小体+尿細管 タコ足細胞のどこが血液尿肝門？</p> <p>泌尿器4 尿路 [到達目標] 尿路（腎杯、腎盤、尿管、膀胱、尿道）の肉眼的構造を説明できる。 ポイント： 尿路の粘膜上皮は移行上皮、筋層は平滑筋である。</p> <p>泌尿器5 膀胱と骨盤底 [到達目標] 膀胱壁の特徴、骨盤底の構造および排尿機構を説明できる。 ポイント： 膀胱・子宮・直腸の順で前後に配列する。</p> <p>泌尿器6 尿調節 [到達目標] 傍糸球体装置の構造を説明できる。 内分泌系との関連作用部位と、尿量調節を説明できる。 ポイント： 再吸収に働くポンプは、尿細管および集合管上皮にある。 レニンアンギオテンシンアルドステロン系・バゾプレッシン・アクアポリン、 これらはそれぞれ、どこから分泌され、どこに作用するのか。</p> <p>期末定期試験を実施する。試験範囲：消化器系(1-10)・泌尿器系(1-6)。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書および配布プリントを精読し、トレーニングノートを作成し、自分なりに理解を深めるためのサブノートを作る。わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして、とことん解決すること。
教科書	「読んでわかる解剖生理学」竹内修二著 医学教育出版 「解剖学トレーニングノート」竹内修二著 医学教育出版
参考書	「鍼灸師・柔整師のための局所解剖学アトラス」北村清一郎・熊本賢三 編 南江堂 「カラー人体解剖学」井上貴央 監訳 西村書店 「入門組織学」牛木辰男著 南江堂
成績評価	成績評価は原則として筆記試験のみとし、総論・循環器系1-8・呼吸器系1-5と、消化器系1-10・泌尿器系1-6の2回に分けて試験を実施し、それぞれの試験が60%以上取れたものを合格とし、評価を行う。なお、出席率60%未満の者には受験資格を与えないことがあるので注意すること。また、習熟度をみるため、自作の自習ノートを採用評価します。各自ノート作りに励んで下さい。評価のポイントは、あなたがどこまで深く理解しているか、です。
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○ 榎原 智美 研究室 : 5号館1階 メールアドレス : s_ebara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 15:00-17:00
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
熊本 賢三, 榎原 智美			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>骨学実習では、骨学実習で人体の骨格と関節の構造ならびに骨格筋の起始・停止部を骨標本の観察によりを理解し、関節の動きと骨格筋の運動についても総合的に学習する。組織学実習では種々の器官の組織構造を顕微鏡標本を観察することにより、人体の多様な組織構造が4つの基本的な組織構造よりなることを認識する。</p> <p>1. 骨学実習で骨格を構成する骨の名称と部位名、関節の名称と構造を理解する。 2. 4つの組織の組織学的特徴を理解し、さまざまな器官における組織像を観察して組織構造を理解する。 3. 鍼灸治療を行う場となる皮膚について組織像を観察し、その層構造、感覚受容器および血管や神経の走行について理解する。</p>		
授業計画	組織学 1	<p>組織学概論 ・ 上皮組織（被蓋上皮・腺上皮） 1</p> <p>[到達目標] 組織は4種類に区分され、それらにより各部位が構築されていることを把握する。 種々の上皮組織を観察し、組織学的特徴をスケッチする。 観察対象：単層扁平上皮（血管、ボーマン嚢）、単層立方上皮（尿細管）、 単層円柱上皮（胃、胆嚢）、角化・非角化重層扁平上皮（頬部皮膚・粘膜） ポイント：上皮組織の定義を理解する。 被蓋上皮の種類は何で決まる？</p>	
	組織学 2	<p>上皮組織（被蓋上皮・腺上皮） 2</p> <p>[到達目標] 種々の上皮組織を観察し、組織学的特徴をスケッチする。 種々の腺組織（内分泌腺を含む）を観察し、スケッチする。 観察対象：粘液腺、漿液腺、混合腺、汗腺、脂腺、睪外分泌部、ランゲルハンス島 ポイント：腺上皮の定義を理解する。 外分泌と内分泌を区別して理解する。</p>	
	組織学 3	<p>支持組織</p> <p>[到達目標] 結合組織、軟骨組織、骨組織の組織学的特徴を理解し、スケッチする。 観察対象：密線維性結合組織（真皮）、硝子・弾性軟骨（気管軟骨・耳介軟骨）、骨組織 ポイント：支持組織の定義と構成要素を理解する。 支持組織の種類は何で決まる？</p>	
	組織学 4	<p>筋組織</p> <p>[到達目標] 骨格筋、平滑筋、心筋、の組織学的特徴を理解し、スケッチする。 観察対象：骨格筋（舌、?部表情筋）、平滑筋（血管、小腸） ポイント：筋組織の定義を理解する。 筋組織の種類は何で決まる？</p>	
	組織学 5	<p>神経組織</p> <p>[到達目標] 中枢神経組織と末梢神経組織の組織学的特徴を理解し、スケッチする。 観察対象：大脳皮質、脊髄、脊髄神経節、喉頭粘膜、大腸壁神経叢 ポイント：神経組織の定義を理解する。 神経組織の種類は何で決まる？</p>	
	組織学 6	<p>皮膚組織 1</p> <p>[到達目標] 皮膚の層構造（表皮・真皮・皮下組織）を把握し、スケッチする。 種々の皮膚組織を観察し、各層の厚さや付属装置の分布を比較する。 観察対象：腹部・頭部・頬部・指腹・乳頭・腋窩 ポイント：皮膚の三層構造の名称とそれぞれの構成組織を理解する。 種々の皮膚組織の類似と相違を把握する。</p>	
	組織学 7	<p>皮膚組織 2</p> <p>[到達目標] 皮膚、皮膚の感覚受容器を観察、理解し、説明できるようになる。 マイスナー小体とパチニ小体を区別してとらえ、スケッチする。 観察対象：指腹 ポイント：皮膚の感覚受容器はどこにどう分布しているか。 組織学実習のスケッチをまとめて提出する。</p>	
	骨学 1	<p>上肢の骨 1</p> <p>[到達目標] 上肢を構成する骨の名称、特徴と肩関節の構造について説明できる。 ポイント：鎖骨, 肩甲骨, 上腕骨の各部名称が明記できる。</p>	
	骨学 2	<p>上肢の骨 2</p> <p>[到達目標] 上肢を構成する骨の名称、特徴と肘関節、橈骨手根関節の構造について説明できる。 ポイント：橈骨, 尺骨, 手の骨の各部名称が明記できる。 骨学実習 1 と 2 に関する小テストを行う。</p>	
	骨学 3	<p>下肢の骨 1</p>	

	<p>[到達目標] 下肢を構成する骨の名称、特徴と股関節の構造が説明できる。 ポイント： 骨盤を理解する。寛骨, 大腿骨の各部名称が明記できる。</p> <p>骨学 4 下肢の骨 2</p> <p>[到達目標] 下肢を構成する骨の名称、特徴と膝関節、距腿関節の構造について説明できる。 ポイント： 脛骨, 腓骨, 足の骨 の各部名称が明記できる。</p> <p>骨学実習 3 と 4 に関する小テストを行う。</p> <p>骨学 5 体幹の骨 1</p> <p>[到達目標] 各椎骨、肋骨、胸骨の形と特徴と環椎後頭関節、環軸関節と椎間関節について説明できる。 ポイント： 体幹の骨格を把握し、各骨の種類と各部名称が明記できる</p> <p>骨学 6 体幹の骨 2</p> <p>[到達目標] 脊柱、胸郭の構造と呼吸運動、さらに肋椎関節が説明ができる。 ポイント： 体幹の骨格と胸郭の構成が明記できる。</p> <p>骨学実習 5 と 6 に関する小テストを行う。</p> <p>骨学 7 頭蓋の骨 1</p> <p>[到達目標] 頭蓋を構成する骨の名称、特徴および顎関節が説明できる。 ポイント： 外頭蓋底、内頭蓋底、顔面頭蓋の各部名称が明記できる。</p> <p>骨学 8 頭蓋の骨 2</p> <p>[到達目標] 頭蓋を構成する骨の名称、特徴が説明できる。 ポイント： 外頭蓋底、内頭蓋底、顔面頭蓋 の各部名称が明記できる。</p> <p>骨学実習 7 と 8 に関する小テストを行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	事前に実習要項、教科書およびこれまでに配布されたプリントをよく読んで理解し、実習にのぞむこと。
教科書	「読んでわかる解剖生理学」竹内修二著 医学教育出版 「解剖学トレーニングノート」竹内修二著 医学教育出版
参考書	「鍼灸師・柔整師のための局所解剖学カラーアトラス」北村清一郎・熊本賢三編 南江堂 「カラー人体解剖学」井上貴央監訳 西村書店 「入門組織学」牛木辰男著 南江堂
成績評価	骨学実習は出席 (20%) と小テスト (80%)、組織学実習は出席 (10%)、小テスト (30%) およびスケッチレポート (60%)、さらに両実習における質疑応答などの積極的な参加をも含めて総合評価する。原則として各時間毎に基本課題習得の評価を行う。期限までに全課題をクリアすること。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○熊本 賢三 研究室 : 5号館1階 メールアドレス : k_kumamoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 15:00-17:00</p> <p>担当教員名 : 榎原 智美 研究室 : 5号館1階 メールアドレス : s_ebara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 15:00-17:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
岡田 薫			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>【教育目標】生体を構成する細胞のはたらきや、循環、呼吸、排泄、消化吸収、代謝・体温、内分泌系の働きを理解し、生体の恒常性について学ぶことを目的とします。</p> <p>【教育概要】植物機能人体機能学では、循環・呼吸・排泄など生命を維持する機能および生体を構成する物質を得るための消化吸収や代謝、生体の恒常性維持に必要な内分泌器官の働きについて学習します。</p>		
授業計画	第一回	分子生理と細胞生理（１） 【到達目標】 生体分子、細胞膜、細胞小器官の働きについて説明できる 分子生理と細胞生理（２） 【到達目標】 体液、物質移動について説明できる	
	第二回	血液（１） 【到達目標】 血液の組成および働きについて説明できる 血液（２） 【到達目標】 血液凝固のしくみと血液型について説明できる	
	第三回	循環（１） 【到達目標】 動脈、静脈、リンパ系の役割について説明できる 循環（２） 【到達目標】 心臓の働きや心電図について説明できる	
	第四回	循環（３） 【到達目標】 心周期、血圧、循環調節について説明できる 循環（４） 【到達目標】 特殊な部位の循環についてその特徴を説明できる	
	第五回	呼吸（１） 【到達目標】 呼吸運動および肺容量について説明できる 呼吸（２） 【到達目標】 ガス交換およびガス運搬、酸塩基平衡、呼吸調節のしくみが説明できる	
	第六回	腎臓と体液（１） 【到達目標】 尿生成（糸球体ろ過、再吸収、分泌）およびクリアランスについて説明できる 腎臓と体液（２） 【到達目標】 体液（量、浸透圧、pH）調節について説明できる 排尿について説明できる	
	第七回	まとめ １～６回の内容を復習	
	第八回	まとめ １～６回の内容を復習 中間試験	
	第九回	消化と吸収（１） 【到達目標】 消化管の構成および調節について説明できる 口腔、胃での消化のしくみについて説明できる 消化と吸収（２） 【到達目標】 膵臓、胆のうの働きについて説明できる	
	第十回	消化と吸収（３） 【到達目標】 小腸、大腸での消化・吸収のしくみについて説明できる 消化と吸収（４）	

	<p>【到達目標】 肝臓の働きについて説明できる 栄養素の働きについて説明できる</p> <p>第十一回 代謝</p> <p>【到達目標】 代謝（解糖系、有酸素系）について説明できる 基礎代謝、呼吸商について説明できる 体温</p> <p>第十二回 【到達目標】 熱産生および熱放散について説明できる 体温調節について説明できる 内分泌（1）</p> <p>【到達目標】 ホルモンの種類、作用機序、階層支配、負のフィードバック調節について説明できる 視床下部、下垂体ホルモンの作用および分泌調節について説明できる 内分泌（2）</p> <p>第十三回 【到達目標】 甲状腺、副甲状腺から分泌されるホルモンの作用、分泌調節について説明できる 内分泌（3）</p> <p>【到達目標】 膵臓、副腎皮質、副腎髄質から分泌されるホルモンの作用、分泌調節について説明できる 内分泌（4）</p> <p>第十四回 【到達目標】 性ホルモンの作用、分泌調節について説明できる まとめ 9～13回の内容を復習</p> <p>第十五回 期末試験 まとめ 9～13回の内容を復習 期末試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布された資料は、講義ノートとともにきちんと整理してください。 毎回、前講義の内容を確認する小テストを行うので必ず復習しておいてください。
教科書	なし
参考書	『人体の構造と機能』 佐藤昭夫、佐伯由香（医歯薬出版） 『Clinical生体機能学』 當瀬規嗣（南山堂） 『からだの構造と機能』 三木明德、井上貴央（西村書店） 『生理学』 社団法人東洋療法学校協会 編（医歯薬出版）
成績評価	中間および期末のまとめ期間中に筆記試験を実施します。 成績評価は、筆記試験100%とします。 本試験を適切な理由なくして欠席した場合は、追試験を行いません。 必ず試験日より1週間以内に、欠席届を提出してください。
担当教員の基本情報	研究室 : 5号館3F 生理学教室 メールアドレス : k_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:00-17:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
角谷 英治			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	鍼灸技術学総論では鍼技術、灸技術の実習を行う上で必要な以下の項目について理解し習得する。1. 鍼施術の起源、2. 古代及び現代の鍼、3. 刺鍼方式の種類と方法、4. 衛生的施術に関する知識、5. 鍼施術の過誤と副作用、7. 灸療法の起源、8. 艾の特徴、9. 現代灸法、10. 灸施術の過誤と副作用。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス～鍼施術の起源と鍼器具の変遷 鍼施術の起源を理解し古代九鍼の種類・形態・用途を理解する。</p> <p>2回目 現代の鍼と現行刺鍼手技 現代の鍼の形状、材質、サイズおよび毫鍼の各部の名称と鍼尖端の形状について説明でき、現行の刺鍼手順について理解する。</p> <p>3回目 衛生的な鍼施術の手順 手洗いを含めた衛生的な鍼施術について理解する。</p> <p>4回目 鍼施術の過誤と副作用 鍼施術上の注意点、過誤、副作用の予防と処置について理解する。</p> <p>5回目 灸療法の起源と艾の特徴 灸療法の歴史および、艾の原料や成分、薬理効果、良質艾と粗悪艾のちがいについて理解する。</p> <p>6回目 現代灸法 現代の灸の種類と特徴、灸の刺激量の調節、燃焼時の温度変化について理解する。</p> <p>7回目 灸施術の過誤と副作用 灸施術上の注意点、過誤、副作用の予防と処置について理解する。</p> <p>8回目 まとめ 鍼施術の起源と鍼器具の変遷、「現代の鍼と現行刺鍼手技」、「衛生的な鍼施術の手順」、「鍼施術の過誤と副作用」、「灸療法の起源と艾の特徴」、「現代灸法」「灸施術の過誤と副作用」についてのまとめ。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を熟読した上での受講が望ましい。講義後は配布資料等も含めて復習し、不明な点は翌週の講義前後の時間を利用して教員に質問し確認する。 ・「鍼施術の起源と鍼器具の変遷」、「現代の鍼と現行刺鍼手技」、「衛生的な鍼施術の手順」、「鍼施術の過誤と副作用」、「灸療法の起源と艾の特徴」、「現代灸法」、「灸施術の過誤と副作用」についてまとめ、覚える。
教科書	「図解鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎昭弘（医歯薬出版）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「はりきゅう理論」教科書執筆小委員会著（医道の日本社） ・「鍼灸臨床最新科学ーメカニズムとエビデンスー」川喜田健司、矢野忠 編集（医歯薬出版）
成績評価	評価方法と評価割合（筆記試験90%，出席5%，受講態度5%）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 角谷 英治</p> <p>研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室</p> <p>メールアドレス : e_sumiya@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 金曜16:00-17:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
角谷 英治			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>入門鍼技術学実習では、鍼の基本技術の習得をはかりながら、臨床への架け橋となるべき知識と技術を習得することを目的とする。</p> <p>刺鍼練習台での刺入の練習から始め、自分の身体への刺鍼練習を行い、最終的には他者への刺鍼を安全にできるところまで行う。</p> <p>日常臨床で使用する基本的な刺鍼手技を習得する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 基本手技の再確認・刺鍼における注意点を学ぶ [到達目標] 刺鍼技術を習得する前段として、「鍼灸技術学」で学んだ事項の再確認を行う。 ・刺鍼の基本手技と手順を確認。 ・安全に刺鍼を行うための注意点を確認する。 [備考] 刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>2回目 手洗い・消毒・鍼の過誤・鍼の安全性を学ぶ [到達目標] ・鍼治療に必要な衛生概念、および鍼の安全性を確認する。 ・鍼治療による過誤事例から、その危険性を認識する。(安全対策) [備考] 鍼治療に必要な衛生概念についてテキストによる予習と復習をすること。</p> <p>3回目 基本的な刺鍼技術を学ぶ [到達目標] ・刺鍼練習台を使い、単刺術による直刺刺入の練習を行う。 [備考] テキストによる予習と復習および、刺鍼練習台を用いた技術トレーニングをすること。</p> <p>4回目 基本的な刺鍼技術を学ぶ [到達目標] ・刺鍼練習台を使い、単刺術による直刺刺入の練習を行う。 ・一定の刺入深度での刺鍼を練習する。 [備考] テキストによる予習と復習および、刺鍼練習台を用いた技術トレーニングをすること。</p> <p>5回目 基本的な刺鍼技術を学ぶ [到達目標] ・刺鍼練習台を使い、旋撚法と送り込み法による直刺刺入の練習を行う。 ・一定の刺入深度、角度での刺鍼を練習する。 ・単刺術による斜刺刺入の練習を行う。 [備考] テキストによる予習と復習および、刺鍼練習台を用いた技術トレーニングをすること。</p> <p>6回目 身体への刺鍼を行い、安全な刺鍼技術を学ぶ [到達目標] ・自分の身体に対しての刺鍼練習（単刺術・旋撚術）。 ・身体刺鍼に際しての消毒法・清潔操作の再確認。 ・一定の刺入深度での刺鍼を練習する。 ・材質、太さ、長さの異なる鍼での刺鍼感覚の違いを、体験・観察する。 [備考] テキストによる予習と復習および、刺鍼練習台を用いた技術トレーニングをすること。</p> <p>7回目 身体への刺鍼を行い、安全な刺鍼技術を学ぶ。また鍼の十七術の中で雀啄術、間欠術、屋漏術、随鍼術、振せん術の手法を学ぶ [到達目標] ・刺鍼練習台および自分の身体に対しての刺鍼練習（雀啄術、間欠術、屋漏術、随鍼術、振せん術）。 ・一定の刺入深度での刺鍼を練習する。 [備考] テキストを用いての十七術に関する予習と復習および、刺鍼練習台を用いた技術トレーニングをすること。</p> <p>8回目 身体への刺鍼を行い、安全な刺鍼技術を学ぶ。また鍼の十七術の中で置鍼術、旋撚術、回旋術、乱鍼術、副刺激術、示指打法、随鍼術の手法を学ぶ [到達目標] ・刺鍼練習台および自分の身体に対しての刺鍼練習（置鍼術、旋撚術、回旋術、乱鍼術、副刺激術、示指打法、随鍼術）。 ・一定の刺入深度での刺鍼を練習する。 [備考] テキストを用いての十七術に関する予習と復習および、刺鍼練習台を用いた技術トレーニングをすること。</p> <p>9回目 身体への刺鍼を行い、安全な刺鍼技術を学ぶ。また鍼の十七術の中で内調術、細指術、管散術、刺鍼転向法、刺鍼転移法の手法を学ぶ [到達目標] ・刺鍼練習台および自分の身体に対しての刺鍼練習（内調術、細指術、管散術、刺鍼転向法、刺鍼転移法）。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の刺入深度での刺鍼を練習する。 <p>[備考] テキストを用いての十七術に関する予習と復習および、刺鍼練習台を用いた技術トレーニングをすること。</p> <p>10回目 身体への刺鍼を行い、安全な刺鍼技術を学ぶ。また鍼の十七術の手法を学ぶ。</p> <p>[到達目標] ・自分の身体に対しての刺鍼練習 ・直刺刺入と斜刺刺入 ・一定の刺入深度での刺鍼を練習する。</p> <p>[備考] テキストを用いての総合的な予習と復習および、刺鍼練習台を用いた技術トレーニングをすること。</p> <p>11回目 身体への刺鍼を行い、安全な刺鍼技術を学ぶ。また鍼の十七術の手法を学ぶ。</p> <p>[到達目標] ・他者の身体に対しての刺鍼練習（単刺術・旋撚術） ・直刺刺入と斜刺刺入 ・一定の刺入深度、角度での刺鍼を練習する。</p> <p>[備考] テキストを用いての総合的な予習と復習および、刺鍼練習台を用いた技術トレーニングをすること。</p> <p>12回目 見極め実技評価</p> <p>[到達目標] 実技の習得度について形式的に評価を行う。</p> <p>[備考] テキストを用いての総合的な予習と復習および、刺鍼練習台を用いた技術トレーニングをすること。</p> <p>13回目 見極め実技評価</p> <p>[到達目標] 実技の習得度について形式的に評価を行う。</p> <p>[備考] テキストを用いての総合的な予習と復習および、刺鍼練習台を用いた技術トレーニングをすること。</p> <p>14回目 身体への刺鍼</p> <p>[到達目標] 身体への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって刺入できる</p> <p>[備考] テキストを用いての総合的な予習と復習および、刺鍼練習台を用いた技術トレーニングをすること。</p> <p>15回目 身体への刺鍼。まとめと総括</p> <p>[到達目標] 身体への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって刺入できる。 当授業を振り返り、総括する中で、重要事項を理解する。</p> <p>[備考] テキストを用いての総合的な予習と復習および、刺鍼練習台を用いた技術トレーニングをすること。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	テキストによる予習と復習を行うこと。
教科書	「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」 尾崎 昭弘著 (医歯薬出版株式会社)
参考書	「鍼灸医療安全ガイドライン」 尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 (医歯薬出版株式会社)
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価は実技を行う。 ・ 成績判定は、実技60点以上で出席基準を満たした者を合格とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 角谷英治 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : e_sumiya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日 16:00～17:00</p> <p>担当教員名 : 谷口 博志 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : h_taniguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日16:00-17:00</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
谷口 博志			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	基礎鍼技術学実習では、常用穴に対する身体各部への刺鍼に際しての注意点（刺入深度、角度など）や、鍼による過誤や副作用について理解する。その上で、入門鍼技術学実習で習得した基本的鍼技術を応用して、他者に対する身体各部への安全かつ衛生的な鍼施術を行える技術を修得することを目標とする。
授業計画	<p>1 初回ガイダンスを通して、当科目の趣旨を理解する。また、衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を習得し、他者への身体刺鍼（下肢）を行なう。 ・衛生的刺鍼技術を身につける。 ・下肢への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって目的の深度と角度で刺入できる。</p> <p>2 身体刺鍼（上・下肢1）を行なう。 上・下肢への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって目的の深度と角度で刺入できる。</p> <p>3 身体刺鍼（上・下肢2）を行なう。 上・下肢への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって目的の深度と角度で刺入できる。</p> <p>4 身体刺鍼（上・下肢3）を行なう。 上・下肢への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって目的の深度と角度で刺入できる。</p> <p>5 身体刺鍼（復習1）を行なう。 ・衛生的刺鍼技術を復習する。 ・前回までに学習した上・下肢への刺鍼における注意点を再度確認し、安全かつ衛生的な手技によって目的の深度と角度で刺入できる。</p> <p>6 身体刺鍼（頸部および肩部）を行なう。 後頸部および肩部への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって目的の深度と角度で刺入できる。</p> <p>7 身体刺鍼（肩背部）を行なう。 肩背部への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって目的の深度と角度で刺入できる。</p> <p>8 身体刺鍼（腰部）を行なう。 肩背部への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって目的の深度と角度で刺入できる。</p> <p>9 身体刺鍼（復習2）を行なう。 ・衛生的刺鍼技術を復習する。 ・前回までに学習した頸部および肩部、肩背部、腰部への刺鍼における注意点を再度確認し、安全かつ衛生的な手技によって目的の深度と角度で刺入できる。</p> <p>10 身体刺鍼（腹部）を行なう。 腹部への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって目的の深度と角度で刺入できる。</p> <p>11 身体刺鍼（頭・顔面部）を行う。 頭・顔面部への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって目的の深度と角度で刺入できる。</p> <p>12 身体刺鍼（復習3）を行う。 ・衛生的刺鍼技術を復習する。 ・前回までに学習した頭・顔面部への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって目的の深度と角度で刺入できる。</p> <p>13 まとめ1 これまでに学習した衛生的刺鍼技術及び身体各部への刺鍼の総復習を行う。使用頻度の高い経穴について、安全かつ衛生的な手技によって、目的の深度と角度で刺入できる。また、臨床への対応ができるよう所定時間内の刺鍼ができる。</p> <p>14 まとめ2 安全かつ衛生的刺鍼技術、および刺鍼技術が一定の水準に到達しているかチェックする。</p> <p>15 まとめ3 安全かつ衛生的刺鍼技術、および刺鍼技術が一定の水準に到達しているかチェックする。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布教材（プリント）及び教科書による予習・復習また自己に対する技術トレーニングを積み、授業に臨むこと。学習内容で不明な点があれば教員に積極的に質問し、なるべく授業時間内に解決すること。
教科書	作成した印刷教材（プリント）を配布する。 「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」 尾崎 昭弘著 （医歯薬出版株式会社）
参考書	「鍼灸医療安全ガイドライン」 尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 （医歯薬出版株式会社）
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は実技試験を行う。 ・成績判定は、実技試験が60点以上で出席基準をみたした者を合格とする。

担当教員の基本情報	担当教員名 : 角谷英治 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : e_sumiya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日 15:10~16:40 担当教員名 : 谷口博志 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : h_taniguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日 16:00~17:00
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	1	必修
担当教員			
福田文彦、福田晋平			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>経絡経穴学は、鍼灸医学の基本をなすものであり他の授業科目との関連が深い。例えば、経穴部位の局所解剖、作用機序（メカニズム）、診断、治療上での経穴 運用など、現代 医学系の解剖学、生理学等をはじめ、東洋医学概論、鍼灸診断学、臨床鍼灸医学等の関連があり、基礎的、臨床的理解が必要である。</p> <p>そこで、経絡経穴学基礎では、下記の項目について学習し、理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各経絡が人体のどの部位を走行しているか学習し、理解する。 ② 各経穴が何経上にあるか学習し、理解する。 ③ 各経絡に所属する個々の経穴の部位、取穴および局所解剖について学習、理解する。 <p>経絡経穴学基礎では、経絡系統、各経絡の流注、経穴名、部位、取穴法、要穴表等をすべて覚える事を目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 経絡系統 十二経絡 [到達目標] 1. 経絡系統が説明できる 2. 十二経絡を説明できる [授業時間外学習] 1. 経絡系統を説明できるようにする 2. 経絡系統に出てくる経脈・絡脈に含まれる経絡名等をすべて覚え漢字で書けるようにする。</p> <p>2回目 人体の尺度 [到達目標] 1. 同身寸法・骨度法を説明ができる。同身寸法と骨度法の違いを説明できる 2. 各部位の同身寸法の寸法を説明できる。各部位の骨度法の寸法を説明できる [授業時間外学習] 1. 骨度法・同身寸法の違いを理解し説明できるようにする。 2. 骨度法の寸法を覚える 3. 同身寸法の寸法を覚える</p> <p>3回目 要穴表 [到達目標] 1. 要穴表（五行穴・五要穴・四総穴・八総穴・八会穴等）を説明できる [授業時間外学習] 1. 要穴表を覚える</p> <p>4回目 督脈 [到達目標] 1. 督脈の流注を説明できる 2. 督脈の各経穴の部位および取穴法を説明できる [授業時間外学習] 1. 流注を整理し、覚える 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. サブノートを作成させる</p> <p>5回目 任脈 [到達目標] 1. 任脈の流注を説明できる 2. 任脈の各経穴の部位および取穴法を説明できる [授業時間外学習] 1. 流注を整理し、覚える 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. サブノートを作成させる</p> <p>6回目 手太陰肺経 [到達目標] 1. 手の陽明大腸経の流注を説明できる 2. 手の陽明大腸経の各経穴の部位および取穴法を説明できる [授業時間外学習] 1. 流注を整理し、覚える 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. サブノートを作成させる</p> <p>7回目 手陽明大腸経 [到達目標] 1. 手の陽明大腸経の流注を説明できる 2. 手の陽明大腸経の各経穴の部位および取穴法を説明できる [授業時間外学習] 1. 流注を整理し、覚える 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. サブノートを作成させる</p> <p>8回目 足陽明胃経1 [到達目標] 1. 足陽明胃経の流注を説明できる</p>

	<p>2. 足陽明胃経の各経穴の部位および取穴法を説明できる [授業時間外学習]</p> <p>1. 流注を整理し、覚える 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. サブノートを作成させる</p> <p>足陽明胃経2 [到達目標]</p> <p>1. 足陽明胃経の各経穴の部位および取穴法を説明できる [授業時間外学習]</p> <p>1. 経絡系統を説明できるようにする 1. 流注を整理し、覚える 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. サブノートを作成させる</p> <p>足太陰脾経 [到達目標]</p> <p>1. 足太陰脾経の流注を説明できる 2. 足太陰脾経の各経穴の部位および取穴法を説明できる [授業時間外学習]</p> <p>1. 流注を整理し、覚える 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. サブノートを作成させる</p> <p>手少陰心経 [到達目標]</p> <p>1. 手少陰心経の流注を説明できる 2. 手少陰心経の経穴の取穴法を説明できる [授業時間外学習]</p> <p>1. 流注を整理し、覚える 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. サブノートを作成させる</p> <p>手太陽小腸経 [到達目標]</p> <p>1. 手少陰心経の流注を説明できる 2. 手少陰心経の経穴の取穴法を説明できる [授業時間外学習]</p> <p>1. 流注を整理し、覚える 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. サブノートを作成させる</p> <p>足太陽膀胱経1 [到達目標]</p> <p>1. 足太陽膀胱経の流注を説明できる 2. 足太陽膀胱経の各経穴の部位および取穴法を説明できる [授業時間外学習]</p> <p>1. 流注を整理し、覚える 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. サブノートを作成させる</p> <p>足太陽膀胱経2 [到達目標]</p> <p>1. 足太陽膀胱経の各経穴の部位および取穴法を説明できる [授業時間外学習]</p> <p>1. 流注を整理し、覚える 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. サブノートを作成させる</p> <p>まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>① 教科書を参考に、配布されるサブノートの空欄に経穴名、部位、取穴法を記載する。また、解剖の本等を参考に経穴の部位に書かれている骨・筋等を調べてくる。</p> <p>② 一定の時間内に督脈から膀胱経までの経穴名が言えるように覚える。</p>
教科書	新版 経絡経穴概論 (社) 東洋療法学校協会 編 医道の日本社 プリント配布
参考書	まんが「経穴学入門」 周 春才 著 医道の日本社 「ツボ単」 形井秀一監修 (株)エヌ・ティー・エス
成績評価	<p>① 授業回数数の3/5以上出席した者に対して評価を行う。</p> <p>② 評価は、定期試験(60点以上合格)、小テスト、サブノートの提出、出席日数等を総合して行う。</p> <p>③ 定期試験を適切な理由無くして欠席した場合は、追試験は行わない。</p> <p>④ 前年度未修得者は、補講を行い補講(補講の課題)が終了したものに對して試験を行い評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○福田文彦 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : f_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : ○福田晋平 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : 福田晋平 <sp_fukuda@meiji-u.ac.jp> オフィスアワー :</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	1	必修
担当教員			
福田文彦、福田晋平			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>経絡経穴学基礎で学習した十四経の経穴の名称、取穴法の理解を前提として下記の事項を行う。</p> <p>①身体を観察することにより、骨、筋肉の走行等を理解し、実際に体表で確認できる。</p> <p>②各経絡が人体のどの部位を走行しているかを理解し、各経穴との関係（縦・横の関係）を確認できる。</p> <p>③各経絡に所属する個々の経穴の取穴について学習し、実際に人体で正確に取穴を身につける。</p> <p>④ 設定した時間内に全経穴名が言えるよう覚える。</p>		
授業計画	1回目	ツボを取ってみよう [到達目標] 実際に経穴を取ってみよう。	
	2回目	督脈の取穴 [到達目標] 1. 督脈の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 督脈の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習) 1. サブノート、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する 3. 取穴できるように練習する	
	3回目	任脈の取穴 [到達目標] 1. 任脈の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 任脈の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習) 1. サブノート、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する 3. 取穴できるように練習する	
	4回目	手太陰肺経 [到達目標] 1. 手太陰肺経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 手太陰肺経の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習) 1. サブノート、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する 3. 取穴できるように練習する	
	5回目	手陽明大腸経 [[到達目標] 1. 手陽明大腸経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 手陽明大腸経の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習) 1. サブノート、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する 3. 取穴できるように練習する	
	6回目	足陽明胃経 1 (頭顔面部、胸腹部) [到達目標] 1. 足陽明胃経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 足陽明胃経脈の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習) 1. サブノート、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する 3. 取穴できるように練習する	
	7回目	足陽明胃経 2 (下肢) [到達目標] 1. 足陽明胃経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 足陽明胃経脈の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習) 1. サブノート、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する 3. 取穴できるように練習する	
	8回目	足太陰脾経 1 (下肢)	

	<p>[到達目標]</p> <p>1. 足太陰脾經の經穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。</p> <p>2. 足太陰脾經の流注が人体で説明できる。</p> <p>(授業時間外学習)</p> <p>1. サブノート、教科書を参考に經穴の部位及び取穴法を覚える</p> <p>2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>3. 取穴できるように練習する</p> <p>足太陰脾經 2 (腹部・胸部)</p> <p>[到達目標]</p> <p>1. 足太陰脾經の經穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。</p> <p>2. 足太陰脾經の流注が人体で説明できる。</p> <p>(授業時間外学習)</p> <p>1. サブノート、教科書を参考に經穴の部位及び取穴法を覚える</p> <p>2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>3. 取穴できるように練習する</p> <p>手少陰心經</p> <p>[到達目標]</p> <p>1. 手少陰心經の經穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。</p> <p>2. 手少陰心經の流注が人体で説明できる。</p> <p>(授業時間外学習)</p> <p>1. サブノート、教科書を参考に經穴の部位及び取穴法を覚える</p> <p>2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>3. 取穴できるように練習する</p> <p>手太陽小腸經</p> <p>[到達目標]</p> <p>1. 手太陽小腸經の經穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。</p> <p>2. 手太陽小腸經の流注が人体で説明できる。</p> <p>(授業時間外学習)</p> <p>1. サブノート、教科書を参考に經穴の部位及び取穴法を覚える</p> <p>2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>3. 取穴できるように練習する</p> <p>足太陽膀胱經 1 (頭部・顔面部)</p> <p>[到達目標]</p> <p>1. 足太陽膀胱經の經穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。</p> <p>2. 足太陽膀胱經の流注が人体で説明できる。</p> <p>(授業時間外学習)</p> <p>1. サブノート、教科書を参考に經穴の部位及び取穴法を覚える</p> <p>2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>3. 取穴できるように練習する</p> <p>足太陽膀胱經 2 (背部)</p> <p>[到達目標]</p> <p>1. 足太陽膀胱經の經穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。</p> <p>2. 足太陽膀胱經の流注が人体で説明できる。</p> <p>(授業時間外学習)</p> <p>1. サブノート、教科書を参考に經穴の部位及び取穴法を覚える</p> <p>2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>3. 取穴できるように練習する</p> <p>足太陽膀胱經 3 (下肢)</p> <p>[到達目標]</p> <p>1. 足太陽膀胱經の經穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。</p> <p>2. 足太陽膀胱經の流注が人体で説明できる。</p> <p>(授業時間外学習)</p> <p>1. サブノート、教科書を参考に經穴の部位及び取穴法を覚える</p> <p>2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>3. 取穴できるように練習する</p> <p>まとめ</p> <p>まとめ</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>① 解剖の本等を参考に經穴の部位に書かれている骨・筋等を調べてくる。サブノート、教科書の經穴部位及び取穴法を覚える。</p> <p>② わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p>
教科書	<p>新版 經絡經穴概論 (社) 東洋療法学校協会 編 医道の日本社</p> <p>プリント配布 (サブノート 經絡經穴学基礎で配布したプリント)</p>
参考書	<p>改訂版 ボディ・ナビゲーション触ってわかる身体解剖 阪本桂造 監訳 医道の日本社</p>
成績評価	<p>1. 授業回数4/5以上出席した者に対して評価を行う。</p> <p>2. 評価は、定期試験(60点以上合格)に加え、小テスト、サブノートの提出、出席日数等を総合して行う。</p> <p>3. 定期試験を適切な理由無くして欠席した場合は、追試験は行わない。</p> <p>4. 前年度未修得者は、補講を行い補講(補講の課題)が終了したものに対して試験を行い評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○福田文彦</p> <p>研究室 : 鍼灸センター2階 教員室</p> <p>メールアドレス : f_fukuda@meiji-u.ac.jp</p>

	オフィスアワー： 担当教員名 : ○福田晋平 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : 福田晋平 <sp_fukuda@meiji-u.ac.jp> オフィスアワー：
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>伝統鍼灸診断学は、鍼灸臨床における東洋医学の病態を把握するための診察法を学習する科目である。到達目標は、伝統鍼灸学における四診（望診・聞診・問診・切診）の意義、診察方法を理解し、四診の基本を説明できるようになることである。また、四診と基本的な病証との関連を理解できることも目標である。</p>
授業計画	<p>1 回目 伝統鍼灸学の四診/望診1 [到達目標] 伝統医学における四診と望診の概要を理解できる。顔面部、爪、小児指紋の概要が説明できる。 予習：教科書 p20-26を読む。復習：四診の概要を覚え、望診の要点を書ける。プリントの設問に答える（以下プリント復習と略す）。</p> <p>2 回目 望診2：舌診の概要と所見について [到達目標] 舌診の意義、舌色・舌形・舌態、苔色と苔の性状の概要、正常な舌所見が説明できる。 予習：教科書 p26-38を読む。復習：舌質と舌苔の所見と意義を覚え、舌所見の名を書ける。プリント復習。</p> <p>3 回目 切診1：腹診と背診 [到達目標] 腹診と背診の意義や方法が説明できる。背診の反応や漢方腹診の所見が理解でき、説明できる。 予習：教科書 p79-89を読む。復習：漢方腹診の名・意義、背診と五臓反応の位置を覚える。プリント復習。</p> <p>4 回目 切診2：切穴と切経 [到達目標] 切穴と切経の意義や方法が説明できる。ツボ反応が理解でき、説明できる。 予習：教科書 p89-92を読む。復習：原穴と経脈の名称を覚え、ツボ反応を覚える。プリント復習。</p> <p>5 回目 切診3：脈診 [到達目標] 脈診の意義や方法が説明できる。正常な脈、六祖脈と主な所見が理解でき、説明できる。 六部定位脈診の方法、配穴が理解でき、説明できる。 予習：教科書 p68-78を読む。復習：六祖脈や主な脈状の意義、脈診の六部定位の部位と配穴法を覚える。プリント復習。</p> <p>6 回目 聞診と主訴に関する問診 [到達目標] 聞診の意義、五音、五声、五臭を説明できる。 悪感・発熱、汗、痛みの問診項目を挙げられる。 予習：教科書 p46-48、49-57を読み、要点をノートに抜き出す。復習：授業メモをまとめる。</p> <p>7 回目 問診3 五臓に関する問診 [到達目標] 睡眠、飲食、二便の問診項目を挙げられる。五官、五味、五志を説明できる。 五臓の病理を理解し、特徴的な症状を挙げられる。 予習：教科書 p57-68を読み、要点をノートに抜き出す。復習：授業メモをまとめる。</p> <p>8 回目 総括：四診について [到達目標] 望聞問切の意義や方法を理解でき、説明できる。 また四診所見と病証との関連を説明できる。 望聞問切の四診に関する設問に答えられる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書を熟読し、授業内に配ったプリントで復習すること。わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ担当教員に質問したりして解決すること。
教科書	新しい鍼灸診療 北出利勝編集（医歯薬出版社）
参考書	東洋医学概論、東洋療法学校協会、医道の日本社 鍼灸学〔基礎編〕 東洋学術出版社
成績評価	1. 授業回数の5分の3以上出席した者に対して評価を行う。 2. 評価割合（筆記試験80%、小テスト10%、レポート評価10%等を総合して行う。 なお、小テストやレポート評価の割合は実施した回数にて、各10%内で配分する。
担当教員の基本情報	担当教員名：和辻 直 研究室：附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス：t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	基本的にはシラバス内容の項目で行うが、実際の講義日や時間は、祝日や出張などの関係で変更がある。1回目の講義にて日程の詳細を配布する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	この実習は、鍼灸臨床における四診（望診・聞診・問診・切診）の技術を習得する科目である。その上で所見を正しく取ることができるようになることまでを目的とする。知識面では所見の意味と病証との関連を理解する。情意領域としては、臨床における診察態度（清潔な身だしなみ、患者への心遣い、言葉遣い）を身につけることも目的とする。		
授業計画	1回目	ガイダンス、伝統鍼灸学の四診について [到達目標] 四診の流れを説明できる。患者を診る際の心構えを説明できる。手本をメモできる。 [備考] 爪は短くし、清潔な白衣に名札を付けて参加する。以後同様。	
	2回目	望診1：舌診（舌苔の診察） [到達目標] 舌診の目的を説明できる。舌苔の色、形を望診し、所見をカルテに正しく記載できる。 [備考] 復習：カルテに空白が無いように記載しておくこと	
	3回目	望診2：舌診（舌質の診察） [到達目標] 舌診が正しい方法でできる。舌質の神色形態を望診し、所見をカルテに正しく記載できる。 [備考] 復習：カルテに空白が無いように記載しておくこと	
	4回目	望診3：体表と顔面の望診 [到達目標] 顔面診の目的を説明し、正しくできる。顔面および尺膚の神色形態を望診し、カルテに正しく記載できる。 [備考] 復習：カルテに空白が無いように記載すること	
	5回目	切診1：腹診 [到達目標] 腹診の目的を説明し、正しい方法でできる。 腹診所見をカルテに正しく記載できる。 [備考] 復習：カルテに空白が無いように記載すること	
	6回目	切診2：背診 [到達目標] 背部と腹部を正しい順序で切診ができる。 得られた所見をカルテに正しく記載できる。 [備考] 復習：カルテに空白が無いように記載すること	
	7回目	切診3：切経と切穴 [到達目標] 切経を正しくできる。原穴の診察ができる。 得られた所見をカルテに正しく記載できる。 [備考] 復習：カルテに空白が無いように記載すること	
	8回目	望診と切診のまとめ [到達目標] 舌診、顔面診、腹診、背診、切経、原穴診ができる。 [備考] 復習：カルテに空白が無いように記載すること	
	9回目	切診3：脈診（脈状の診察） [到達目標] 脈状診が正しくできる。六祖脈を正しく答えることができ、カルテに正しく記載できる。 [備考] 復習：カルテに空白が無いように記載すること	
	10回目	切診4：脈診（脈差の診察） [到達目標] 六部定位の比較脈診が正しくできる。六部定位の虚実を正しく答えることができ、カルテが記載できる。	

	<p>11回目</p> <p>[備考] 復習：カルテに空白が無いように記載すること 問診1：主訴に関する問診 [到達目標] 主訴に対する問診ができる。 問診内容をメモし、カルテにまとめることができる。</p> <p>12回目</p> <p>[備考] 宿題：五臓関連問診プリントを提出 問診2：十問歌の問診問診2：十問歌の問診 [到達目標] 寒熱、汗、睡眠、飲食、二便について問診できる。 得られた結果を正しくカルテに書くことができる。</p> <p>13回目</p> <p>[備考] 復習：カルテに空白が無いように記載すること 問診3：五臓に関する問診 [到達目標] 証を確定するための問診ができる。</p> <p>14回目</p> <p>[備考] 復習：カルテに空白が無いように記載すること 形成評価4：四診のまとめ [到達目標] 主訴と十問歌の問診→望診→切診→証確定のための問診が時間内に正しくでき、カルテ記載できる。</p> <p>15回目</p> <p>[備考] 復習：カルテに空白が無いように記載すること 総括的実技のまとめ [到達目標] 四診を説明しながらできる</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	実習で使用したカルテに空欄がないよう復習時に書込をすること。 伝統鍼灸診断学(講義)が予習となるので、覚えてくること。
教科書	「新版 東洋医学概論」 東洋療法学校協会編 教科書執筆小委員会 (医道の日本社)
参考書	「鍼灸学 基礎編」 日中共同編集 (東洋学術出版社)
成績評価	1. 授業回数の5分の4以上出席した者に対して評価を行う。白衣または名札の不備は出席を認めない。 2. 評価は、実技試験(精神運動領域)、筆記試験(認知領域)、出席日数と実習態度および診察マナー、提出物(情意領域)等を総合して行う。 3. 評価点数=(総括的実技試験の点数max90)+(実習態度・提出物点数max10)、及び出欠状況で総合的に評価する。 総合評価の点数が80以上を優、70以上80未満を良、60以上70未満を可とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 和辻 直 研究室 : 附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
森 利夫			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	複雑な現代社会で生活を送るために、健康は基本的に自分で管理し守るべきものである。近年、社会人の健康管理への関心も高く、健康に関する情報が錯綜する今、健康を維持・増進するための正しい知識を持つ必要がある。健康の三原則について学び、現在の自分の生活を見直すことから始める。		
授業計画	1回目	オリエンテーション 健康の概念 健康とは [到達目標] 健康についての理解ができる	
	2回目	[備考] 新聞の健康関連を探す 現代社会と健康 [到達目標] 現代社会の状況が理解でき対応策を考えることができる	
	3回目	生活習慣病とその予防 [到達目標] 生活習慣病が理解できる	
	4回目	[備考]新聞の健康関連記事を探す 新聞の健康関連を探す ヘルスプロモーションとわが国の取り組み [到達目標] 健康日本2 1が理解できる	
	5回目	体力の考え方 体力とは [到達目標] 体力とは何かが理解できる	
	6回目	健康増進のための方法論・健康の三原則 [到達目標] 健康の三原則が理解できる	
	7回目	健康と栄養（1） [到達目標] 食品の栄養成分が理解できる	
	8回目	[備考] 食品の栄養成分表を集める 健康と栄養（2） [到達目標] 栄養を考えた食事に関心を持つことができる	
	9回目	肥満とその予防 [到達目標] 肥満についての理解と予防がわかる	
	10回目	健康と運動 [到達目標] 健康と運動の関係が理解できる	
	11回目	休養：ストレス解消法 [到達目標] 休養の方法が理解できる	
	12回目	嗜好品（タバコ、アルコール、コーヒー等）について [到達目標] 嗜好品の影響について理解できる	
	13回目	[備考] 嗜好品の成分を調べる ドーピング、薬物について [到達目標] ドーピング・薬物についての危険性を理解できる	
	14回目	生涯スポーツについて [到達目標] 生涯スポーツの必要性が理解できる	
	15回目	健康・スポーツをめぐる現状と今後の課題 [到達目標] 現状と今後の課題が理解できる	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義のプリントを復習すること		

教科書	使用しない
参考書	健康運動指導のための「健康管理概論」中村栄太郎編 杏林書院
成績評価	毎時間の授業終了時の小テスト(30%)、課題提出(新聞の切り抜き等)(20%)、最終試験(50%)で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 森 利夫 研究室 : 広報推進室 メールアドレス : to_mori@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
池本敬博			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	1. ウォーキング・ジョギングを中心に陸上競技を通して、自己の健康管理とに活かせる知識を学ぶ。 2. 生活習慣病予防と改善のための健康運動の基礎と楽しさを理解し、体力測定方法を学ぶ。 3. 地域住民との合同健康ウォーキングを通してコミュニケーション方法を学ぶ。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス ウォーキング・ジョギングを中心に陸上競技を通して、心肺機能の向上から生活習慣病の予防と改善のための運動実践と体力測定方法を学ぶ。 地域住民との合同健康ウォーキング実践を通してコミュニケーション方法を学ぶ。</p> <p>2回目 ウォーキング1 健康ウォーキング理論 屋外ウォーキング1 (コースA) ウォーキングの目的・効果・強度・頻度・注意事項・フォーム・スピードを理解する。</p> <p>3回目 ウォーキング2 屋外ウォーキング2 (コースB) 持久力向上を目的とした心肺持久力機能の向上を目指す。</p> <p>4回目 ウォーキング3 屋外ウォーキング3 (コースC) 持久力向上を目的とした心肺持久力機能の向上を目指す。</p> <p>5回目 体力測定 体力測定の方法 体力測定を通して、その実施方法を理解する。</p> <p>6回目 体力測定 体力測定の結果と評価 体力測定結果を用いて、評価法を理解する。</p> <p>7回目 陸上競技(競歩) 屋内で100mウォーキングタイム測定1 ウォーキングタイム測定により、自己の歩行スピードを理解する。</p> <p>8回目 陸上競技(跳躍) 屋内で立幅跳び測定1 立幅跳び測定により、自己の脚筋力・瞬発力を理解する。</p> <p>9回目 陸上競技(投擲) 屋内で砲丸投げ測定1 室内メディシヨンボール砲丸投げ測定により、自己の投擲力・筋力を理解する。</p> <p>10回目 健康ウォーキング実践 地域住民との合同健康ウォーキング(校内コース) 地域住民との交流を通して、コミュニケーション方法を学ぶ。</p> <p>11回目 陸上競技(ハードル) ミニ・ハードル 巧緻性向上のためのミニ・ハードル走から、自己の歩行・ジョギングスピードを上げる。</p> <p>12回目 陸上競技(競歩) 屋外陸上競技場で100mウォーキングタイムを測定2 歩行スピードの向上が生活習慣病予防・健康づくりの指標となることを理解する。</p> <p>13回目 陸上競技(跳躍) 屋内で立幅跳び測定2 脚筋力・瞬発力向上が生活習慣病予防・健康づくりの指標となることを理解する。</p> <p>14回目 陸上競技(投擲) 屋内で砲丸投げ測定2 全身筋力・投擲力向上が生活習慣病予防・健康づくりの指標となることを理解する。</p> <p>15回目 まとめ 総括 陸上競技を通して「走る・跳ぶ・投げる」の3要素の重要性と、健康運動の必要性を理解する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	講義後に柔軟やストレッチを行うこと。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	成績評価は出席(75%以上)を中心にし、授業態度及び服装などを加味して評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 池本 敬博 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時

備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
浅野 敏朗			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>今日、世界中で医療情報の多くが英語でやりとりされています。グローバルな視野を持って活躍する医療人にとって、英語によるコミュニケーション能力や情報処理能力の育成は、まさに不可欠かつ緊急の課題であると言っていいでしょう。</p> <p>この科目は、医療・保健・看護にかかわる英語語彙力・読解力・表現力の習得を目指します。医療分野で頻繁に使用される基本的な語彙をできるだけ多く記憶することに努めましょう。覚えるためには、繰り返して発音したり書いたりする反復練習が大切です。また、できる限りみなさんに興味・関心をもって読んでもらえる医療に係るテキストを用意します。直読直解ができるようになること、すなわち日本語に直さないで英語の語順で理解ができるようになること、概要や要点をしっかり把握しながら読み進むことなどを当面の目標といたしましょう。さらに、医療現場で使用される英語短文表現を反復練習して身に付けることにも努力しましょう。</p>		
授業計画	第1回	<p>この科目のオリエンテーション</p> <p>〔到達目標〕 この科目の目標、内容等が理解できる。</p> <p>〔備考〕 この科目に係わる基本的な学習方法、また授業時間外における予習・復習の仕方等についても説明します。</p>	
	第2回	<p>医療分野の読み物（1）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（1） 医療分野の短文表現（1）</p>	
	第3回	<p>医療分野の読み物（2）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（2） 医療分野の短文表現（2）</p>	
	第4回	<p>医療分野の読み物（3）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（3） 医療分野の短文表現（3）</p>	
	第5回	<p>医療分野の読み物（4）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（4） 医療分野の短文表現（4）</p>	
	第6回	<p>医療分野の読み物（5）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（5） 医療分野の短文表現（5）</p>	
	第7回	<p>医療分野の読み物（6）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（6） 医療分野の短文表現（6）</p>	
	第8回	<p>医療分野の読み物（7）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（7） 医療分野の短文表現（7）</p>	
	第9回	<p>医療分野の読み物（8）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（8） 医療分野の短文表現（8）</p>	
	第10回	<p>医療分野の読み物（9）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（9） 医療分野の短文表現（9）</p>	
	第11回	<p>医療分野の読み物（10）</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（10） 医療分野の短文表現（10）</p>	

	<p>第12回 医療分野の読み物 (11) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (11) 医療分野の短文表現 (11)</p> <p>第13回 医療分野の読み物 (12) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (12) 医療分野の短文表現 (12)</p> <p>第14回 総復習 (1) 〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。 〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。</p> <p>第15回 総復習 (2) 〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。 〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	英語力の向上を目指して、授業時間外に少しでも多く予習と復習の時間を確保してください。以下は、授業時間外の学習についての留意事項です。 1) 英語に触れる機会を少しでも多くしてください。たとえ10分でも20分でも集中すればそれだけの効果があります。 2) 英語の学習の基本は、理解することと練習することです。この両方に半分ずつのエネルギーを使ってください。内容理解と反復練習のサイクルを積み重ねることにより、英語力は着実に向上していきます。 3) 与えられた英文の意味を、語彙力と構文力を使って正確に理解することがまず第一歩です。辞書を活用しながら、推測力を働かせてわからない個所の意味を把握しようとしてください。 4) 意味が理解できたら、その次は反復練習です。繰り返して音読、音読+筆写することによって、その英文をできるだけしっかりと身につけよう、覚えてしまおうとする努力が大切です。 5) 英語の学習もまずは自分から主体的に取り組む姿勢が肝心です。授業を刺激剤として意欲を活性化し、自らの力で問題解決を試み、能力・技能を身につけていこうとする積極性が大切です。
教科書	特に指定しない。(毎時間プリントを配布します)
参考書	英和辞典は授業時に必携です。
成績評価	授業参加への積極性、授業での発言・発表、提出物、そして定期試験の結果などにより総合的に評価します。とりわけ授業参加への積極性は、重要な評価の対象です。評価の内訳は目安として、授業参加 20～30%、発言・発表と提出物 10～20%、定期試験 50～70% を考えています。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 浅野敏朗 オフィスアワー : 授業後10分間
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
熊本 賢三			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>本科目では、人体の生命を維持する働きのうち、泌尿・生殖機能、内分泌、神経系および感覚器にかかわるそれぞれの器官の正常な肉眼的構造と組織・細胞学的構造を、豊富な画像や図譜を駆使して各器官系ごとに学習する。各器官の個々の機能は、各々に特徴的な各種細胞とそれらが構成する特徴的な組織構造に裏付けられ、各構造が有機的に連携して全体としての機能を担っている。個々の器官特有の形態学的知識とともに、統合的に器官系の正常構造を理解することにより、基礎医学、臨床医学の基礎を作る。以下の4項は学習する器官系における共通必須事項であり、1年生で修得した解剖学的知識を、復習、応用して理解を深める必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各器官系に属する器官を明確に列挙し、区分できること。 2. 各器官の形態学的特徴（肉眼的特徴、組織像と所属細胞の特徴）を解説できること。 3. 身体全体の局所解剖を理解すること。 4. 各器官系の機能を、各器官の形態学的特徴に基づき、概説できること。 		
授業計画	内分泌1	<p>内分泌概論 内分泌腺の構造と分類</p> <p>[到達目標] 内分泌腺の種類、構造と機能が説明できる。</p> <p>ポイント： 外分泌腺との相違点、各内分泌腺の位置、ホルモンの性質、発生起源を理解する。</p>	
	内分泌2	<p>下垂体1</p> <p>[到達目標] 下垂体前葉の構造と分泌ホルモンの機能が説明できる。</p> <p>ポイント： 下垂体全体の構造、特に腺性下垂体と神経性下垂体の構造の相違点、前葉の構成細胞を理解する。</p>	
	内分泌3	<p>下垂体2</p> <p>[到達目標] 下垂体前葉の構造と分泌するホルモンの機能が説明できる。</p> <p>ポイント： 下垂体前葉のホルモンの作用と視床下部下垂体前葉系を理解する。</p>	
	内分泌4	<p>松果体</p> <p>[到達目標] 松果体の構造と分泌するホルモンの機能が説明できる。</p> <p>ポイント： 松果体の位置と分泌を作用する光の作用について理解する。</p>	
	内分泌5	<p>甲状腺</p> <p>[到達目標] 甲状腺の構造と分泌ホルモンの機能が説明できる。</p> <p>ポイント： 濾胞と濾胞傍細胞の構造と機能について理解する。</p>	
	内分泌6	<p>副腎</p> <p>[到達目標] 副腎の構造と分泌するホルモンの機能が説明できる。</p> <p>ポイント： 副腎皮質の層構造、副腎髄質の細胞の性質、ホルモンの特徴を理解する。</p>	
	生殖器1	<p>男性生殖器1. 総論 男性生殖器の構成と各器官の作用</p> <p>[到達目標] 男性生殖器系を構成する器官名と配置、作用が簡単に説明できる。</p> <p>ポイント： 精子産生と精子が体外に放出されるまでの経路を理解する。</p>	
	生殖器2	<p>男性生殖器2. 精巣 精巣の構造と精子形成およびライディッシュ間細胞</p> <p>[到達目標] 精巣と精巣上体の基本構造、精上皮における精子形成、セルトリ支持細胞と血液精巣関門、ライディッシュ間細胞と男性ホルモンについて説明できる。</p> <p>ポイント： 精子の形成過程とライディッシュ間細胞の位置と機能を理解する</p>	
	生殖器3	<p>男性生殖器3. 精路 精路を構成する器官と精子の運搬</p> <p>[到達目標] 精路壁および前立腺の組織構造、陰茎の肉眼的構造と組織構造を説明できる。</p> <p>ポイント： 精路と陰茎の構造ならびに付属腺の構造と機能を理解する。</p>	
	生殖器4	<p>女性生殖器1. 総論 女性生殖器の構成と各器官の作用</p> <p>[到達目標] 女性生殖器を構成する器官名と配置、作用が簡単に説明できる。</p> <p>ポイント： 女性生殖器の構成と機能を理解する。</p>	
	生殖器5	<p>女性生殖器2. 卵巣と子宮 卵巣と子宮の構造と機能</p> <p>[到達目標] 卵巣と子宮の構造、卵胞の構造、成熟と排卵、卵胞周期と月経周期が説明できる。</p> <p>ポイント： 卵巣における卵胞成熟と排卵、受精ならびに卵胞周期と月経周期を理解する。</p>	
	生殖器6	<p>女性生殖器3. 膣と胎盤 膣と胎盤の構成と機能</p> <p>到達目標] 膣の構造が説明できる。</p> <p>胎盤の構成と胎盤関門が説明できるようになる。</p> <p>ポイント： 胎盤の構成と胎盤における物質の移動について理解する。</p>	
	神経系1	<p>神経系概論 神経系を構成する細胞とシナプス</p> <p>[到達目標] ニューロンとグリア細胞、シナプスの構造と機能が説明できる。</p> <p>ポイント： ニューロンとグリア細胞の相違ならびにシナプスの構造を理解する。</p>	

神経系 2	<p>脊髄 脊髄の構造と伝導路 [到達目標] 脊髄の構造と根枝、伝導路について説明できる。 ポイント: 脊髄の構造と白質を通る伝導路について理解する。</p>
神経系 3	<p>脊髄神経 1. 脊髄神経の各名称、後枝および神経叢 [到達目標] 脊髄神経の各名称、後枝から出る神経名と分布領域および各神経叢の構成が説明できる。 ポイント: 脊髄神経の名称と各神経叢について理解する。</p>
神経系 4	<p>脊髄神経 2. 頸神経叢と腕神経叢 [到達目標] 頸神経叢と腕神経叢を構成する脊髄神経と分枝の名称と機能と分布領域が説明できる。 ポイント: 頸神経叢と腕神経叢の構成と枝の名称と分布領域を理解する。</p>
神経系 5	<p>脊髄神経 3. 肋間神経、腰神経叢と仙骨神経叢 [到達目標] 肋間神経の分布、腰神経叢と仙骨神経叢を構成する脊髄神経と分枝の名称と機能と分布領域が説明できる。 ポイント: 腰神経叢と仙骨神経叢の構成と枝の名称と分布領域を理解する。</p>
神経系 6	<p>自律神経 脊髄から起こる自律神経系 [到達目標] 脊髄から起こる自律神経系の分布と支配器官が説明できる。 ポイント: 脊髄における自律神経系の起源と走行について理解する。</p>
神経系 7	<p>延髄と橋 延髄・橋の構造・機能と脳神経 [到達目標] 延髄・橋の構造・機能と出入りする脳神経の機能と分布領域が説明できる。 ポイント: 延髄・橋の構造と機能について理解する。</p>
神経系 8	<p>中脳と小脳 中脳・小脳の構造・機能と脳神経 [到達目標] 中脳・小脳の構造・機能と中脳に出入りする脳神経の機能と分布領域が説明できる。 [備考] 中脳・小脳の構造と機能について理解する。</p>
神経系 9	<p>間脳 間脳の構造と機能 [到達目標] 間脳の構造、特に視床と視床下部の構造と機能について説明できる。 ポイント: 視床と視床下部の構造と機能について理解する。</p>
神経系10	<p>大脳と大脳辺縁系 大脳の構成と皮質中枢、大脳辺縁系の構成と機能 [到達目標] 大脳と大脳辺縁系の構造と機能について説明できる。 ポイント: 大脳皮質の構成と大脳辺縁系について理解する。</p>
神経系11	<p>脳神経と副交感神経系 脳神経の名称と分布領域、副交感神経系 [到達目標] 脳神経の名称と分布領域並びに脳神経に含まれる副交感神経について説明できる。 ポイント: 脳神経の名称、機能および分布領域を理解する。</p>
神経系12	<p>伝導路 伝導路の構成と機能 [到達目標] 上行性伝導路と下行性伝導路の解剖学的構造と機能が説明できる。 ポイント: 上行性伝導路と下行性伝導路の名称と機能を理解する。</p>
感覚器 1	<p>感覚器総論 感覚器と感覚受容細胞 [到達目標] 感覚器の種類と感覚受容細胞について説明できる。 ポイント: 感覚器の種類と感覚受容細胞について理解する。</p>
感覚器 2	<p>視覚器 眼球の構造 [到達目標] 眼球の構造と機能が説明できる。 ポイント: 眼球の構造を理解する。</p>
感覚器 3	<p>視覚器 眼球の構造と付属器 [到達目標] 眼球の付属器の名称と機能、視覚の伝導路が説明できる。 ポイント: 眼球付属器の構造と視覚の伝導路を理解する。</p>
感覚器 4	<p>聴覚・平衡覚 耳の構造 [到達目標] 耳の構造、特に内耳の構造と機能、聴覚と平衡覚の伝導路が説明できる。 ポイント: 耳と膨大部稜・平衡斑の構造および聴覚と平衡覚の伝導路を理解する。</p>
感覚器 5	<p>皮膚 [到達目標] 皮膚の構造が説明できる。 ポイント: 皮膚を構成するものと機能について理解する</p>
感覚器 6	<p>皮膚感覚 皮膚感覚受容器の構造 [到達目標] 皮膚感覚受容器の名称と機能および感覚伝導路が説明できる。 ポイント: 皮膚の皮膚感覚受容器の名称と機能および感覚伝導路を理解する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	<p>教科書および配布プリントを精読し、トレーニングノートを完成し、自分なりに理解を深めるためのサブノートを作る。わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして解決すること。</p>

教科書	「読んでわかる解剖生理学」竹内修二著 医学教育出版社 「解剖学トレーニングノート」竹内修二著 医学教育出版社
参考書	「カラー人体解剖学」井上貴央 監訳 西村書店 「入門組織学」牛木辰男著 南江堂
成績評価	成績評価は出席（10%）、小テスト（20%）と3回の試験（80%）で行い、合計が60%以上取れたものを合格とし、評価を行う。なお、試験の欠席回数の多い学生さんは追再試験の受験資格がなくなり、出席率60%未満の学生さんには受験資格を与えないので注意してください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○熊本 賢三 研究室 : 5号館1階 メールアドレス : k_kumamoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 15:00-16:00 担当教員名 : 榎原 智美 研究室 : 5号館1階 メールアドレス : s_ebara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 15:00-16:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
岡田 薫			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>【教育目標】 生体を制御・調節する神経系、運動器系について学ぶことを目的とします。</p> <p>【教育概要】 動物機能人体機能学では、神経による情報伝達や筋収縮、脳を含めた高次中枢の機能や身体運動の反射、特殊感覚を含めた感覚系のしくみについて学習します。</p>
授業計画	<p>第一回 神経の基本的機能（1） 【到達目標】 静止膜電位について説明できる</p> <p>第二回 神経の基本的機能（2） 【到達目標】 活動電位の発生について説明できる</p> <p>第三回 神経の基本的機能（3） 【到達目標】 興奮伝導のしくみと三原則について説明できる</p> <p>第四回 神経の基本的機能（4） 【到達目標】 シナプスのしくみと化学伝達物質について説明できる</p> <p>第五回 末梢神経（1） 【到達目標】 脳神経、脊髄神経の構成、働きが説明できる</p> <p>第六回 末梢神経（2） 【到達目標】 交感神経、副交感神経の働きが説明できる</p> <p>第七回 末梢神経（3） 【到達目標】 感覚の一般的性質について説明できる</p> <p>第八回 末梢神経（4） 【到達目標】 体性感覚の種類と特徴、各受容器、求心性神経および伝導路について説明できる</p> <p>第九回 特殊感覚（1） 【到達目標】 味覚の受容器、伝導路について説明できる 嗅覚の受容器、伝導路について説明できる</p> <p>第十回 特殊感覚（2） 【到達目標】 視覚の受容器、伝導路について説明できる</p> <p>第十一回 特殊感覚（3） 【到達目標】 聴覚の受容器、伝導路について説明できる</p> <p>第十二回 特殊感覚（4） 【到達目標】 平衡感覚の受容器、伝導路について説明できる</p> <p>第十三回 まとめ 1～6回の内容を復習</p> <p>第十四回 まとめ 1～6回の内容を復習</p> <p>第十五回 中間試験</p> <p>第十六回 中間試験</p> <p>第十七回 筋収縮、運動神経（1） 【到達目標】 筋の種類、筋収縮（神経-筋接合部、滑走説）について説明できる</p> <p>第十八回 筋収縮、運動神経（2） 【到達目標】 筋収縮のエネルギー代謝、筋疲労について説明できる</p> <p>第十九回 身体運動（1） 【到達目標】 筋収縮の種類、運動単位について説明できる 骨格筋の感覚受容器（筋紡錘、腱受容器）の働きと筋収縮調節について説明できる</p>

	<p>第二十回 身体運動（２） 【到達目標】 伸張反射、拮抗抑制、屈曲反射について説明できる</p> <p>第二十一回 中枢神経（１） 【到達目標】 脊髄の上行性伝導路（感覚系）の経路が説明できる</p> <p>第二十二回 中枢神経（２） 【到達目標】 脊髄の下行性伝導路（運動系）の経路および小脳の役割が説明できる 脊髄反射について説明できる</p> <p>第二十三回 中枢神経（３） 【到達目標】 脳幹（中脳、橋、延髄）の役割が説明できる 間脳（視床、視床下部）の役割が説明できる</p> <p>第二十四回 中枢神経（４） 【到達目標】 大脳基底核、辺縁系の役割が説明できる</p> <p>第二十五回 高次機能（１） 【到達目標】 大脳皮質の機能局在について説明できる 言語中枢の役割について説明できる</p> <p>第二十六回 高次機能（２） 【到達目標】 脳波および睡眠について説明できる 能脊髄液の役割について説明できる</p> <p>第二十七回 まとめ 9～13回の内容を復習</p> <p>第二十八回 まとめ 9～13回の内容を復習</p> <p>第二十九回 期末試験</p> <p>第三十回 期末試験</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	配布された資料は、講義ノートとともにきちんと整理してください。 毎回、前講義の内容を確認する小テストを行うので必ず復習しておいてください。
教科書	なし
参考書	『人体の構造と機能』 佐藤昭夫、佐伯由香（医歯薬出版） 『Clinical生体機能学』 當瀬規嗣（南山堂） 『からだの構造と機能』 三木明德、井上貴央（西村書店） 『生理学』 社団法人東洋療法学校協会 編（医歯薬出版）
成績評価	中間および期末のまとめ期間中に筆記試験を実施します。 成績評価は、筆記試験100%とします。 本試験を適切な理由なくして欠席した場合は、追試験を行いませんので必ず試験日より1週間以内に欠席届を提出してください。
担当教員の基本情報	研究室 : 5号館3F 生理学教室 メールアドレス : k_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:00-17:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
岡田 薫、林 知也、中山登稔			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	1. 系統講義で得た知識を踏まえ、設定されたテーマについて自ら観察実験を行い、必要なデータを集める。 2. 得られたデータを記録、分析し統合的な考察を行う。 3. レポートを作成することによって、科学実験におけるレポートの意味と書き方を習得する。
授業計画	<p>第一回 オリエンテーション 実習書配布 [到達目標] 機能実習の目的、内容と実習実施にあたっての注意事項を確認する。</p> <p>第二回 オリエンテーション ミニ講義 [到達目標] ミニ講義で知識の確認を行う</p> <p>第三回 実習1 循環・呼吸 心電図と血圧について実習する。 呼吸曲線と肺気量分画について実習する。</p> <p>第四回 実習1 循環・呼吸 心電図と血圧について実習する。 呼吸曲線と肺気量分画について実習する。</p> <p>第五回 実習2 体性感覚 皮膚の感覚点の分布や2点弁別について実習する。 重量感覚について実習する。</p> <p>第六回 実習2 体性感覚 皮膚の感覚点の分布や2点弁別について実習する。 重量感覚について実習する。</p> <p>第七回 実習1のレポートに対する口頭試問 実習で得られた結果の解析方法とまとめ方を理解する。これまで学習した生理学的知識に基づき、考察課題についてレポートを作成し口頭試問を受ける。</p> <p>第八回 実習2のレポートに対する口頭試問 実習で得られた結果の解析方法とまとめ方を理解する。これまで学習した生理学的知識に基づき、考察課題についてレポートを作成し口頭試問を受ける。</p> <p>第九回 実習3 代謝 代謝（生体内の化学変化とエネルギー変換）について実習する。</p> <p>第十回 実習3 代謝 代謝（生体内の化学変化とエネルギー変換）について実習する。</p> <p>第十一回 実習4 誘発筋電図 伸張反射時のH波とM波および、種々の条件負荷による反射活動変化について実習する。</p> <p>第十二回 実習4 誘発筋電図 伸張反射時のH波とM波および、種々の条件負荷による反射活動変化について実習する。</p> <p>第十三回 実習3のレポートに対する口頭試問 実習で得られた結果の解析方法とまとめ方を理解する。これまで学習した生理学的知識に基づき、考察課題についてレポートを作成し口頭試問を受ける。</p> <p>第十四回 実習4のレポートに対する口頭試問 実習で得られた結果の解析方法とまとめ方を理解する。これまで学習した生理学的知識に基づき、考察課題についてレポートを作成し口頭試問を受ける。</p> <p>第十五回 まとめ 総復習</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布する実習書を熟読し、その内容が理解できるように必要な知識を参考書等にて確認する。
教科書	『人体の機能学実習書』 生理学教室編
参考書	『標準生理学』 本郷利憲 他 (医学書院) 『コスタンゾ 明解生理学』 本郷利憲 他 (医学書院) 『オックスフォード・生理学』 植村慶一 他 (丸善) 『バーンレヴィ カラー基本生理学』 坂東武彦 他 (西村書店)
成績評価	実習への取り組み (10%)、レポートの内容 (80%) および口頭試問 (10%) の総合点で評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岡田 薫 研究室 : 5号館3F 生理学教室 メールアドレス : k_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:00-17:00</p> <p>担当教員名 : 中山 登稔 研究室 : 1号館2F 中山教授室</p>

	メールアドレス : t_nakayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00 担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4F 林教授室 メールアドレス : tomoya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
後藤 渉子			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>[授業概要] 病理学は解剖学や生理学などの正常な人体の構造や機能を学んだ上で、疾患の原因や成り立ちを理解するために学ぶ基礎と臨床の架け橋となる学問です。誰でも皆、病気になる可能性があり、病気を治すあるいは上手に付き合っていくためには病気をよく知らないといけません。この講義では、病気（疾患）の原因には何があるのか、何がどうなって身体に影響をおよぼすのか、そのために臓器や組織・細胞がどのように変化するのかを学びます。</p> <p>[到達目標] 臨床医学を理解していくために必要な疾患の原因や成り立ちを理解し説明できること。</p>
授業計画	<p>第1回 病理学とは [到達目標] 病理学で学ぶこと全般について理解し説明できる。 [備考] 次回（疾病について・病因）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第2回 疾病について [到達目標] 疾病についてについて理解し説明できる。 [備考]次回（病因）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第3回 病因 [到達目標] 病因について理解し説明できる。 [備考]次回（循環障害）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第4回 循環障害 [到達目標] 循環障害について理解し説明できる。 [備考]次回（退行性病変）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第5回 退行性病変1 [到達目標] 退行性病変について理解し説明できる。 [備考]次回（退行性病変）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第6回 退行性病変2 [到達目標] 退行性病変について理解し説明できる。 [備考]次回のまとめ試験1に向け、疾病についてから退行性病変までの確認問題を復習しておく。</p> <p>第7回 まとめ試験1 [到達目標] 疾病についてから退行性病変までの範囲で学んだことが説明できる。 [備考]次回（進行性病変）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第8回 進行性病変 [到達目標] 進行性病変について理解し説明できる。 [備考]次回（炎症）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第9回 炎症 [到達目標] 炎症について理解し説明できる。 [備考]次回（腫瘍）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第10回 腫瘍1 [到達目標] 腫瘍について理解し説明できる。 [備考]次回（腫瘍）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第11回 腫瘍2 [到達目標] 腫瘍について理解し説明できる。 [備考]次回（免疫異常・アレルギー）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第12回 免疫異常・アレルギー [到達目標] 免疫異常・アレルギーについて理解し説明できる。 [備考]次回（先天性異常）の予習として、教科書を読みプレテストに答えられるようにしておく。</p> <p>第13回 先天性異常</p>

	<p>[到達目標] 先天性異常について理解し説明できる。 [備考]次回のまとめ試験2に向け、進行性病変から先天異常までの確認問題を復習しておく。</p> <p>第14回 まとめ試験2</p> <p>[到達目標] 進行性病変から先天異常までの範囲で学んだことが説明できる。 [備考] 次週の期末試験に向け全範囲の確認問題の復習をしておく。</p> <p>第15回 期末試験</p> <p>[到達目標] 病理学で学んだ疾患の原因・成り立ちについて説明できる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・配布資料を読んで予習をし、授業初めのプレテストに答えられるようにしておく。質問がある場合は確認問題の自由記述スペースやアンケート用紙に記入するか、オフィスアワーなどで担当教員が対応しますので、わからないことは解決してください。
教科書	「病理学概論」公益社団法人 東洋療法学校協会編 滝澤 登一郎・畠山 茂著 医歯薬出版
参考書	「新訂版クイックマスター病理学」堤寛著 サイオ出版 「新版 病気の地図帳」山口和克監修 講談社
成績評価	筆記試験80%、確認問題10%、授業に取り組む姿勢10%により総合的に評価します。合格基準は60%以上です。 出席率60%未満の方には受験資格が与えられないので注意してください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 後藤 渉子 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
後藤 渉子、澤谷 友香理			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>[授業概要] 病理学実習では病理学的に重要な疾患や鍼灸治療の対象となる疾患、鍼灸師として知識が必要と思われる疾患について、病気の成り立ちと組織の形態変化を学ぶ事を目的とする。 ①各臓器・組織における疾患・病変について解説する。②スライドカンファレンス形式で「症例提示」をし、臨床所見や画像などの情報から疾患名が何であるかを教科書を元に推察し、解答用紙に記入し提出する。③重要な疾患については病変部の組織標本を顕微鏡で観察し、その形態学的特徴をスケッチし提出する。④正常組織の復習や臓器のマクロ実習も適宜行う。</p> <p>[到達目標] 医療人としての一般知識と基本的な病理学的用語を理解し説明することができる。代表的な疾患の概念と発症機序を理解し説明することができる。国家試験合格レベルに達する知識を習得することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・マクロ臓器供覧 [到達目標] 解剖学・生理学・病理学等の基礎医学で学んだことを基に、正常あるいは病的な人体諸臓器を観て触れることで、諸々の疾患を理解し、説明ができる。 [備考] 次回からの実習に向け、観察した臓器や疾患の特徴を説明できるよう復習しておく。 次回授業の提示症例問題に答えるため、教科書の循環器疾患の部分を読んでおく。</p> <p>第2回 オリエンテーション・マクロ臓器供覧 [到達目標] 解剖学・生理学・病理学等の基礎医学で学んだことを基に、正常あるいは病的な人体諸臓器を観て触れることで、諸々の疾患を理解し、説明ができる。 [備考] 次回からの実習に向け、観察した臓器や疾患の特徴を説明できるよう復習しておく。 次回授業の提示症例問題に答えるため、教科書の循環器疾患の部分を読んでおく。</p> <p>第3回 循環器系疾患 循環器系疾患の解説、提示症例および組織標本のスケッチ [到達目標] 提示症例の病因と病態および臨床像を理解し説明できるようにする。 スケッチ症例の病態と病理組織像の特徴を理解し、説明できるようにする。 顕微鏡で観察し丁寧にスケッチする。 [備考] 授業後は確認問題の復習をしておく。 次回授業のため教科書の呼吸器系疾患の部分をよく読んで予習しておく。</p> <p>第4回 循環器系疾患 循環器系疾患の解説、提示症例および組織標本のスケッチ [到達目標] 提示症例の病因と病態および臨床像を理解し説明できるようにする。 スケッチ症例の病態と病理組織像の特徴を理解し、説明できるようにする。 顕微鏡で観察し丁寧にスケッチする。 [備考] 授業後は確認問題の復習をしておく。 次回授業のため教科書の呼吸器系疾患の部分をよく読んで予習しておく。</p> <p>第5回 呼吸器系疾患 呼吸器系疾患の解説、提示症例および組織標本のスケッチ [到達目標] 提示症例の病因と病態および臨床像を理解し説明できるようにする。 スケッチ症例の病態と病理組織像の特徴を理解し、説明できるようにする。 顕微鏡で観察し丁寧にスケッチする。 [備考] 授業後は確認問題の復習をしておく。 次回授業のため教科書の消化器系疾患の部分をよく読んで予習しておく。</p> <p>第6回 呼吸器系疾患 呼吸器系疾患の解説、提示症例および組織標本のスケッチ [到達目標] 提示症例の病因と病態および臨床像を理解し説明できるようにする。 スケッチ症例の病態と病理組織像の特徴を理解し、説明できるようにする。 顕微鏡で観察し丁寧にスケッチする。 [備考] 授業後は確認問題の復習をしておく。 次回授業のため教科書の消化器系疾患の部分をよく読んで予習しておく。</p> <p>第7回 消化器系疾患 消化器系疾患の解説、提示症例および組織標本のスケッチ [到達目標] 提示症例の病因と病態および臨床像を理解し説明できるようにする。 スケッチ症例の病態と病理組織像の特徴を理解し、説明できるようにする。 顕微鏡で観察し丁寧にスケッチする。 [備考] 授業後は確認問題の復習をしておく。</p>

第 8 回	<p>次回授業のため教科書の泌尿器・生殖器系疾患・乳腺疾患の部分をよく読んで予習しておく。 消化器系疾患 消化器系疾患の解説、提示症例および組織標本のスケッチ [到達目標] 提示症例の病因と病態および臨床像を理解し説明できるようにする。 スケッチ症例の病態と病理組織像の特徴を理解し、説明できるようにする。 顕微鏡で観察し丁寧にスケッチする。 [備考] 授業後は確認問題の復習をしておく。</p>
第 9 回	<p>次回授業のため教科書の泌尿器・生殖器系疾患・乳腺疾患の部分をよく読んで予習しておく。 泌尿器・生殖器系疾患・乳腺疾患 泌尿器・生殖器系・乳腺疾患の解説、提示症例および組織標本のスケッチ [到達目標] 提示症例の病因と病態および臨床像を理解し説明できるようにする。 スケッチ症例の病態と病理組織像の特徴を理解し、説明できるようにする。 顕微鏡で観察し丁寧にスケッチする。 [備考] 授業後は確認問題の復習をしておく。</p>
第 10 回	<p>次回授業のため教科書の内分泌系疾患の部分をよく読んで予習しておく。 泌尿器・生殖器系疾患・乳腺疾患 泌尿器・生殖器系・乳腺疾患の解説、提示症例および組織標本のスケッチ [到達目標] 提示症例の病因と病態および臨床像を理解し説明できるようにする。 スケッチ症例の病態と病理組織像の特徴を理解し、説明できるようにする。 顕微鏡で観察し丁寧にスケッチする。 [備考] 授業後は確認問題の復習をしておく。</p>
第 11 回	<p>次回授業のため教科書の内分泌系疾患の部分をよく読んで予習しておく。 内分泌系疾患 内分泌系疾患の解説、提示症例および組織標本のスケッチ [到達目標] 提示症例の病因と病態および臨床像を理解し説明できるようにする。 スケッチ症例の病態と病理組織像の特徴を理解し、説明できるようにする。 顕微鏡で観察し丁寧にスケッチする。 [備考] 授業後は確認問題の復習をしておく。</p>
第 12 回	<p>次回授業のため教科書の筋骨格系・神経系疾患の部分をよく読んで予習しておく。 内分泌系疾患 内分泌系疾患の解説、提示症例および組織標本のスケッチ [到達目標] 提示症例の病因と病態および臨床像を理解し説明できるようにする。 スケッチ症例の病態と病理組織像の特徴を理解し、説明できるようにする。 顕微鏡で観察し丁寧にスケッチする。 [備考] 授業後は確認問題の復習をしておく。</p>
第 13 回	<p>次回授業のため教科書の筋骨格系・神経系疾患の部分をよく読んで予習しておく。 筋骨格系・神経系疾患 筋骨格系・神経系疾患の解説、提示症例および組織標本のスケッチ [到達目標] 提示症例の病因と病態および臨床像を理解し説明できるようにする。 スケッチ症例の病態と病理組織像の特徴を理解し、説明できるようにする。 顕微鏡で観察し丁寧にスケッチする。 [備考] 授業後は確認問題の復習をしておく。</p>
第 14 回	<p>次週のまとめ試験のため、確認問題とスケッチのポイントを復習しておく。 筋骨格系・神経系疾患 筋骨格系・神経系疾患の解説、提示症例および組織標本のスケッチ [到達目標] 提示症例の病因と病態および臨床像を理解し説明できるようにする。 スケッチ症例の病態と病理組織像の特徴を理解し、説明できるようにする。 顕微鏡で観察し丁寧にスケッチする。 [備考] 授業後は確認問題の復習をしておく。</p>
第 15 回	<p>まとめ試験 [到達目標] 病理学実習で学んだ内容を理解し説明できるようにする。国家試験合格レベルの知識を身につける。 [備考] 教科書にはまだまだたくさんの疾患について解説されており、実生活にも役に立つことが多いため、折に触れ見直すようにする。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>授業日程に沿って、当該項目の内容を教科書等で予習しておいてください。ちょっと読んでおくだけでもずいぶん違います。質問等ある場合は、毎回のレポートやアンケート用紙に記入するか、オフィスアワーの時間などで担当教員が対応しますので、わからないことは解決してください。</p>
教科書	<p>「新訂版クイックマスター病理学」堤 寛著 (サイオ出版)</p>
参考書	<p>「新版 病気の地図帳」山口和克監修 (講談社) 「組織病理アトラス」第 5 版 小池盛雄他編集 (文光堂) 「疾患ビジュアルブック」シリーズ (学研) 「カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 改訂2版」清水道生・内藤善哉編集 (メジカルビュー社)</p>

成績評価	評価は毎回の「症例提示」レポートによる疾患の特徴等の理解度（20%）と「重要疾患」のスケッチによる出現細胞、組織構築の理解度（50%）、出席状況および実習に取り組む姿勢（10%）、最終日の試験（20%）で、総合的に評価します。また、1回の欠席で単位認定は不可となります。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 後藤 渉子 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00</p> <p>担当教員名 : 澤谷 友香理 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : y_kotani@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	わが国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、老人、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。		
授業計画	第1回	衛生・公衆衛生の目的および衛生行政 [到達目標] 衛生・公衆衛生の目的について・衛生行政の仕組みと組織体系について理解する。	
	第2回	衛生統計と疫学 [到達目標] わが国の衛生統計の現状と変化・公衆衛生の問題点について理解する。 疫学の意義を理解する。	
	第3回	疾病の予防と健康管理 [到達目標] プライマリー・ヘルスケアの全体像と健康管理について理解する。	
	第4回	生活習慣病と老人保健 [到達目標] 生活習慣に由来する危険因子について理解する。 老人保健の現状と問題点について理解する。	
	第5回	母子保健 [到達目標]妊産婦と乳幼児の保健管理の課題について理解する。 母子保健行政の仕組みについて理解する。	
	第6回	学校保健 [到達目標] 学校保健に関わる現状と課題について理解する。 学校保健行政の仕組みについて理解する。	
	第7回	精神保健、産業保健 [到達目標]精神保健に関わる現状と課題について理解する。 産業保健に関わる現状と課題について理解する。 労働衛生行政の仕組みについて理解する。	
	第8回	中間試験（第1回～第7回）、地球環境 [到達目標] 地球環境の形成過程と現状の問題点について理解する。 環境汚染の成因について理解する。	
	第9回	気圏の環境と健康 [到達目標] 気圏環境と健康、気候の健康への影響、大気汚染について理解する。	
	第10回	水圏の環境と健康 [到達目標] 水圏環境と健康、上水および下水、水質汚濁について理解する。	
	第11回	土壌環境と健康、廃棄物 [到達目標] 土壌環境と健康、土壌汚染について理解する。 廃棄物処理の現状と問題点、廃棄物と環境汚染について理解する。	
	第12回	公害、放射線障害 [到達目標] 公害の歴史と現状、公害による健康被害について理解する。 電離放射線障害について理解する。	
	第13回	感染症の予防と対策1 [到達目標] 微生物の分類、感染症成立における宿主・寄生体・感染経路について理解する。	
	第14回	感染症の予防と対策2 [到達目標] 滅菌法・消毒法の種類と特徴および問題点について理解する。 感染症法、予防接種法について理解する。	
	第15回	期末試験（第8回～第14回）	
授業時間外の学習（準備学習等）について	1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通しておくこと。 2. 講義の後に配布プリント及び該当する教科書の部分を読み返しておくこと。 3. 講義最後に指示された課題についてまとめておくこと。 (分からない場合は質問に来ること。)		

教科書	「STEP SERIES 公衆衛生 第13版」高橋茂樹 西基 (海馬書房)
参考書	「国民衛生の動向」(厚生統計協会) 「衛生試験法・注解」(日本薬学会) 「シンプル公衆衛生学2016」(南江堂) 「わかりやすい公衆衛生学(第4版)」(ヌーベルヒロカワ)
成績評価	出席が6割に満たないものは中間試験および期末試験の受験を認めない。 中間試験および期末試験を90%、出席を10%として成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日12:40-13:30
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	疾病の要因としての病原微生物について、その特徴、感染症の発症のメカニズムを学ぶ。そのうえで、主な感染症の原因微生物、特徴、感染経路、予防、診断と治療について学ぶ。さらに、健康管理、衛生管理の意義を理解する。		
授業計画	第1回	微生物と感染症、細菌の形態・生理・代謝・遺伝、感染と発症のメカニズム [到達目標] 1. 病原微生物の分類・基本的な特徴を理解する。 2. 細菌の形態・生理・代謝・遺伝の基本を理解する。 3. 発症に関わる病原体側因子および宿主側因子について理解する。	
	第2回	化学療法、細胞内寄生体・真菌・原虫・寄生虫の特徴 [到達目標] 1. 感染症の治療に用いられる化学療法剤の分類・特徴・作用機構および副作用について理解する。 2. 細胞内寄生体・真菌・原虫・寄生虫の特徴・構造・増殖様式およびそれらの関わる感染症について理解する。	
	第3回	呼吸器感染症 [到達目標] 呼吸器感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。	
	第4回	消化器感染症 [到達目標] 消化器感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。	
	第5回	全身感染症、神経系感染症および眼感染症 [到達目標] 1. 全身感染症を起こす病原微生物の特徴、全身感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。 2. 神経系感染症および眼感染症の予防及び感染と発症のメカニズムについて理解する。	
	第6回	尿路・性器感染症および皮膚軟部組織感染症 [到達目標] 1. 尿路・性器感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。 2. 皮膚軟部組織感染症の予防及び感染と発症のメカニズムについて理解する。	
	第7回	ウイルス性肝炎、レトロウイルス・プリオン [到達目標] 1. ウイルス性肝炎の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。 2. レトロウイルス感染症の予防・感染と発症のメカニズムおよびプリオン症について理解する。	
	第8回	試験 試験範囲：第1回～第7回講義	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通しておくこと。 2. 講義の後に配布プリントおよび該当する教科書の部分を読み返しておくこと。 3. 講義最後に指示された課題についてまとめること。 (分からない場合は質問に来ること。)		
教科書	「シンプル微生物学」東 匡伸、小熊恵二 編 (南江堂)		
参考書	「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」藤本秀士編著、目野郁子、小島夫美子著 (南山堂) 「Simple Step 感染症」平山 謙二監修 (海馬書房) 「戸田細菌学」吉田・柳 編 (南江堂)		
成績評価	出席が6割に満たないものは試験の受験を認めない。 試験90%、出席10%で成績を評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日12:40-13:30		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>体を守る仕組み（自然治癒力）についての科学的理解を進めることは、医療人として必須である。基礎免疫学では、免疫を担う細胞や器官の特徴を学び、免疫応答の細胞学的背景・分子的背景や遺伝子背景を理解する。臨床免疫学では、感染防御の仕組み、免疫不全症のメカニズムと易感性、アレルギーの仕組み、移植免疫および自己免疫疾患について、免疫応答の神経系・内分泌系による調節について理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 生体防御系の成り立ち：免疫系の細胞と器官 [到達目標] 1. 異物に対する反応系：生体防御系の全体像を理解する。 2. 骨髄球系細胞およびリンパ球系細胞の特徴と機能およびリンパ系の組織・器官について理解する。</p> <p>第2回 自然免疫と急性炎症、補体 [到達目標] 1. 自然免疫のしくみと自然免疫における急性炎症の枠割を理解する。 2. 自然免疫および獲得免疫における補体の役割を理解する。</p> <p>第3回 T細胞の分化・活性化と機能 [到達目標] 1. T細胞分化の分子・遺伝子背景を理解する。 2. T細胞の活性化のしくみと活性化T細胞（エフェクターT細胞）の機能を理解する。</p> <p>第4回 B細胞の分化・活性化と機能、抗体の機能 [到達目標] 1. B細胞分化の分子・遺伝子背景を理解する。 2. B細胞の活性化・抗体産生細胞への分化のしくみおよび抗体のクラスとその機能を理解する。</p> <p>第5回 免疫不全症、HLAと移植免疫 [到達目標] 1. 免疫不全症の発症機序を理解する。 2. HLA(MHC)拘束性による自己認識の仕組みと移植時の非自己HLA分子への免疫応答を理解する。</p> <p>第6回 アレルギーと自己免疫疾患 [到達目標] I～IV型アレルギーの発症のメカニズムおよび自己免疫疾患の発症のメカニズムを理解する。</p> <p>第7回 免疫応答調節、免疫学的検査法 [到達目標] 1. 免疫応答の調節および神経内分泌による免疫系の調節について理解する。 2. 病院等における免疫学的検査法：免疫能の検査について理解する。</p> <p>第8回 試験 試験範囲：第1回～第7回講義</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通しておくこと。 2. 講義の後に該当する教科書の部分を読み返しておくこと。 3. 講義最後に指示された課題についてまとめること。 (分からない場合は質問に来ること。)</p>
教科書	『シンプル免疫学』 中島泉ほか (南江堂)
参考書	『もっとよくわかる！免疫学』 河本宏 (羊土社) 『メディカル免疫学』 A. ロアット (西村書店) 『免疫生物学』 笹月健彦 訳 (南江堂) 『マンガでわかる免疫学』 河本宏 (ビーコムプラス)
成績評価	出席が6割に満たないものは試験の受験を認めない。 試験90%、出席10%で成績を評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日12:40-13:30</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
辻村 敦			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>生化学では人体を構成する物質とその物質の合成や分解（代謝）の基本的知識を、医学の基礎を支える自然科学のひとつとして体系的に学びます。生化学を理解することは、自分のカラダや患者さんのカラダの状態を理解することにつながり、また、患者さんに栄養指導をするためにもとても重要な科目です。従って、本講義では、栄養学のためのタンパク質代謝、糖質代謝、脂質代謝、核酸代謝などを理解してもらうことを目的とする。生化学の学習を通して、ダイエット、高脂血症と動脈硬化、メタボリックシンドローム、アレルギーや免疫の仕組み、糖尿病、骨粗鬆症、痛風などについて考察できる力を身に付ける。看護・鍼灸・保健医療サービスの担い手に求められる生化学的基礎知識を習得する。</p>
授業計画	<p>1回目 序論：生化学学習目標の理解。生体を構成する生体分子の構造と機能を学ぶ。 [到達目標] 生化学の基礎を理解。アミノ酸とタンパク質、酵素、基質について説明できる。 [備考] 毎回、講義プリントを配布するので、講義の重要事項を復習すること。人体を構成、ならびに調整する成体分子を理解し、生命活動維持のために重要な必須成分と酵素の働きを理解する。</p> <p>2回目 糖質と糖質代謝（1） [到達目標] 糖質の化学構造と性質について説明できる。 [備考] 糖質のその主な働きであるエネルギー産生とその性質を理解する。</p> <p>3回目 糖質と糖質代謝（2） [到達目標] 生化学の基礎を理解。アミノ酸とタンパク質、酵素、基質について説明できる。 [備考] 糖質の代謝を体系的に理解する。解糖系、TCA回路、電子伝達系、ペントースリン酸回路</p> <p>4回目 脂質と脂質代謝 [到達目標] 生化学の基礎を理解。アミノ酸とタンパク質、酵素、基質について説明できる。 [備考] 脂質の生体内での消化、吸収、動態を理解。脂質の代謝を理解。β酸化、エネルギー効率について。</p> <p>5回目 タンパク質・アミノ酸 [到達目標] タンパク質の消化、吸収、代謝について説明できる。 [備考] タンパク質とアミノ酸の化学構造と性質。タンパク質の代謝を理解。アンモニアと尿素について。</p> <p>6回目 核酸（ヌクレオチド）の代謝 [到達目標] 核酸合成と分解について説明できる。 [備考] 核酸（ヌクレオチド）の合成と分解を通してその役割と遺伝子について理解。核酸のプリン、尿酸と痛風について。</p> <p>7回目 ビタミン、ホルモンの役割 [到達目標] ビタミンの生理機能をヒトの栄養の面より理解。ホルモンを生体内恒常性の維持として理解できる。 [備考] ビタミンの生体内での役割。カルシウム代謝と調節など。補酵素としての機能。ホルモンの役割。脂溶性ビタミン、ステロイドホルモンなど。</p> <p>8回目 総括と試験 [備考] 全講義の総括を行い、試験を行う。講義内容の理解度として作成した演習と試験で、総合評価を100点満点として、60点以上を合格とする。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>平易な視覚的生化学の参考書を基にプリントを作成し、それらを用いて講義を進める。そのため講義後は必ずプリント内容の理解に努める必要がある。体系的授業のため、遅刻・欠席は厳禁で、受講者は全ての講義に出席すること！</p>
教科書	<p>特になし（講義時間ごとにプリントを配布）</p>
参考書	<p>『栄養科学イラストレイテッド 生化学』 菌田 勝/編（羊土社） 『マンガでわかる生化学』 武村 政春他（オーム社） 『イラストレイテッド生化学』 石崎 泰樹他（翻訳） 原書5版（丸善出版）</p>
成績評価	<p>講義内容に関連した知識を筆記試験にて把握し、その理解度を評価する。 評価割合：（試験点数 60%以上を合格とする）</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：○辻村 敦 研究室：京都府立医科大学 基礎老化学 メールアドレス：atsuji@koto.kpu-m.ac.jp オフィスアワー：講義内容について、講義後またはメールで質問してください。</p>

	担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、木曜日放課後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
浅沼 博司			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	東洋療法を実践するうえで必要な臨床医学について、医療面接技法、身体診察技法などについて学ぶ。
授業計画	<p>第1回 はじめに 診断学を学ぶにあたって、はじめに知っておきたいこと。</p> <p>第2回 診察の概要 診察から診断にいたる過程（プロセス）を学ぶ。</p> <p>第3回 診察の方法 医療面接 医療面接の意義と方法、注意事項を知る。</p> <p>第4回 診察の方法 視診と触診 身体診察のうち、最も基本的な診察法が視診である。また、触診は患者の体に触れることで所見を得る診察法である。これらの意義と方法について理解する。</p> <p>第5回 診察の方法 打診と聴診 打診と聴診の方法とその意義について学ぶ。</p> <p>第6回 診察の方法 測定法 計測により異常の有無を判定する診察法について知る。</p> <p>第7回 生命徴候（バイタルサイン）の診察 その1 生命を維持するために、最も基本的で重要な徴候すなわちバイタルサインについて理解する。</p> <p>第8回 生命徴候（バイタルサイン）の診察 その2 バイタルサインの各項目について詳しく講義する。</p> <p>第9回 全身の診察 その1 顔貌、精神状態、言語に関する診察を学ぶ。</p> <p>第10回 全身の診察 その2 栄養状態、姿勢、歩行についての診察を理解する。</p> <p>第11回 全身の診察 その3 皮膚、粘膜、爪、リンパ節その他に関する診察について学ぶ。</p> <p>第12回 局所の診察 その1 局所の診察を3回に分けて講義する。 その1：頭頸部</p> <p>第13回 局所の診察 その2 局所の診察を3回に分けて講義する。 その2：胸部</p> <p>第14回 局所の診察 その3/ 授業総括 局所の診察を3回に分けて講義する。 その3：腹部 最後に授業の総括を行う。</p> <p>第15回 期末試験 単位取得にかかる試験を実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	一患者を診ずに本だけで勉強するのは、全く航海に出ないに等しいと言えるが、反面、本を読まずに疾病の現象を学ぶのは、海図をもたずに航海するのに等しい—臨床教育の先駆者であるWilliam Oslerの言葉を学生諸君に送る。関連書籍をたくさん熟読することで知識を増やし、安心・尊敬・信頼される医療者をめざすこと。
教科書	東洋医学学校協会編 「臨床医学総論 第2版」 医師葉出版
参考書	指定しない
成績評価	学期末に試験を行い評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：浅沼博司 役職：内科学講座教授、附属病院内科部長 教授室：病院2階 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜午後
備考	私語は厳に慎むこと。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
糸井 啓純			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>20世紀後半から外科系の臨床医学は手術、麻酔、消毒、輸液等の進歩で飛躍的に発展を遂げ、近年の外科学の進歩には、内視鏡下手術、ロボット手術など目を見張るものがある。しかし、外科学において基本的に押さえておくべきポイントがある。総論は、外科学の基本である損傷、炎症、外科的感染症について、各論は消化器外科を中心に、外科治療について学習する。</p> <p>脳神経外科学では、まず、神経疾患について、神経解剖、神経生理、神経生化学などの基礎知識をもとに理解を深める。そして、脳神経外科が対象とする各種疾患の診断法や検査法、治療法を学習する。</p> <p>麻酔科学では急性期医療の柱である意識消失時の全身管理の基礎を疼痛ストレスの管理とともに解説する。これらの講義を理解するためには基礎医学や内科系医学知識の全般が必須である。</p>
授業計画	<p>1回目 外科学概論 損傷と創傷（熱傷を含む） 糸井教授 外科学概論、損傷と創傷（機械的、非機械的損傷）について、その病態と治療を学ぶ。とくに熱傷を理解する。「創」と「傷」の違いを理解する。 授業時間外学習の指示等：配布したプリントをもとに、特に熱傷について復習する。</p> <p>2回目 炎症・外科的感染症、消毒と滅菌 神山教授 炎症の原因・症状、感染症の概念を理解する。外科的感染症の治療（外科的処置）を理解する。無菌法、消毒法の実際を学ぶ。 授業時間外学習の指示等：消毒法について予習する。配布したプリントをもとに、外科的処置、消毒法について復習する。</p> <p>3回目 腫瘍の診断と治療、外科的栄養管理 糸井教授 腫瘍の検査法と治療法（手術・化学、放射線療法）を学ぶ。栄養管理（輸液・経腸栄養）を学び、栄養サポートチーム(NST)の意義を理解する。 授業時間外学習の指示等：腫瘍の診断と治療ならびに栄養管理（輸液・経腸栄養）について、復習する。</p> <p>4回目 ショック、出血と止血法、輸血法、心肺蘇生法 神山教授 ショックの概念・分類を学ぶ。ショックに対する心肺蘇生法、一次救命処置の内容を理解する。出血に対する止血法、輸血法を学ぶ。あわせて移植医療を理解する。 授業時間外学習の指示等：心肺蘇生法、一次救命処置を予習する。配布したプリントをもとに、輸血法、移植医療を復習する。</p> <p>5回目 消化器外科の最新治療 急性腹症の診断と治療 糸井教授 消化器癌（食道癌・胃癌・大腸癌・肝癌・膵癌・胆嚢癌など）の外科治療を学ぶ。最新の腹腔鏡手術を学ぶ。急性腹症の診断と治療を学ぶ。 授業時間外学習の指示等：腹腔鏡手術について予習する。配布したプリントをもとに、手術が必要な疾患、がんの予後を復習する。</p> <p>6回目 脳神経外科（1）総論 樋口教授 神経系疾患のさまざまな症状をどのようにして診断するのか（診断学）や、レントゲン検査、CT検査、MRI検査などの画像診断法について学習する。 授業時間外学習の指示等：神経診断学、画像診断法について配布プリントや参考書にて予習する。</p> <p>7回目 脳神経外科（2）各論 樋口教授 脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷などの代表的な神経疾患について学習する。 授業時間外学習の指示等：代表的な神経疾患について、配布プリントや参考書にて予習する。</p> <p>8回目 麻酔科学 概論 野村講師 意識消失時の気道確保と人工呼吸、全身管理に必要な生体監視装置（モニター）、各種麻酔法（全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、局所浸潤麻酔、伝達麻酔）の鎮痛メカニズム 授業時間外学習の指示等：酸素と二酸化炭素の生体での役割、心電図について予習しておく。痛みへの感覚の伝達経路について予習しておく。各種の麻酔方法とメカニズムについて、鎮痛法について復習する。 定期試験 講義で学んだ事項の理解度を評価する。講義全体のまとめとして筆記試験を実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>外科学の分野について（第1回～第5回）：外科学では学ぶ項目が多岐に及ぶため、まとめの講義を設定しませんが、講義では適時まとめのプリントを配布します。そして、授業内容の理解度を確認するために、講義の重要な事項を試験問題の形式で提示します。これを解くことで、講義への理解を深めてください。</p> <p>脳神経外科学の分野について（第6回～第7回）：配布プリントの対応部分を精読して、予習復習し、不明な点は参考書で調べたり、質問して理解を深めるようにしてください。</p> <p>麻酔科学の分野について（第8回）：講義内容の概要をプリントとして渡しますが、講義を聴くための資料であり講義を聴かずにそれだけを勉強することは非効率です。生理学・解剖学や他の臨床医学の基礎で合わせて勉強すべき部分はシラバスや講義中に指摘するので、各自で次回の講義までに予復習として準備学習することが大切です。</p>
教科書	なし
参考書	<p>「臨床医学総論」第2版 奈良信雄著（医歯薬出版） 「臨床医学各論」第2版 奈良信雄編（医歯薬出版） 「チーム医療従事者のための臨床医学全科」渡邊 決編（金芳堂） 「標準外科学」第14版 小柳 仁編（医学書院） 「標準麻酔科学」第6版 弓削孟文監修（医学書院） 「標準神経病学」水野美邦・栗原照幸編集（医学書院）</p>

	「脳神経外科学」太田富雄（金芳堂） 「国民衛星の動向2016/2017」（厚生労働統計協会）
成績評価	定期試験、出席状況、授業態度、レポートなどから総合的に評価する。 追・再試験は、試験あるいはレポートとする。
担当教員の基本情報	<p>(外科学)</p> <p>担当教員名 : 糸井 啓純 研究室 : 附属病院2階教授室 メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-19:00</p> <p>担当教員名 : 神山 順 研究室 : 附属病院2階医局 メールアドレス : jkami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-19:00</p> <p>(脳神経外科学)</p> <p>担当教員名 : 樋口 敏宏 研究室 : MRセンター (附属病院1階) メールアドレス : higuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 17:00-18:00</p> <p>(麻酔科学)</p> <p>担当教員名 : 野村 麻由子 研究室 : 附属病院2階医局 メールアドレス : m_nomura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日12:00-13:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
納谷 佳男			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p><泌尿器科> 腎、上部尿路、下部尿路、男性生殖器の各疾患について十分に理解し、専門医と適切に連携することによって当該疾患の診療に参加することができる鍼灸師を養成することを目的とする。</p> <p><皮膚科> 皮膚の解剖学、生理学、症候学、および湿疹、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、熱傷、凍傷、皮膚感染症などの皮膚疾患について十分に理解し、専門医と適切に連携することによって当該疾患の診療に参加することができる鍼灸師を養成することを目的とする。</p> <p><眼科> 眼及び周辺組織の解剖学的、組織学的構造とその機能を理解する。 代表的な眼科疾患の病態生理と治療を理解する。 全身疾患の眼合併症、コメディカルとして接する眼科疾患を学ぶ。</p> <p><歯科> 鍼灸治療の対象となる頭痛や頸肩部痛の原因が、口腔疾患にあることも多い。 従って、歯科疾患を理解し、鍼灸治療の適応と方法を修得する。</p> <p><耳鼻科></p>
授業計画	<p>第1講 泌尿器科 [授業概要] 泌尿器解剖学、生理学、症候学、検査法 [到達目標] 泌尿生殖器の解剖学、生理学、泌尿器症候学、検査法について理解できる。</p> <p>第2講 皮膚科 [授業概要] 皮膚の解剖学、生理学、症候学、主な皮膚疾患 [到達目標] 皮膚の解剖学、生理学、症候学、および湿疹、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、熱傷、凍傷、皮膚感染症などの主な皮膚疾患について理解できる。</p> <p>第3講 眼科 [授業概要] 診断・治療に関する総論 [到達目標] 加齢に伴う眼疾患、視機能(解剖・神経支配や麻痺・斜視など)、全身疾患との関連(移植免疫・ぶどう膜炎)について理解できる。</p> <p>第4講 眼科 [授業概要] 診断・治療に関する各論 [到達目標] 眼光学(屈折・眼鏡など)、角膜結膜疾患、水晶体疾患、緑内障、後眼部疾患(網膜疾患など)について理解できる。</p> <p>第5講 歯科 [授業概要] 口腔解剖、顎関節解剖、歯周炎と全身疾患、顎関節症 [到達目標] 主な口腔病変を知り、顎関節症に対する鍼治療を修得する。</p> <p>第6講 聴覚、中耳、内耳、平衡覚 [授業概要] 聴覚概論、聴器解剖、聴覚生理 中耳疾患および伝音難聴の診断と治療 内耳疾患および感音難聴の診断と治療 平衡覚概論 めまいと平衡障害 [到達目標]</p> <p>第7講 鼻アレルギー、副鼻腔、外傷 [授業概要] 鼻アレルギーの基礎と臨床 鼻副鼻腔の解剖・生理と疾患 鼻出血・顎顔面外傷 [到達目標]</p> <p>第8講 女性生殖器の解剖と生理、婦人科疾患 [授業概要] 女性生殖器の解剖と生理、婦人科疾患と検査、治療 [到達目標] 1. 女性生殖器を列挙し、その働きを説明できる。 2. 女性ホルモンのフィードバック機構を理解し、説明できる。 3. 子宮癌、子宮筋腫、子宮内膜症、子宮腺筋症について説明できる。 4. 月経困難症、月経前症候群、月経不順、更年期障害について説明できる。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	頻度が高く泌尿器科的に重要な疾患について、事前に理解しておくこと。 特に排尿障害に該当する膀胱、前立腺疾患は鍼灸治療の対象ともなるため、よく学習すること。また授業後は知識を速やかに整理できるよう復習すること。

教科書	『チーム医療従事者ための臨床医学全科』渡辺 洸 ほか (金芳堂)
参考書	なし
成績評価	筆記試験により評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 納谷佳男 (泌尿器・皮膚科) 研究室 : 泌尿器科学 (附属病院2階) メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後</p> <p>担当教員名 : 山田 潤 (眼科) 研究室 : 附属病院2階 メールアドレス : j_yamada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 9:30-17:30</p> <p>担当教員名 : 大藪秀昭 (歯科) 研究室 : 附属病院2階 メールアドレス : h_oyabu@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日 15:30~16:30</p> <p>担当教員名 : 田口玲奈 (婦人科) 研究室 : 附属鍼灸センター2階 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00~17:00</p> <p>担当教員名 : 坂口博史 (耳鼻咽喉科) 研究室 : 非常勤講師室 (6号館1階) メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後</p> <p>担当教員名 : 安田誠 (耳鼻咽喉科) 研究室 : 非常勤講師室 (6号館1階) メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	1	必修
担当教員			
谷口 博志			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>応用鍼技術学実習では様々な特殊鍼法を中心に学ぶ。基礎鍼技術学実習で学んだ身体各部位への刺鍼技術を復習する。</p> <p>刺鍼に際しての注意点（刺入深度、角度など）や、鍼による過誤や副作用について理解した上で、特殊鍼法と安全・衛生的な施鍼技術の修得を目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスおよび身体刺鍼を行なう。 [到達目標] ・ガイダンスを通して当科目の趣旨を理解する。 ・自身の下肢前面および外側への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって刺入できる。 [備考] テキストにて基本的な鍼技術についての予習と復習をすること。</p> <p>2回目 クリーンニードル・テクニックを学ぶ [到達目標] 無菌的な清潔操作による刺鍼技術として、クリーンニードル・テクニックの必要性を理解し習得する。鍼体を直接に触れずに行う刺鍼技術を習得する。 [備考] クリーンニードルテクニックについて、テキストおよび配布資料による予習と復習をすること。</p> <p>3回目 鍼通電を学ぶ1 [到達目標] 低周波鍼通電刺激の手順と安全管理、および通電器の使用方法を理解する。その上で、四肢や腰背への鍼通電の技術を習得する。 [備考] 鍼通電について、テキストおよび配布資料による予習と復習をすること。</p> <p>4回目 鍼通電を学ぶ2 鍼通電およびその他の通電療法の技術を習得する。 [備考] 鍼通電およびその他の通電療法について、テキストおよび配布資料による予習と復習をすること。</p> <p>5回目 皮内鍼と円皮鍼を学ぶ [到達目標] 皮内鍼および円皮鍼の歴史、方法、種類などの基本を理解する。皮内鍼による圧痛部への施術方法を習得する。 [備考] 皮内鍼および円皮鍼について、テキストおよび配布資料による予習と復習をすること。</p> <p>6回目 皮内鍼と赤羽式知熱感度測定を学ぶ [到達目標] 赤羽式知熱感度測定法の理論と手法を理解する。またここから導き出される皮内鍼の治療方法を習得する。 [備考] 知熱感度測定法について、テキストおよび配布資料による予習と復習をすること。</p> <p>7回目 一般刺鍼の復習 [到達目標] 特殊鍼法を学んできたため、一般刺鍼の復習を行なう。他者への刺鍼練習を行い、安全な刺鍼技術を修得する。 [備考] 一般的な刺鍼技術について、テキストおよび配布資料による予習と復習をすること。</p> <p>8回目 小児鍼を学ぶ [到達目標] 小児鍼の理論と手法を理解する。小児鍼の手技として接触鍼法と摩擦鍼法の手順を理解し習得する。 [備考] 小児鍼について、テキストおよび配布資料による予習と復習をすること。</p> <p>9回目 耳鍼療法を学ぶ [到達目標] 耳鍼療法の理論と手法を理解する。 耳鍼療法を実際に行い、その手順を理解し習得する。 [備考] 耳鍼療法について、テキストおよび配布資料による予習と復習をすること。</p> <p>10回目 灸頭鍼を学ぶ1 [到達目標] 灸頭鍼の理論と手法を理解する。 灸頭鍼を実際に行い、その手順を理解し習得する。 [備考] 灸頭鍼について、テキストおよび配布資料による予習と復習をすること。</p> <p>11回目 灸頭鍼を学ぶ2 [到達目標]</p>

	<p>灸頭鍼の理論と手法を理解する。 灸頭鍼を実際に行い、その手順を理解し習得する。 [備考] 灸頭鍼について、テキストおよび配布資料による予習と復習をすること。</p> <p>12回目 まとめ1 [到達目標] 特殊鍼法実技の総復習を行い、その手順を理解し習得する。 [備考] 特殊鍼法全般について、テキストおよび配布資料による予習と復習をすること。</p> <p>13回目 まとめ2 [到達目標] 身体各部への刺鍼の総復習を行い、その手順を理解し習得する。 [備考] 身体各部位への一般的な刺鍼技術について、テキストおよび配布資料による予習と復習をすること。</p> <p>14回目 まとめ3 [到達目標] 安全かつ衛生的刺鍼技術、および一定の刺鍼技術水準に到達しているかどうかを確認する。 [備考] 特殊鍼法全般について、テキストおよび配布資料による予習と復習をすること。また技術自体のトレーニングをすること。</p> <p>15回目 まとめ4 [到達目標] 安全かつ衛生的刺鍼技術、および一定の刺鍼技術水準に到達しているかどうかを確認する。 [備考] 特殊鍼法全般について、テキストおよび配布資料による予習と復習をすること。また技術自体のトレーニングをすること。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」を用いて関連項目の予習と復習を行うとともに、自己による技術トレーニングをしていただきたい。
教科書	「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」 尾崎 昭弘著 (医歯薬出版株式会社)
参考書	「鍼灸医療安全ガイドライン」 尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 (医歯薬出版株式会社)
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席基準を満たした者について試験を実施する。評価は実技試験と筆記試験を行う。 ・ 成績判定は、実技60点以上、筆記試験60点以上の両方を満たした者を合格とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 角谷英治 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : e_sumiya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日 16:00～17:00</p> <p>担当教員名 : 谷口博志 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : h_taniguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日 16:00～17:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
福田文彦、福田晋平			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>講義で学習した経穴の名称、部位、取穴法の理解を前提として下記の事項を行う。</p> <p>① 身体を観察することにより、骨、筋肉の走行等を理解し、実際に体表で確認できる。</p> <p>② 各経絡が人体のどの部位を走行しているか等を実際に体表で確認できる。</p> <p>③ 各経絡に所属する個々の経穴の部位及び取穴法について学習し、実際に人体に正確に取穴を身につける。</p> <p>④ 奇穴の部位、取穴法について理解し、正確に取穴が出来る</p> <p>⑤ 各経絡が人体のどの部位を走行しているかを理解し、各経絡との関係（縦・横の関係）を修得できる。</p> <p>⑥ 各経絡の流注、経穴名、部位、取穴法、要穴等をすべて覚える事を目標とする。</p> <p>⑦ 設定された時間内で、すべての経穴名（督脈から足厥陰肝経まで）が言えるようにする。</p>
授業計画	<p>1回目 足少陰腎経（講義）</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 足少陰腎経の流注・取穴法が説明できる 足少陰腎経の流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる 五腧穴・五要穴を説明ができ、取穴することができる <p>〔備考〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 流注を整理し、必要な箇所を覚える 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 サブノートを完成させる <p>2回目 足少陰腎経の取穴（実技）</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 流注・取穴法が説明できる 流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる <p>〔備考〕</p> <ol style="list-style-type: none"> サブノート、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する 取穴できるように練習する <p>3回目 手厥陰心包経・手少陽三焦経（講義）</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 手厥陰心包経・手少陽三焦経の流注・取穴法が説明できる 手厥陰心包経・手少陽三焦経の流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる 五腧穴・五要穴を説明ができ、取穴することができる <p>〔備考〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 流注を整理し、必要な箇所を覚える 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 サブノートを完成させる <p>4回目 手厥陰心包経・手少陽三焦経（実技）</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 流注・取穴法が説明できる 流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる <p>〔備考〕</p> <ol style="list-style-type: none"> サブノート、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する 取穴できるように練習する <p>5回目 小テスト（見極めテスト）</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>足少陰腎経・手厥陰心包経・手少陽三焦経の取穴実技試験及び筆記試験</p> <p>〔備考〕</p> <p>試験で出来なかった箇所の復習をする</p> <p>6回目 足少陽胆経の取穴（講義）</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 足少陽胆経の流注・取穴法が説明できる 足少陽胆経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる 五腧穴・五要穴を説明ができ、取穴することができる <p>〔備考〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 流注を整理し、必要な箇所を覚える 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 サブノートを完成させる <p>7回目 足少陽胆経の取穴（実技）</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 流注・取穴法が説明できる 流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる <p>〔備考〕</p> <ol style="list-style-type: none"> サブノート、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する

8回目	<p>3. 取穴できるように練習する 足少陽胆経の取穴（実技）</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>1. 流注・取穴法が説明できる 2. 流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる</p> <p>〔備考〕</p> <p>1. サブノート、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する 3. 取穴できるように練習する</p>
9回目	<p>足厥陰肝経の取穴（講義）</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>1. 足厥陰肝経の流注・取穴法が説明できる 2. 足厥陰肝経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる 3. 五兪穴・五要穴を説明ができ、取穴することができる</p> <p>〔備考〕</p> <p>1. 流注を整理し、必要な箇所を覚える 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. サブノートを完成させる</p>
10回目	<p>足厥陰肝経の取穴（実技）</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>1. 流注・取穴法が説明できる 2. 流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる</p> <p>〔備考〕</p> <p>1. サブノート、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する 3. 取穴できるように練習する</p>
11回目	<p>小テスト（見極めテスト）</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>足少陽胆経・足厥陰肝経の取穴実技試験及び筆記試験</p> <p>〔備考〕</p> <p>試験で出来なかった箇所の復習をする</p>
12回目	<p>奇穴の取穴（講義）</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>1. 奇穴の部位・取穴法が説明できる 2. 奇穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる</p> <p>〔備考〕</p> <p>1. 流注を整理し、必要な箇所を覚える 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. サブノートを完成させる</p>
13回目	<p>奇穴の取穴（実技）</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>1. 奇穴（頭部、上肢、下肢）の主治・取穴法が説明できる 2. 奇穴（頭部、上肢、下肢）の取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる</p> <p>〔備考〕</p> <p>1. サブノート、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する 3. 取穴できるように練習する</p>
14回目	<p>奇穴の取穴（実技）</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>1. 奇穴（胸部、背部、中風七穴等）の主治・取穴法が説明できる 2. 奇穴（胸部、背部、中風七穴等）の取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる</p> <p>〔備考〕</p> <p>1. サブノート、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する 3. 取穴できるように練習する</p>
15回目	<p>小テスト（見極めテスト）</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>奇穴の取穴実技試験及び筆記試験</p> <p>〔備考〕</p> <p>試験で出来なかった箇所の復習をする</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書を参考に、配布されるサブノートの空欄に経穴名、部位、取穴法を記載。また、解剖の本等を参考に経穴の部位に書かれている骨・筋等を調べてくるサブノート、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する
教科書	新版 経絡経穴概論（社）東洋療法学校協会 編 医道の日本社 プリント配布（サブノート経絡経穴学基礎で配布したプリント）
参考書	改訂版 ボディ・ナビゲーション 触ってわかる身体解剖 阪本桂造 監訳 医道の日本社
成績評価	<p>① 授業回数の4/5以上出席した者に対して評価を行う。</p> <p>② 評価は、定期試験（筆記及び実技試験を行う）（60点以上合格）、小テスト、サブノートの提出、出席日数等を総合して行う。</p> <p>③ 定期試験を適切な理由無くして欠席した場合は、追試験は行わない。</p> <p>④ 前年度未修得者は、補講を行い補講（補講の課題）が終了したのものに対して試験を行い評価する</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○福田文彦</p> <p>研究室 : 鍼灸センター2階 教員室</p>

	メールアドレス : f_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 担当教員名 : ○福田晋平 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : 福田晋平 <sp_fukuda@meiji-u.ac.jp> オフィスアワー :
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
水沼 国男			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	鍼灸臨床では体表を診察し、治療部位を決定することから、体表から同定可能な局所解剖の知識及びその触察は臨床能力を向上させる上で重要である。本実習では、鍼灸臨床で重要かつ必要な骨・筋肉・血管・神経等を精選し、それらの組織が確実に触察できるように実習を通して触察技術を修得する。
授業計画	<p>1回目 体の部位の名称 解剖学的基本肢位や体の部位の名称、機能（筋の作用）を理解し覚える</p> <p>2回目 頭部・顔面・頸部 1. 参考書・解剖学の本を参考に、配布されるサブノートの空欄の部位、筋（起始、停止、作用）を記載し、筋別に色を塗る。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>3回目 頭部・顔面・頸部2 1. 参考書・解剖学の本を参考に、配布されるサブノートの空欄の部位、筋（起始、停止、作用）を記載し、筋別に色を塗る。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>4回目 小テスト（見極めテスト） 試験で出来なかった箇所の復習をする</p> <p>5回目 体幹（胸腹部）1 1. 参考書・解剖学の本を参考に、配布されるサブノートの空欄の部位、筋（起始、停止、作用）を記載し、筋別に色を塗る。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>6回目 6 体幹（胸腹部）2 1. 参考書・解剖学の本を参考に、配布されるサブノートの空欄の部位、筋（起始、停止、作用）を記載し、筋別に色を塗る。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>7回目 体幹（背部）1 1. 参考書・解剖学の本を参考に、配布されるサブノートの空欄の部位、筋（起始、停止、作用）を記載し、筋別に色を塗る。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>8回目 体幹（背部）2 1. 参考書・解剖学の本を参考に、配布されるサブノートの空欄の部位、筋（起始、停止、作用）を記載し、筋別に色を塗る。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>9回目 小テスト（見極めテスト） 試験で出来なかった箇所の復習をする</p> <p>10回目 上肢帯・上肢1 1. 参考書・解剖学の本を参考に、配布されるサブノートの空欄の部位、筋（起始、停止、作用）を記載し、筋別に色を塗る。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>11回目 上肢帯・上肢2 1. 参考書・解剖学の本を参考に、配布されるサブノートの空欄の部位、筋（起始、停止、作用）を記載し、筋別に色を塗る。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>12回目 小テスト（見極めテスト） 1. 参考書・解剖学の本を参考に、配布されるサブノートの空欄の部位、筋（起始、停止、作用）を記載し、筋別に色を塗る。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>13回目 下肢1 1. 参考書・解剖学の本を参考に、配布されるサブノートの空欄の部位、筋（起始、停止、作用）を記載し、筋別に色を塗る。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>14回目 下肢2 1. 参考書・解剖学の本を参考に、配布されるサブノートの空欄の部位、筋（起始、停止、作用）を記載し、筋別に色を塗る。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>15回目 小テスト（見極めテスト）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	鍼灸臨床では体表を診察し、治療部位を決定することから、体表から同定可能な局所解剖の知識及びその触察は臨床能力を向上させる上で重要である。本実習では、鍼灸臨床で重要かつ必要な骨・筋肉・血管・神経等を精選し、それらの組織が確実に触察できるように実習を通して触察技術を修得する。
教科書	プリント配布
参考書	改訂版 ボディ・ナビゲーション 阪本桂造 監訳 医道の日本社 改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触察技術 上肢 青木隆明 監修メイジカルビュー社

	改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触察技術 下肢・体幹 青木隆明 監修メイジカルビュー社
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業回数の4/5以上出席した者に対して評価を行う。 2. 評価は、定期試験（筆記及び実技試験を行う）（60点以上合格）8割小テスト1割（項目ごとに80点以上合格）、講義時間以外で行う出席日数1割等を総合して行う。 3. 定期試験を適切な理由無くして欠席した場合は、追試験は行わない。 4. 前年度未修得者は、2年生の講義を受講すること。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○水沼国男 研究室 : 7号館1階 保健・老年鍼灸学講座 メールアドレス : k_mizunuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 15:10～17:30</p> <p>担当教員名 : 谷口 授 研究室 : 附属鍼灸センター2階 臨床鍼灸学講座 メールアドレス : s_yoshimoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 13:30～16:30</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
角谷 英治			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	鍼灸診断学演習では、東洋医学の基礎理論と伝統鍼灸診断学の四診法を基礎として、中国伝統医学（中医学）における証候（弁証）の基礎を習得する。具体的には、中医学の特徴、弁証論治の概念、病因や弁証の構成を学ぶ。 到達目標は、八綱弁証、内傷病の気血津液弁証と蔵府弁証の主要な証、外感病の病邪弁証と六経弁証の特徴、経絡弁証を理解し、各弁証の主症状や診察所見を説明できることである。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、弁証論治と八綱弁証について [到達目標] 弁証の構成、八綱弁証の基本病証を説明できる。 予習：教科書 p232-243を読む。 復習：弁証の構成、八綱弁証の基本病証を覚える。 配布プリントをまとめる（プリント復習と略す）。</p> <p>2回目 気血津液弁証1 [到達目標] 八綱弁証（陽虚証、陰虚証）、気の弁証（気虚証、気滞証）を説明できる。 予習：教科書 p241, 248-250を読む。 復習：八綱弁証、気の病証を覚える。プリント復習。</p> <p>3回目 気血津液弁証2 [到達目標] 血の弁証（血虚証、血？証）、津液の弁証（津液不足、津液停滞）を説明できる。 予習：教科書 p250-254を読む。 復習：血の病証、津液の病証を覚える。プリント復習。</p> <p>4回目 病邪の弁証 [到達目標] 病邪（風邪、寒邪、湿邪、熱・火・暑邪、燥邪）の病証を説明できる。 予習：教科書 p244-247を読む。 復習：病邪弁証の要点、主な所見を覚える。プリント復習。</p> <p>5回目 八綱・気血津液・病邪弁証のまとめ [到達目標] 八綱・気血津液・病邪弁証の要点が説明できる。 予習：教科書 p232-254を読む。 復習：八綱・気血津液・病邪弁証の要点を覚える。プリント復習。</p> <p>6回目 蔵府弁証1 肺と心の病証 [到達目標] 肺・心の主症状や肺・心の主な病証を説明できる。 予習：教科書 p261-270を読む。 復習：肺・心の主症状や肺・心の主な病証を覚える。プリント復習。</p> <p>7回目 蔵府弁証2 脾・胃、小腸、大腸の病証 [到達目標] 脾・胃、小腸、大腸の主症状や脾胃、小腸、大腸の主な病証を説明できる。 予習：教科書 p271-278, 265-266を読む。 復習：脾・胃、小腸、大腸の主症状や主な病証を覚える。プリント復習。</p> <p>8回目 蔵府弁証3 肝・胆の病証 [到達目標] 肝・胆の主症状や肝胆の主な病証を説明できる。 予習：教科書 p279-284を読む。 復習：肝・胆の主症状や主な病証を覚える。プリント復習。</p> <p>9回目 蔵府弁証4 腎・膀胱の病証 [到達目標] 腎・膀胱の主症状や腎・膀胱の主な病証を説明できる。 予習：教科書 p289-294を読む。 復習：腎・膀胱の主症状や腎・膀胱の主な病証を覚える。プリント復習。</p> <p>10回目 蔵府弁証5 蔵府兼病証 [到達目標] 蔵府兼病証の主な病証を説明できる。 予習：教科書 p289-294を読む。 復習：臓腑の主症状と蔵府弁証の主な弁証を覚える。プリント復習。</p> <p>11回目 蔵府弁証のまとめ [到達目標] 臓腑の主症状について説明できる。蔵府弁証の主な弁証が説明できる。 予習：教科書 p260-294を読む。 復習：臓腑の主症状と蔵府弁証の主な弁証を覚える。プリント復習。</p> <p>12回目 外感病の弁証（六経弁証） [到達目標] 外感病の概要、六経弁証の伝変形式、6つの主要な病証の所見を説明できる。 外感病の概要、六経弁証の伝変形式、6つの主要な病証の所見を説明できる。 予習：教科書 p307-310を読む。 復習：外感病の概要、六経弁証の伝変形式・主病証を覚える</p> <p>13回目 経絡弁証 [到達目標] 十二経の病証（是動病と所生病を含む）、奇経の病証を説明できる。 予習：『東洋医学概論』 p84-89を読む。 復習：十二経の病証、奇経を覚える。プリント復習。</p> <p>14回目 総括1：弁証論治について [到達目標] 八綱・気血津液・病邪弁証、臓腑弁証、六経弁証、経絡弁証などの主な弁証が説明できる。 予習：主要な弁証に関するプリントの設問に答えられるように覚える。 復習：プリント復習。</p>

	<p>15回目 総括2：弁証論治について</p> <p>[到達目標] 八綱・気血津液・病邪弁証、臟腑弁証、六経弁証、経絡弁証などの主な弁証が説明でき、記載できる。</p> <p>予習：主要な弁証に関するプリントの設問に記せるように暗記する。</p> <p>復習：プリント復習。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>予習は『針灸学〔基礎編〕』を読んで予習。授業内に配られたプリントの要点をまとめて復習する。1回～4回の内容、6回～10回の内容をまとめ、中間テストに備える。</p> <p>わからない部分は調べ、わからなければ担当教員に質問したりして解決すること。</p> <p>授業範囲となる教科書の頁と伝統鍼灸治療学実習のプリントを読む。</p> <p>復習は授業内に配られたプリントを用いて、要点を整理する。</p>
教科書	針灸学〔基礎編〕 東洋学術出版社
参考書	新しい鍼灸診療：北出利勝編集、医歯薬出版社 東洋医学概論、東洋療法学校協会、医道の日本社
成績評価	<p>1. 授業回数の5分の3以上出席した者に対して評価を行う。</p> <p>2. 評価割合（筆記試験80%、小テスト10%、レポート評価10%等を総合して行う。 なお、小テストやレポート評価の割合は実施した回数にて、各10%内で配分する）</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 角谷 英治</p> <p>研究室 : 附属鍼灸センター2階 教員室</p> <p>メールアドレス : e_sumiya@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 随時</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
浅沼 博司			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	生活習慣病への対策は現在重要な課題のひとつである。 本科目では、生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について学習する。 学習目標は、将来臨床で活躍するための臨床感覚と資格試験に必要な知識の習得である。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 生活習慣病予防と改善のための運動療法を実践学習する。 ボール運動、シート・ウォーキングを体験する。</p> <p>2回目 健康ウォーキング1 健康ウォーキング理論と屋外ウォーキングの実践（校内コースA） ウォーキングの目的・効果・強度・頻度・注意事項・フォーム・スピードを理解する。</p> <p>3回目 健康ウォーキング2 屋外ウォーキングの実践（校内コースB） 心肺持久力機能の向上と、生活習慣病予防と改善の運動を理解する。</p> <p>4回目 運動療法1(筋力・巧緻性) ボール運動1 布ボール、軽量ボール、1～3kgメディシンボール他 筋力と巧緻性向上のボール運動を理解する。</p> <p>5回目 運動療法2（筋力・巧緻性・骨粗鬆症予防） ボール運動2 キック、バッティング・バターゴルフ系他 筋力・巧緻性・骨粗鬆症予防運動を理解する。</p> <p>6回目 運動療法3(持久力・転倒予防・認知症予防) シートウォーキング、スクエアシート他 持久力向上・転倒予防・認知症予防運動を理解する。</p> <p>7回目 運動療法4(対人型運動) 風船バドミントン、ミニ・テニス、卓球 継続させたい楽しい健康づくり運動を理解する。</p> <p>8回 生活習慣病概論</p> <p>9回 高血圧</p> <p>10回 脂質異常症</p> <p>11回 糖尿病</p> <p>12回 肥満、メタボリックシンドローム</p> <p>13回 学生による生活習慣病に関する発表とディスカッション</p> <p>14回 学生による生活習慣病に関する発表とディスカッション</p> <p>15回 期末試験 単位取得にかかる試験を実施する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義時間中に知識の習得、定着を目指すが必要な点は参考書での復習や教員に質問するように。
教科書	特に指定の教科書はない。
参考書	特に指定の参考書はない。
成績評価	学期末に試験を行い評価する。
担当教員の基本情報	担当教員の基本情報 担当教員名：浅沼博司 役職：内科学講座教授、附属病院内科部長 教授室：病院2階 オフィスアワー：火曜午後 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp
備考	私語は厳に慎むこと。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
西尾 庄平			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>【体力と生涯スポーツ】 授業の前半は、自身の体力がどの程度の体力水準を保持しているのか測定を行い、全国平均値と比較検討を行い、その結果を踏まえて積極的な体力づくりや健康管理のあり方、運動処方能力の修得などを学習します。その後、心拍数を用いた運動の強度設定の方法等を学習し、実際に「ウォーキング」「ジョギング」を用いて実践します。 また、球技種目を中心に様々なスポーツの楽しさを体験することにより生涯スポーツの重要性を理解させます。</p> <p>【水泳・水中運動】 後半は、健康運動実践指導者の資格取得を主目的とし、水の特性を利用した水中ウォーキング、水中でのレジスタンス運動をプールにて実践させます。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス エアロビック運動実習 I のねらいと評価の方法や履修にあたっての諸注意を説明し理解させる。 体力について(1) 体力の概念と分類等について学習し、その後「新体力テスト実施項目」について実施方法等を学習・修得する。 ウォーキング・ジョギングについて(1) 基本的なフォームと安全上の注意ならびに運動効果とエネルギー消費量のプログラムに沿った強度設定(心拍数を用いて)のやり方を学習・修得する。(運動強度と消費エネルギー(METS)も含む) レクリエーションスポーツについて レクリエーション種目を中心に様々なスポーツの基本技術の習得をめざす。 運動・スポーツの楽しさを体験することにより生涯スポーツの重要性を理解する。</p> <p>2 体力について(2) 身長、体重、座高、反復横跳び、長座体前屈、握力、立ち幅跳び、上体起し、シャトルランの測定を行い、文部科学省の「新体力テスト」全国の平均値ならびに現状の体力水準の比較検討を行わせる。</p> <p>3 体力について(3) 50M走、ハンドボール投げの測定を行い、文部科学省の「新体力テスト」全国の平均値ならびに現状の体力水準の比較検討を行わせる。</p> <p>4 ウォーキング・ジョギング(2) ウォーキングの運動効果とエネルギー消費量のプログラムに沿った強度設定(心拍数を用いて)の体験学習を行ないます。</p> <p>5 グラウンドゴルフ グリップと構え、基本ストローク動作を説明し、反復練習を行い修得させる。 ルールとゲームの進め方やマナーを理解させ、併せて簡易ラウンドゲームを行わせる。</p> <p>6 ソフトバレーボール/バドミントン 基本動作を説明し、反復練習を行い修得させる。 ルールとゲームの進め方やマナーを理解させ、その後簡易ゲームを行わせる。</p> <p>7 インディアカ/バスケットボール 基本動作を説明し、反復練習を行い修得させる。 ルールとゲームの進め方やマナーを理解させ、その後簡易ゲームを行わせる。</p> <p>8 水中運動(1) 水の特性 浮力・水圧・抵抗について理解する</p> <p>9 水中運動(2) 様々な泳法について 基本的な泳ぎを習得する</p> <p>10 水中運動(3) 心拍の測定と目標値について 心拍数の正しい測定法を習得する</p> <p>11 水中運動(4) キューイング法 目、言葉、動作によるキューイング法について習得する</p> <p>12 水中運動(5) 水中ウォーキング・水中レジスタンス運動1 水中での様々な動きを習得する</p> <p>13 水中運動(6) 水中ウォーキング・水中レジスタンス運動2 水中運動の指導法を習得する</p> <p>14 水中運動(7) 水中・水泳運動のまとめ1 運動プログラムを作成し、指導実習を行う</p> <p>15 水中運動(8) 水中・水泳運動のまとめ2 運動プログラムを作成し、指導実習を行う</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	授業後にストレッチングなど、身体のケアを充分行うこと。

教科書	授業資料は、適宜配付する。
参考書	授業資料は、適宜配付する。
成績評価	授業態度40%、授業への貢献度20%、実技評価40%。「授業態度、授業への貢献度」では、授業に出席し、自律的に目標を設定し、積極的にグループ活動に参加しているかを評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 西尾庄平 研究室 : 本館2階 メールアドレス : s_nishio@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・水曜日12時50分～13時30分 教員室 また、メールでも受け付ける。</p> <p>担当教員名 : 中才幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_nakasai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
松本 和久			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	本演習は、運動器疾患の病態把握を正確にとらえるために、前年度学んだ解剖学の知識を実際の身体に応用し、ヒトの関節の動きと全身の動きの関係を理解することを目標とする。そのために、上肢、下肢の構造と運動機能を詳細に講義し、触診・理学検査を踏まえた演習を行う。		
授業計画	第1講義	オリエンテーション 〔 授業概要 〕 本演習の講義内容および到達目標について説明し、運動機能解剖学の学習方法について教授する。 〔 到達目標 〕 鍼師・灸師に運動機能解剖学が必要である理由が説明できる。	
	第2講義	上肢（1） 肩関節の構造 〔 授業概要 〕 肩関節を構成する骨、関節、筋について教授する。 〔 到達目標 〕 肩関節を構成する骨、関節、筋について説明できる。	
	第3講義	上肢（2） 肩関節の運動機能 〔 授業概要 〕 肩関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる肩関節の運動機能について教授する。 〔 到達目標 〕 肩関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる肩関節の運動機能について説明できる。	
	第4講義	上肢（3） 肩関節の運動機能学的触診 〔 授業概要 〕 肩関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる肩関節の運動機能について教授する。 〔 到達目標 〕 肩関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる肩関節の運動機能について説明できる。	
	第5講義	上肢（4） 肘・前腕の関節の構造と運動機能 〔 授業概要 〕 肘・前腕の関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる肘・前腕の関節の運動機能について教授する。 〔 到達目標 〕 肘・前腕の関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる肘・前腕の関節の運動機能について説明できる。	
	第6講義	上肢（5） 肘・前腕の関節の運動機能学的触診 〔 授業概要 〕 肘・前腕の関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる肘・前腕の関節の運動機能について教授する。 〔 到達目標 〕 肘・前腕の関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる肘・前腕の関節の運動機能について説明できる。	
	第7講義	上肢（6） 手関節の構造と運動機能 〔 授業概要 〕 手関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる手関節の運動機能について教授する。 〔 到達目標 〕 手関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる手関節の運動機能について説明できる。	
	第8講義	上肢（7） 手関節の運動機能学的触診 〔 授業概要 〕 手関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる手関節の運動機能について教授する。 〔 到達目標 〕 手関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる手関節の運動機能について説明できる。	
	第9講義	下肢（1） 股関節の構造と運動機能 〔 授業概要 〕 股関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる股関節の運動機能について教授する。 〔 到達目標 〕 股関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる股関節の運動機能について説明できる。	
	第10講義	下肢（2） 股関節の運動機能学的触診 〔 授業概要 〕 股関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる股関節の運動機能について教授する。 〔 到達目標 〕 股関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる股関節の運動機能について説明できる。	
	第11講義	下肢（3） 膝関節の構造と運動機能 〔 授業概要 〕	

	<p>膝関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる膝関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 膝関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる膝関節の運動機能について説明できる。 下肢（４） 膝関節の運動機能学的触診 [授業概要] 膝関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる膝関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 膝関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる膝関節の運動機能について説明できる。</p> <p>第13講義 下肢（５） 足関節の構造と運動機能 [授業概要] 足関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる足関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 足関節を構成する骨、関節、筋が関与して生じる足関節の運動機能について説明できる。</p> <p>第14講義 下肢（６） 足関節の運動機能学的触診 [授業概要] 足関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる足関節の運動機能について教授する。 [到達目標] 足関節を構成する骨、関節、筋の触診と、それらが関与して生じる足関節の運動機能について説明できる。</p> <p>第15講義 まとめ 全体を通じて理解できにくかった内容について、再度、教授する。</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）に ついて	二回目以降の講義前に、講義範囲の教科書を熟読（動画を含む）しておくこと。
教科書	動画でマスター！ 機能解剖学的触診技術 上肢＋下肢・体幹セット 監修 林 典雄 定価 5,400円（税込）メジカルビュー社 上記または、 運動療法のための機能解剖学的触診技術上肢 改訂第2版 監修 青木 隆明 定価 6,156円（税込）メジカルビュー社 運動療法のための機能解剖学的触診技術下肢・体幹 改訂第2版 監修 青木 隆明 定価 6,156円（税込）メジカルビュー社
参考書	特になし
成績評価	出席状況と授業中の態度（50%）、講義直後に実施する小テストの結果（50%）により総合評価する。
担当教員の基本情報	オフィスアワーについては講義日程が決定し次第、授業時間内に指示する。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
林 知也, 川喜田健司			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	スポーツ・運動時の循環, 呼吸, 神経, 筋, およびエネルギー代謝などの生体諸機能の変化および反応について, 運動生理学的な視点から学習する。目的に応じた効果を得るためのトレーニング方法について, 運動生理学的観点から考察できるようにする。		
授業計画	第1回	骨格筋の構造と機能 到達目標：オリエンテーション, 筋の構造, 興奮収縮連関, 骨格筋のタイプについて説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。(第1章)	
	第2回	筋力と筋パワー、筋肥大と損傷 到達目標：筋収縮の様式, 筋力に影響する因子, 筋パワー, トレーニングと筋力の変化, 筋肥大のメカニズムについて説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。(第2章, 第7章)	
	第3回	神経系による運動の調節 到達目標：神経系の構造, ニューロンの構造, 運動単位, 筋力調節, 反射運動, 随意運動について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。(第3章)	
	第4回	運動と筋ATP代謝 到達目標：ATP, エネルギー供給源, 持久トレーニング, スプリントトレーニング, 酸素摂取量, 換気性作業閾値(VT), AT概念, エネルギー代謝, 酸素利用能と基質利用との関連について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。(第4章)	
	第5回	運動時の物質代謝 到達目標：糖質代謝, 脂質代謝, 蛋白質代謝, 運動時の代謝, 酸素借, EPOC, 呼吸商, METs, 乳酸代謝について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。(第6, 10章)	
	第6回	運動時のホルモン分泌 到達目標：ホルモン分泌と視床下部調節, 運動とストレスホルモン, 運動と脳, 運動適応について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。(第5章)	
	第7回	運動と呼吸・循環-1 到達目標：肺換気のメカニズム, 死腔と肺胞換気量, 呼吸の調節機構, 運動時の心拍出量変化, スポーツ心臓について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。(第8章)	
	第8回	運動と循環-2 到達目標：運動と血流配分, トレーニングによる血流の変化, 毛細血管とトレーニングについて説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。(第9章)	
	第9回	運動と酸化ストレス・骨代謝 到達目標：酸素と酸化ストレス, 活性酸素の生成, 運動と活性酸素, 運動と骨量, 運動時と不活動時のモデリング・リモデリング, 運動ストレスと骨量変化 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。(第10章)	
	第10回	運動と環境 到達目標：暑熱環境での運動と熱中症, 水中での運動の特質, 高地でのトレーニング効果について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。(第11章)	
	第11回	運動と発達発育と加齢 到達目標：成長期のトレーナビリティ, 筋系の発育発達パターン, 加齢にともなう神経と筋の変化, 高齢者のトレーニング効果について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。(第17, 18章)	
	第12回	生活習慣病と運動 到達目標：肥満と運動, 高脂血症と運動, 高血圧と運動, 糖尿病と運動について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。(第16章)	
	第13回	運動処方 到達目標：体力測定, 健康と運動の関係, 高齢者の運動について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。(第15章)	
	第14回	水分と栄養摂取 到達目標：栄養の概念, 栄養と身体の構成, 運動時の糖補給について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書ならびに配布資料を熟読すること。(第14章)	
	第15回	まとめ 到達目標：この科目での学習範囲について理解した上で, スポーツ・運動時の機能変化, 及び適切なトレーニングを説明できる。	
授業時間外の学習(準備学習等)について	該当分野に関して, 教科書を熟読し, その上で配布プリントにて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし, それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。		

教科書	『運動生理学20講（第3版）』勝田 茂, 征矢英昭 編著（朝倉書店）
参考書	特に指定しない。 ※運動生理学, スポーツ生理学関連の本
成績評価	期末試験の結果（100%）にて評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○林 知也 研究室 : 8号館4階 林（知）教授室 メールアドレス : tomoya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 川喜田健司 研究室 : 1号館2階 川喜田教授室 メールアドレス : k_kawakita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日17:00-18:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
吉田 行宏			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	スポーツ医学基礎は、スポーツにおける心身の状態を理解し、適切な対応ができる基本的な知識を養うことを目的とする。特に、本科目は、2年後期に開設される「スポーツ医学応用」とともに、JATAC-ATCや健康運動実践指導者、日本体育協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学部は、「スポーツプログラマー」、保健医療学部は、「スポーツプログラマー」と「ジュニアスポーツ指導員」を取得するための科目である。		
授業計画	1回目	1. ガイダンス、2. 指導者の役割（スポーツ指導者とは、指導者の心構え・視点、世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割について） [到達目標] 1. 講義ガイダンスにて本科目「スポーツ医学基礎」の概要を知る。 2. 指導者の役割を理解し、概要の説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	2回目	文化としてのスポーツ [到達目標] 1. スポーツの概念と歴史を理解し、説明ができる。 2. 文化としてのスポーツを理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	3回目	トレーニング論（1） [到達目標] 1. 体力の概念を理解し、説明ができる。 2. トレーニングの進め方を理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	4回目	トレーニング論（2） [到達目標] トレーニングの種類を理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	5回目	指導者に必要な医学的知識（1） [到達目標] スポーツ活動中に多いケガや病気（内科系）を理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	6回目	指導者に必要な医学的知識（2） [到達目標] スポーツ活動中に多いケガや病気（外科系）を理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	7回目	指導者に必要な医学的知識（3） [到達目標] 1. スポーツ活動中に多いケガや病気（外科系）を理解し、説明ができる（その2）。 2. 救急処置（外科的応急処置：RICEと傷の手当て）を理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	8回目	指導者に必要な医学的知識（4） [到達目標] 救急処置（救急蘇生法）を理解し、説明・実践ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	9回目	スポーツと栄養について [到達目標] 五大栄養素の役割や、スポーツ選手の栄養補給と水分摂取などを理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。	
	10回目	指導計画と安全管理 [到達目標]	

	<p>1. 指導計画の立て方を理解し、説明できる。 2. スポーツ活動と安全管理を理解し、説明できる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 ジュニア期のスポーツ (1)</p> <p>[到達目標] 1. 発育発達期の身体的特徴を理解し、説明ができる。 2. 発育発達期の心理的特徴を理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 ジュニア期のスポーツ (2)</p> <p>[到達目標] 1. 発育発達期に多いケガや病気を理解し、説明ができる。 2. 発育発達期のプログラムを理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 地域におけるスポーツ振興</p> <p>[到達目標] 1. スポーツ振興方策と行政との関わりを理解し、説明ができる。 2. 統合型地域スポーツクラブの必要性を理解し、説明ができる。 3. スポーツ少年団と指導者との関わりを理解し、説明ができる。 [備考] テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。</p> <p>14回目 まとめ</p> <p>15回目 評価 (筆記試験)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の予習と復習のため、一度は教科書を読んでおくこと。 ・2020年に日本でオリンピックが開催されることが決定し、世間でのスポーツにおける関心が高まっています。スポーツニュースなどを積極的に見て、各種スポーツの競技概要や日本や世界のスポーツ界の現状について把握しておく。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目 I」 (財) 日本体育協会編 (財) 日本体育協会)
参考書	特記なし
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席基準を満たした者を対象に試験を実施して評価する。 ・評価方法は筆記試験で行う。評価割合は筆記試験90%、小テスト10%とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田行宏 研究室 : 7号館 2F教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日 15:10-16:40</p> <p>担当教員名 : 片山憲史 研究室 : 7号館 1F教授室 メールアドレス : k_katayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 15:10-16:40</p> <p>担当教員名 : 木村啓作 研究室 : 7号館 2F教員室 メールアドレス : k_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 15:10-16:40</p> <p>担当教員名 : 糸井啓純 研究室 : 附属病院2F教授室 メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 17:00-18:00</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
片山 憲史			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>スポーツ医学応用は、スポーツにおける心身の状態を理解し、適切な対応ができる基本的な知識を養うことを目的とする。また、今後開設される、健康とスポーツに関連する科目を理解するための基礎知識を習得する。</p> <p>特に、本科目は、2年前期に開設される「スポーツ医学基礎」とともに、日本体育協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学部は、「スポーツプログラマー」、保健医療学部は、「スポーツプログラマー」と「ジュニアスポーツ指導員」を取得するための科目である。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、スポーツと運動機能(1) [到達目標] 1. 講義ガイダンスにて本科目「スポーツ医学応用」の概要を知る。 2. 上肢の運動学（握る）について理解し、概要の説明ができる。</p> <p>2回目 スポーツと運動機能(2) [到達目標] 1. 上肢の運動学（投げる）について理解し、概要の説明ができる。</p> <p>3回目 スポーツと運動機能(3) [到達目標] 1. 下肢の運動学（歩行）について理解し、概要の説明ができる。</p> <p>4回目 スポーツと運動機能(4) [到達目標] 1. 下肢の運動学（走行）について理解し、概要の説明ができる。</p> <p>5回目 社会の中のスポーツ [到達目標] 1. 社会の中のスポーツについて理解し、説明ができる。 2. 日本におけるスポーツプロモーションについて理解し、概要の説明ができる。</p> <p>6回目 スポーツの心理（1） [到達目標] 1. スポーツと心について理解し、説明ができる。</p> <p>7回目 スポーツの心理（2） [到達目標] 1. スポーツにおける動機づけについて理解し、概要の説明ができる。</p> <p>8回目 対象に合わせたスポーツ指導（1） [到達目標] 1. 成長期とスポーツについて理解し、説明ができる。</p> <p>9回目 対象に合わせたスポーツ指導（2） [到達目標] 1. 中高年者とスポーツについて理解し、説明ができる。</p> <p>10回目 対象に合わせたスポーツ指導（3） [到達目標] 1. 女性とスポーツ（身体的・心理的特徴）について理解し、説明ができる。</p> <p>11回目 対象に合わせたスポーツ指導（4） [到達目標] 1. 女性とスポーツ（トレーナビリティとプログラム）について理解し、説明ができる。</p> <p>12回目 トレーナー活動の実際（1） [到達目標] 1. 第一線で活躍しているスポーツトレーナーを招聘し、現状などを理解する。</p> <p>13回目 トレーナー活動の実際（2） [到達目標] 1. 第一線で活躍しているスポーツトレーナーを招聘し、現状などを理解する。</p> <p>14回目 まとめ スポーツ医学応用についてのまとめ（試験の傾向と対策）</p> <p>15回目 評価 筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> 講義の予習と復習のため、一度は教科書を読んでおくこと。 スポーツニュースなどを積極的に見て、各種スポーツの競技概要や日本や世界のスポーツ界の現状について把握しておく。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目II」 日本体育協会編（日本体育協会）
参考書	特記無し
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> 出席基準を満たした者を対象に試験を実施して評価する。 評価は筆記試験（100%）で行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：片山憲史 研究室：7号館1F教授室、2F教員室</p>

	<p>メールアドレス : k_katayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 15:10-16:40</p> <p>担当教員名 : 糸井啓純 研究室 : 附属病院2F教授室 メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 木村啓作 研究室 : 7号館2F教員室 メールアドレス : k_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 15:10-16:40</p> <p>担当教員名 : 吉田行宏 研究室 : 7号館2F教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日 15:10-16:40</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
坂部 昌明			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	法律は難解なもの、専門家だけのものではありません。確かに法律用語は親しみ難いかも知れませんが、経穴を覚えることの方が大変です。身近なものとして法律に親しんでくださることを願っています。皆さんの目指す鍼灸師の根拠となる「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」を学ぶことにより、鍼灸師の業務範囲、施術の限界を理解し、鍼灸院の開設手続きを学習するとともに免許の大切さを自覚してください。 可能な限り判例、具体事例を引用して説明しますので、興味をもって受講してください。
授業計画	<p>1回目 法の意義、法の体系。 インフォームドコンセント [到達目標] わが国の法体系、法令の優劣順位を学ぶ。 インフォームドコンセントの必要性と患者の権利を実践できるようにする。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 1～ p 3） ※第7版のページを示す（以下に同じ）</p> <p>2回目 法制定の目的・免許（総説、資格要件） [到達目標] 施術者免許の欠格事由を覚える。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 6～ p 10）</p> <p>3回目 免許（免許申請、書換交付、再交付） [到達目標] それぞれの定義と申請手続き・添付書類を覚える。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 10～ p 12）</p> <p>4回目 施術者の把握 [到達目標] 「名簿に登録する」の法的効果、意義を理解する。 名簿登録削除・訂正申請の手続き、失踪宣告を学ぶ。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 12～ p 15）</p> <p>5回目 施術者の身分の消滅と復活、国家試験 [到達目標] 身分の消滅事項と復活の相互関係を理解する。 国家試験の実際と出願手続きを学ぶ。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 15～ p 17）</p> <p>6回目 業務（第4条、第5条、第6条、第8条関係） [到達目標] 医師法、薬剤師法との関係、施術の限界を理解する。 消毒義務、知事等の「指示」の重要性を学ぶ。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 17～ p 21）</p> <p>7回目 守秘義務、施術所（意義・届出・要件） [到達目標] 守秘義務の内容・必要性、患者の保護法益を理解する。 届出事項、構造設備、衛生上必要な措置を覚える。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 21～ p 23）</p> <p>8回目 知事等の施術所監督、業務形態 [到達目標] 「監督」と上記6の「指示」の違いを理解する。 施術所業務、出張専業業務、滞在業務の形態を理解し、将来の参考とする。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 23～ p 25）</p> <p>9回目 広告の制限 [到達目標] 広告を制限する理由、必要性を理解する。 広告できる事項と現実の広告とのギャップを学ぶ。</p> <p>[備考]</p>

	<p>予習（教科書 p 25～p 27） 近隣鍼灸院の看板を見て、法令違反の箇所をチェックする。 医療法 [到達目標] 医療理念、病院・診療所等の区分を理解する。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 48～p 53） 11回目 医師法 [到達目標] 医師の業務を学び、鍼灸施術の限界を知る。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 54～p 55） 12回目 保健師助産師看護師法、その他の医療従事者の法律 [到達目標] 医療従事者のそれぞれの業務を理解する。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 56～p 64） 13回目 薬事法規 [到達目標] 薬剤師の業務を学び、鍼灸施術の限界を知る。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 65～p 69） 14回目 衛生法規、福祉法規 [到達目標] 介護保険法等を学び鍼灸師としての幅を広げる。</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 70～p 106） 15回目 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習を重視します。 講義予定のページを事前に、疑問をもって熟読し、講義を聞いてもその疑問が解消しないときは、いつでも質問してください。 パソコンからのメールによる質問も歓迎します。（携帯メールは不可）
教科書	「関係法規（第7版）」前田和彦著（医歯薬出版株式会社）社団法人東洋療法学校協会編 ※ 必ず購入してください（今年の教科書でも大丈夫です） 最新年度版『療養費の支給基準』社会保険研究所
参考書	教科書の補足、重要事項のまとめとして「プリント」を配付します。 授業で使用しますから、必ず持参してください。
成績評価	筆記試験を中心として評価しますが、出席状況、受講態度（私語、無断退出、居眠り）も20%を限度として考慮することがあります。 法律は応用が大切ですから、説明をしっかりと聞いてください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 坂部昌明（非常勤講師） 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : info.sk285@gmail.com オフィスアワー : メールでの質問を歓迎します。2、3日後には返信します。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	病原体と感染防御の仕組み（自然免疫と獲得免疫）について感染症学と免疫学で学んだ知識に基づいて、また、健康な生活の維持に関わる環境因子について衛生・公衆衛生学で学んだ知識に基づいて、観察と実験を通して具体的に理解する。
授業計画	<p>第1, 2, 3回 細菌の染色と培養 細菌の特徴を理解する。 咽頭常在菌と病原菌について理解する。</p> <p>第4, 5, 6回 細菌の形態と性状、消毒法 細菌のコロニーの形態と菌の形態的特徴について理解する。 消毒法の問題点について具体的に理解する。</p> <p>第7, 8, 9回 抗体の検出、免疫系の組織・器官 抗原抗体反応の特異性について理解する。 生体における免疫器官の配置と構造、構成する細胞群について理解する。 凝集反応、溶血反応について理解する。</p> <p>第10, 11, 12回 物理的環境因子：気候条件 気候条件と健康の関わりを理解する。 温熱の4要素と主な温熱指標について理解する。 気候条件の測定法を理解する。</p> <p>第13, 14, 15回 物理的環境因子：照度、騒音 照度、騒音と健康の関わりを理解する。 照度、騒音の測定法を理解する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前に実習書をよく読んで、その日の実習内容を理解しておく。 行った実習項目についてはその日のうちにレポートにまとめる。
教科書	公衆衛生・生体防御学実習書（明治国際医療大学 免疫・微生物学教室 編）
参考書	<p>図解臨床検査 坂崎 利一 編 (文光堂)</p> <p>戸田新細菌学 森 良一 他 (南江堂)</p> <p>臨床細菌学アトラス 桑原 章吾 他 (文光堂)</p> <p>衛生試験法・注解 編集) 日本薬学会 (金原出版)</p>
成績評価	レポートで評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日、金曜日 12:40-13:30</p> <p>担当教員名 : 千葉 章太 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室 メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日、金曜日 12:40-13:30</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
木村 篤史			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>【教育目標】本講では、リハビリテーション総論と各論に大別して講義を進める。総論ではリハビリテーションの概念、歴史的位置付けと医学的リハビリテーションについて学習し、各論では各疾患に対する具体的なリハビリテーションと、臨床で実際行われている運動療法とそれに関する運動メカニズムについて学習する。</p> <p>【教育概要】総論では、リハビリテーションの概念と歴史的位置付け、また医学的リハビリテーションの対象、評価方法などについて講義する。</p> <p>各論では、脳卒中・片麻痺、脳性麻痺、脊髄損傷、運動器疾患、呼吸器疾患、心疾患など多くの疾患の具体的な内容をあげ、その疾患と障害についての各々のリハビリテーションについて理解を深める。</p>
授業計画	<p>1回 日本の医学の歴史とリハビリテーション [授業概要] 日本の医学の歴史と伝統医学とリハビリテーションの関連について学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>2回 リハビリテーション総論 [授業概要] 評価について学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>3回 リハビリテーション各論 脳血管障害 [授業概要] 脳卒中のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>4回 リハビリテーション各論 脊髄損傷 [授業概要] 脊髄損傷のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>5回 リハビリテーション各論 脳性麻痺・切断 [授業概要] 脳性麻痺・切断のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>6回 リハビリテーション各論 呼吸器・循環器疾患 [授業概要] 呼吸器疾患・心疾患のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>7回 リハビリテーション各論 神経難病・高齢者 [授業概要] 神経難病・高齢者のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 上記内容に関する確認テストにて適切な解答を導き出すことができる。</p> <p>8回 試験の実施 第1回～第7回の講義内容を踏襲した試験を実施。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	準備学習として、次講義に該当する教科書の項目を予め熟読すること。また復習として、講義内容に関して教科書を再度熟読するとともに、講義内に実施した確認テストの内容を再度確認し、内容に不明な点があれば該当する教科書および参考書の項目を熟読すること。それでも解決しない場合は、担当教員にメールで連絡し、オフィスアワーに質問すること。
教科書	「リハビリテーション医学」東洋療法学校協会篇 土肥信之著（医歯薬出版）
参考書	「リハビリテーション医療」平澤泰介、田島文博（編集）（金芳堂）
成績評価	学年末試験の得点から、正当な理由のない欠席は10点、遅刻は5点をその回数分減点し、その点数により成績を評価する。その結果、合格点に達しない場合は追試験を実施する。
担当教員の基本情報	担当教員名：木村篤史 研究室：なし（附属病院 総合リハビリテーションセンターまで） メールアドレス：a_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：メールにて事前連絡の後、随時調整する
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
森永 敏博			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	各種疾病や傷害によって生じる運動機能障害に対するリハビリテーションの理解を深める。運動の意義、体力など総論的知識の習得に加え、臨床に役立つと思われる姿勢、身体各部の運動、歩行や異常歩行などについても論じる。		
授業計画	1回目	運動器系障害とは何か？障害を構成する要素 [到達目標] 運動器系リハにおける運動学の意味を理解する。	
	2回目	[備考] 運動障害の原因や分類などについて予習しておくこと 運動のしくみ [到達目標] 運動の面、軸、挺子の原理について理解する。	
	3回目	[備考] 教科書137p～143pを予習しておくこと 関節の機能と構造について [到達目標] 関節の種類と可動域（ROM）について理解する。	
	4回目	[備考] 教科書201p～204p、解剖学の復習をしておくこと 筋肉の構造と機能について [到達目標] 筋の収縮様態と関節運動について理解する。	
	5回目	[備考] 教科書204p～208pの予習、生理学の復習をしておくこと 筋委縮と筋肥大について [到達目標] 運動麻痺と筋力の評価法について理解する。	
	6回目	[備考] 教科書27p～37pの予習、生理学の復習をしておくこと 筋力増強法について [到達目標] 等尺訓練法や等張訓練法について理解する。	
	7回目	[備考] 筋収縮について生理学の復習をしておくこと 廃用症候群について [到達目標] 安静と機能低下の関連性について理解する。	
	8回目	[備考] 教科書38p～40pの予習をしておくこと 中枢神経疾患と運動障害について1 [到達目標] CVAによる運動障害の特長について理解する。	
	9回目	[備考] 教科書72p～81pの予習をしておくこと 中枢神経疾患と運動障害について2 [到達目標] CVAのリハについて理解する。	
	10回目	[備考] 教科書72p～81pの予習、復習をしておくこと 脊髄損傷による運動障害について [到達目標] 合併症とリハの進め方について理解する。	
	11回目	[備考] 教科書82p～88pの予習をしておくこと 関節リウマチについて [到達目標] 変形、補装具、運動療法などについて理解する。	

	<p>12回目</p> <p>[備考] 教科書 116 p～120 p の予習をしておくこと いわゆる五十肩や腰痛症について [到達目標] 発生のメカニズムや運動療法について理解する。</p> <p>13回目</p> <p>[備考] 教科書 102 p～104 p の予習をしておくこと 変形性関節症、その他について [到達目標] リハの基本について理解する。</p> <p>14回目</p> <p>[備考] 教科書 105 p～108 P の予習をしておくこと 異常歩行について [到達目標] 異常歩行の原因、評価について理解する。</p> <p>15回目</p> <p>[備考] 教科書 189 p～193 p の予習をしておくこと。 まとめと評価</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義内容を理解するにあたっては、解剖学や生理学で学習した内容とのかかわりが深い。 講義の項目に該当する部分をあらかじめ復習し、講義に出席することが望まれる。
教科書	「リハビリテーション医学」土肥信之著（東洋療法学会編、医歯薬出版）
参考書	「基礎運動学」中村隆一、他著、（医歯薬出版）
成績評価	期末試験 80%、平常点 20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 森永敏博（非常勤講師） 研究室 : 四條畷学園大学リハビリテーション学部 メールアドレス : morinaga@reha.shijonawate-gakuen.ac.jp オフィスアワー :
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
角谷 英治			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	[授業目標] 鍼灸の科学的研究を通して、鍼灸作用に関する基礎医学的知識を身に付ける。 鍼灸研究のこれまでの概要と鍼灸作用である鍼鎮痛の作用機序、各種生体機能（内臓、器官）、運動器系に及ぼす影響の作用機序についての知識および、鍼灸の治効理論と関連学説についての知識を身に付ける。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、鍼灸研究総論 鍼灸医学の科学化の必要性和現代における情勢について理解する。</p> <p>2回目 神経系総論 神経系の概要を復習する。</p> <p>3回目 痛覚の生理と鍼灸刺激の伝導路 痛みの生理と鍼灸刺激の伝導路について理解する。</p> <p>4回目 鍼鎮痛の作用機序1 鍼鎮痛の概要とストレス鎮痛・下行性痛覚抑制系について理解する。</p> <p>5回目 鍼鎮痛の作用機序2 広汎性侵害抑制調節・脊髄分節性の痛覚抑制について理解する。</p> <p>6回目 鍼麻酔と通電療法鍼麻酔と通電療法 鍼麻酔と鍼通電、TENSおよびSSP療法の特徴と相違について理解する。</p> <p>7回目 自律神経系の特徴について 自律神経系の特等について理解する。</p> <p>8回目 鍼灸と循環器系 鍼灸刺激が循環器系に及ぼす影響と作用機序について理解する。</p> <p>9回目 鍼灸と消化器系 鍼灸刺激が胃・小腸・大腸機能機能に及ぼす影響と作用機序について理解する。</p> <p>10回目 鍼灸と泌尿・生殖器系 鍼灸刺激が腎臓・膀胱および男性生殖器・女性生殖器に及ぼす影響と作用機序について理解する。</p> <p>11回目 鍼灸と運動器系 鍼灸刺激が運動機能に及ぼす影響と作用機序について理解する。</p> <p>12回目 鍼灸の治効理論と関連学説 鍼灸の治効理論と関連学説について理解する。</p> <p>13回目 まとめ 1 「神経系総論」「痛覚の生理と鍼灸刺激の伝導路」「鍼鎮痛の作用機序」「鍼麻酔と通電療法」について学習した内容をまとめる。</p> <p>14回目 まとめ 2 「自律神経系の特徴について」「鍼灸と循環器系」「鍼灸と消化器系」について学習した内容をまとめる。</p> <p>15回目 まとめ 3 「鍼灸と泌尿・生殖器系」「鍼灸と運動器系」「鍼灸の治効理論と関連学説」について学習した内容をまとめる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・「人体機能学」を良く復習しておくこと。 ・配布資料を熟読し、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問して解決すること。 ・単元ごとに配布する「授業内容の要点」をまとめること。
教科書	特になし
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「はりきゅう理論」教科書執筆小委員会著（医道の日本社） ・「鍼灸臨床最新科学ーメカニズムとエビデンスー」川喜田健司、矢野忠 編集（医歯薬出版） ・「生理学ー第2版ー」佐藤優子、佐藤昭夫 他著（医歯薬出版） ・「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎昭弘著（医歯薬出版） ・「鍼灸臨床の科学」西條一止、熊澤孝朗監修（医歯薬出版） ・「慢性疼痛の理解と医療提携」宮崎東洋，北出利勝編集（真興交易 医書出版部）
成績評価	評価方法と評価割合（筆記試験90%，出席5%，受講態度5%）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 角谷 英治 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : e_sumiya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日16:00-17:00</p> <p>担当教員名 : 新原 寿志 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : h_shinbara@meiji-u.ac.jp</p>

	<p> オフィスアワー : 金曜日16:00-17:00 担当教員名 : 谷口 博志 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : h_taniguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日16:00-17:00 担当教員名 : 日野 こころ 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : hinokokoro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日16:00-17:00 </p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>附属鍼灸センター実習等で即応できる東洋医学的な診断・治療を理解することを目的とする。東洋医学的病態把握を行うために、東洋医学の診察（四診）から病因や病証を考える。あわせて、鍼灸医学における身体観や生命観などの理解を深めるとともに、医療人としての基本的な態度を養うことも目的とする。</p> <p>到達目標は、四診から病証（①臓腑病、②経脈病、③経筋病、④外感病の有無）、主な病証を推測できることである。また模擬症例により病証の基本的診断能力を修得し、治療方針と配穴を考えられることを目標としている。</p>		
授業計画	1回目	ガイダンス、臓腑経絡学説について [到達目標] 臓腑経絡学説に基づく鍼灸診察・治療法の概要を説明できる。 予習：教科書 p148-150を読む。 復習：臓腑経絡学説に基づく鍼灸診察・治療法の概要をまとめて、覚える。	
	2回目	臓腑病の診断と治療 [到達目標] 臓腑病の特徴、主な臓腑の病証と、その治療を説明できる。 予習：教科書 p150-152を読む。 復習：臓腑病の主症状と特徴、治療を覚える。配布プリントをまとめる。	
	3回目	臓腑病の診断と治療（実習1） [到達目標] 臓腑病の診察（舌診、問診、背・腹診、切穴）と主な病証を把握ができ、選穴と基本的な治療が行える。 予習：前回のプリントで実習の確認。復習：臓腑病の病証判断の要点と基本的治療をまとめる。	
	4回目	経脈病の診断と治療 [到達目標] 経脈病の主な病証と、その治療を説明できる。 予習：教科書 p152を読む。 復習：経脈病の要点と治療の基本を覚える。配布プリントをまとめる。	
	5回目	経脈病の診断と治療（実習2） [到達目標] 経脈病の診察（問診、脈診・切経などの切診）と主な病証を把握ができる。 予習：前回のプリントで実習の確認。復習：経脈病の病証判断の要点と基本的治療をまとめる。	
	6回目	経筋病の診断と治療 [到達目標] 経筋病の主な病証と、その治療を説明できる。 予習：教科書 p152-153を読む。 復習：経筋病の要点と治療の基本を覚える。配布プリントをまとめる。	
	7回目	経筋病の診断と治療（実習3） 予習：前回のプリントで実習の確認。 復習：経筋病の病証判断の要点と基本的治療をまとめる。	
	8回目	臓腑病・経脈病・経筋病の診断と治療（実習4） [到達目標] 臓腑病・経脈病・経筋病を診断して、治療を行う。 予習：プリントで実習の再確認。 復習：臓腑・経脈・経筋病の要点と基本的治療を再度整理してまとめる。	
	9回目	症例報告1 [到達目標] 症例報告から病証の把握、病因と病機を考え、病証を判断ができる。 予習：臓腑・経脈・経筋病を再確認。復習：症例を通じて、病証の把握、病因と病機を考え方を整理する。	
	10回目	外感病の診断と治療（実習5） [到達目標] 外感病を診断して、治療を行う。外感病でない場合は内生五邪について検討する。 予習：伝統鍼灸治療学実習の外感病のプリントを読む。 復習：外感病の病証判断の要点と治療をまとめる。	
	11回目	病証の診断と治療（実習6） [到達目標] 主な弁証における論治が説明できる。 予習：主要な弁証所見を読む。 復習：主な弁証論治を整理する。	
	12回目	症例報告2 [到達目標] 症例報告から病証の把握、病因と病機を考え、弁証を導き、選穴と治療法を説明できる。 予習：プリントで治療法の再確認。 復習：症例から病因病機を考え、証判断と治療を整理する。	
	13回目	総括 病証の診断、病因病機と治療 [到達目標] 提示された症例に対して、病因、主な病機、病証を判断ができ、選穴と基本的な治療ができる。 予習：病因病機と弁証論治の確認。 復習：症例の主な病因病機、病証の判断、基本的な治療を整理する。	
	14回目	知識的総括 [到達目標] 伝統鍼灸診断学の基礎から応用の要点が書ける。 学習：伝統鍼灸診断学の知識と症例、証の診断・治療を理解する。	
	15回目	実技的総括 [到達目標] 臓腑病・経脈病・経筋病・外感病を鑑別診断できる。 学習：症例を読んで病証を判断し、治法や選穴が説明する。	

授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習は授業範囲となる教科書の頁と伝統鍼灸治療学実習のプリントを読む。 復習は授業内に配られたプリントを用いて、要点を整理する。
教科書	新しい鍼灸診療：北出利勝編集、医歯薬出版社
参考書	針灸学 [基礎編] 東洋学術出版社 中医針灸治療のプロセス：朱江ほか編、篠原昭二監訳、東洋学術出版社
成績評価	1. 授業回数の5分の4以上出席した者に対して評価を行う。 2. 評価割合は、筆記試験30%、実技試験40%、レポート評価25%、 実習参加の態度における評価10%等を総合して行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 和辻 直 研究室 : 附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	実習の場合は、白衣、名札、所見ボードを持参すること。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
石崎 直人			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	内科系臨床鍼灸学では、鍼灸臨床にとって必要な主要症候のうち、内科系（便秘異常、食欲不振、悪心・嘔吐、腹痛、胸痛・動悸、呼吸困難、肥満、血圧異常）及び心身医学系（うつ病、神経症、不眠）の主要症候を取り上げ、それらの主要な原因疾患、症状の特徴、診察（鍼灸治療の適応か不適かの鑑別も含めて）および診察法、治療方針、鍼灸治療の方法について学習する。本講義では、内科系の主要症候について、適切な診察をすることができ、鍼灸治療の適否を判断した上で治療できることを到達目標とする。
授業計画	<p>第1回 便秘異常 便秘および下痢を中心とした便秘異常の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。</p> <p>第2回 食欲不振・悪心・嘔吐・腹痛 食欲不振の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。</p> <p>第3回 肥満・糖尿病 肥満・糖尿病の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。</p> <p>第4回 血圧の異常 血圧異常の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。</p> <p>第5回 胸痛・動悸と虚血性心疾患 胸痛・動悸を起こす虚血性心疾患の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。</p> <p>第6回 呼吸困難 呼吸困難の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。</p> <p>第7回 まとめ1 はり師きゅう師国家試験に出題されている内科系の症候の基本を理解し、鍼灸治療に関わる知識を習得する。</p> <p>第8回 心の病に対する鍼灸治療の考え方 心の病（心身医学）の概要と、鍼灸治療適用の考え方について理解できる。</p> <p>第9回 症例による学習（1） 心身医学系の愁訴を持つ症例の検討・発表を通じて以下の内容を学習する。1. 現代学的病態把握、2. 東洋医学的病態把握、3. 把握した病態に対する鍼灸治療。</p> <p>第10回 症例による学習（2） 心身医学系の愁訴を持つ症例の検討・発表を通じて以下の内容を学習する。1. 現代学的病態把握、2. 東洋医学的病態把握、3. 把握した病態に対する鍼灸治療。</p> <p>第11回 症例による学習（3） 心身医学系の愁訴を持つ症例の検討・発表を通じて以下の内容を学習する。1. 現代学的病態把握、2. 東洋医学的病態把握、3. 把握した病態に対する鍼灸治療。</p> <p>第12回 症例による学習（4） 心身医学系の愁訴を持つ症例の検討・発表を通じて以下の内容を学習する。1. 現代学的病態把握、2. 東洋医学的病態把握、3. 把握した病態に対する鍼灸治療。</p> <p>第13回 緩和医療と鍼灸治療 緩和ケアにおける鍼灸治療の意義と実際について理解できる</p> <p>第14回 臨床鍼灸学Ⅰ 内科系 のまとめ（1） 本講義の総復習</p> <p>第15回 臨床鍼灸学Ⅰ 内科系 のまとめ（2） 本講義の総復習</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義で配布される資料に基づいて毎回1～2時間の復習を目安にしてください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に資料を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	講義中に配布する資料を標準テキストとみなす。
参考書	『鍼灸学 基礎編』 天津中医学院+学校法人後藤学園編 東洋学術出版社 『鍼灸学 臨床編』 天津中医学院+学校法人後藤学園編 東洋学術出版社 『内科学』 杉本恒明ほか編 朝倉書店 『新臨床内科学』 高久史磨ほか編 医学書院 『病気がみえる①消化器、②循環器、③代謝・内分泌、④呼吸器』 医療情報科学研究所 メディックメディア
成績評価	筆記試験100%（100点満点中60点以上を合格とする）
担当教員の基本情報	担当教員名 : 石崎直人 研究室 : 臨床鍼灸学ユニット（鍼灸センター2F） メールアドレス : n_ishizaki@meiji-u.ac.jp

	<p> オフィスアワー : 月曜～金曜17:00以降 担当教員名 : 福田文彦 研究室 : 臨床鍼灸学ユニット (鍼灸センター 2F) メールアドレス : f_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜を除く平日17:00以降 担当教員名 : 竹田太郎 研究室 : 臨床鍼灸学ユニット (鍼灸センター 2F) メールアドレス : tarokichi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜を除く平日17:00以降 </p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
石崎 直人			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	本科目は、臨床鍼灸学 I（内科系）で学習した内容について、診察及び鍼灸治療の方法について実習し技術を習得する。実習においては、学生同士によるシミュレーションを行い、具体的な鍼灸治療を体験する。本科目で実習する項目は、主として内科系の主要症候（便秘、食欲不振、悪心・嘔吐、腹痛、胸痛・動悸、呼吸困難、肥満、血圧異常）である。本科目では、内科系の主要症候に対する診察技術（触診、打診、聴診）を身につけて、鍼灸治療の適否を判断した上で適切で安全な鍼灸施術を行う技術を修得していることを到達目標としている。
授業計画	<p>第1回 ウォーミングアップ 身体各部における鍼灸施術の復習 身体各部に安全な鍼灸施術ができる</p> <p>第2回 便秘の診察と鍼灸治療1(便秘) 便秘の診察法を習得した上で病態に応じた鍼灸施術ができる</p> <p>第3回 便秘の診察と鍼灸治療1(下痢) 下痢の診察法を習得した上で病態に応じた鍼灸施術ができる</p> <p>第4回 食欲不振の診察と鍼灸治療 食欲不振の診察法を習得した上で病態に応じた鍼灸施術ができる</p> <p>第5回 悪心・嘔吐・腹痛の診察と鍼灸治療 悪心・嘔吐・腹痛の診察法を習得した上で病態に応じた鍼灸施術ができる</p> <p>第6回 肥満の診察と鍼灸治療 肥満の診察法を習得した上で病態に応じた鍼灸施術ができる</p> <p>第7回 糖尿病の診察と鍼灸治療 糖尿病の診察法を習得した上で病態に応じた鍼灸施術ができる</p> <p>第8回 血圧異常の診察と鍼灸治療 血圧異常の診察法を習得した上で病態に応じた鍼灸施術ができる</p> <p>第9回 胸痛・動悸の診察と鍼灸治療 胸痛・動悸の診察法を習得した上で病態に応じた鍼灸施術ができる</p> <p>第10回 呼吸困難の診察と鍼灸治療 呼吸困難の診察法を習得した上で病態に応じた鍼灸施術ができる</p> <p>第11回 内科系臨床鍼灸学実習の復習 各種診察と身体各部の鍼灸施術（消化器系）</p> <p>第12回 内科系臨床鍼灸学実習の復習 内科系臨床鍼灸学実習の復習</p> <p>第13回 内科系臨床鍼灸学実習の復習 各種診察と身体各部の鍼灸施術（循環器系）</p> <p>第14回 各種診察と身体各部の鍼灸施術（循環器系） 各種診察と身体各部の鍼灸施術（呼吸器系）</p> <p>第15回 まとめ 内科系臨床鍼灸学実習の総まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	実習中に習得した診察および鍼灸施術について、週2-3回、1-2時間程度のトレーニングをしてください。不明な点は実習中に教員に再確認してください。鍼灸施術については、実習中に説明した注意事項を十分に守り、実習で習得した範囲内で各々の責任において練習するようにしてください。
教科書	内科系臨床鍼灸学（講義）で配布する資料と、実技用の補助資料を標準テキストとする。
参考書	『鍼灸学 基礎編』 天津中医学院+学校法人後藤学園編 東洋学術出版社 『鍼灸学 臨床編』 天津中医学院+学校法人後藤学園編 東洋学術出版社 『内科診断学』 鈴木秀郎ほか編 金芳堂 『ベッドサイドの神経の診方』 田崎義昭ほか 南山堂
成績評価	所定の出席日数を満たした者を対象として実技試験を行う。試験は診察法および鍼灸施術を中心とした実技試験とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 石崎直人 研究室 : 臨床鍼灸学ユニット（鍼灸センター2F） メールアドレス : n_ishizaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜～金曜17:00以降</p> <p>担当教員名 : 福田文彦 研究室 : 臨床鍼灸学ユニット（鍼灸センター2F） メールアドレス : f_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜を除く平日17:00以降</p>

	担当教員名 : 竹田太郎 研究室 : 臨床鍼灸学ユニット (鍼灸センター 2F) メールアドレス : tarokichi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜を除く平日17:00以降
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
井上 基浩			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	臨床鍼灸学Ⅱ（運動器系）では、運動器系疾患の診察および鍼灸治療に必要な知識を修得する。特に、鍼灸臨床で遭遇する機会の多い疾患や症候、国家試験に出題される可能性の高い疾患や症候について、基本的な事項を重点的に学習する。		
授業計画	第1回	授業ガイダンス、腰部総論 [到達目標] 1. 臨床に必要な腰・下肢部の解剖に関する理解 2. 椎間板から起る退行変性の成り立ち、症状発現に関する理解 予習：腰部、下肢における骨、筋、神経に関する解剖の復習 復習：椎間板から起る退行変性の成り立ちについて理解を深める	
	第2回	腰部疾患（1） [到達目標] 変形性腰椎症、筋筋膜性腰痛、椎間関節性腰痛、椎間板症に関する理解と診察法の知識修得 予習：各種退行変性疾患についての大まかな理解 復習：各種退行変性疾患について、授業内容を理解する	
	第3回	腰部疾患（2） [到達目標] 1. 椎間板ヘルニア、腰椎すべり症に関する理解と診察法の知識修得 2. 障害高位と症状、理学所見に関する理解 予習：椎間板ヘルニア、腰椎すべり症についての概要の把握 復習：椎間板ヘルニアと障害高位の関係、および障害高位と理学所見の関係について記憶する	
	第4回	腰部疾患（3） [到達目標] 1. 腰部脊柱管狭窄に関する理解と診察法の知識修得 2. 腰・下肢症状の一般的な各種鍼灸治療法に関する知識の修得 予習：脊柱管狭窄に関する概要の把握 復習：脊柱管狭窄に関する知識の再確認と各種鍼灸治療の意義について理解を深める	
	第5回	頸部総論 [到達目標] 1. 臨床に必要な頸肩・上肢部の解剖に関する理解 2. 頸部の構造的特徴による、症状発現に関する理解 予習：頸肩部、上肢における骨、筋、神経に関する解剖の復習 復習：頸部の構造的特徴による、症状発現に関する理解を深める	
	第6回	頸部疾患（1） [到達目標] 変形性頸椎症、頸肩腕症候群、外傷性頸部症候群、リウマチ性脊椎炎他、頸部疾患に関する理解と診察法の知識修得 予習：各疾患についての大まかな理解 復習：各疾患について、授業内容を理解する	
	第7回	頸部疾患（2） [到達目標] 1. 頸椎症性神経根症、脊髄症に関する理解と診察法の知識修得 2. 障害高位と症状、理学所見に関する理解 3. 頸肩・上肢症状の一般的な各種鍼灸治療法に関する知識の修得 予習：頸椎症性神経根症、脊髄症についての概要の把握 復習：頸椎症性神経根症、脊髄症に関する知識の再確認と各種鍼灸治療の意義について理解を深める	
	第8回	肩関節疾患総論・各論 [到達目標] 1. 臨床に必要な肩関節の解剖に関する理解 2. 肩関節疾患、診察法に関する理解 3. 肩関節の鍼灸治療法に関する知識の修得 予習：肩関節の解剖に関する復習 復習：肩関節の解剖、機能に関する復習と各種疾患の特徴に関する理解	
	第9回	膝関節疾患総論・各論 [到達目標] 1. 臨床に必要な膝関節の解剖に関する理解 2. 膝関節疾患（特に変形性膝関節症）、診察法に関する理解 3. 膝関節の鍼灸治療法に関する知識の修得	

第10回	<p>予習：膝関節の解剖に関する復習 復習：膝関節の解剖、機能に関する復習と変形性膝関節症の特徴に関する理解 股関節疾患総論・各論 [到達目標] 1. 臨床に必要な股関節の解剖に関する理解 2. 股関節疾患（特に変形性股関節症）、診察法に関する理解 3. 股関節の鍼灸治療法に関する知識の修得</p>
第11回	<p>予習：股関節の解剖に関する復習 復習：股関節の解剖、機能に関する復習と変形性股関節症の特徴に関する理解 絞扼神経障害（1）：胸郭出口症候群 [到達目標] 1. 胸郭出口症候群の病態、絞扼部位の違いによる分類についての理解 2. 胸郭出口症候群における診察法、鍼灸治療法の知識修得</p>
第12回	<p>予習：胸郭出口部の解剖についての大まかな理解 復習：胸郭出口症候群の病態に関する復習と絞扼部位の違いによる分類・診察法に関する理解 絞扼神経障害（2）：上肢 [到達目標] 1. 絞扼神経障害についての理解 2. 上肢における主な神経の走行、支配についての理解 3. 上肢における主な絞扼神経障害の鑑別、鍼灸治療法の知識修得</p>
第13回	<p>予習：上肢の主な末梢神経（正中神経、尺骨神経、橈骨神経）の走行・支配についての大まかな理解 復習：上記神経の走行・支配の復習と主な絞扼部位の解剖、絞扼部位の違いによる症状の差異に関する理解 絞扼神経障害（3）：下肢 [到達目標] 1. 下肢における主な神経の走行、支配についての理解 2. 下肢における主な絞扼神経障害の鑑別、鍼灸治療法の知識修得</p>
第14回	<p>予習：下肢の主な末梢神経（坐骨神経、大腿神経）の走行・支配についての大まかな理解 復習：各種絞扼神経障害による症状の確認 講義のまとめ [到達目標] 全講義内容の習得を確認</p>
第15回	<p>予習：講義全体の復習 復習：未習得部分の確認・再学習 未習得部分の再学習 [到達目標] 全講義内容の習得と確認</p> <p>予習：未習得部分の確認・再学習 復習：再学習部分の復習</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	運動器系疾患・症候の理解、それらに対する鍼灸治療法の知識的修得に関して必要な最低事項は解剖学的知識であり、少なくとも各講義までに関連した解剖学的な知識の確認を行っておく。
教科書	授業中に配布する資料
参考書	「現代鍼灸臨床の実際」松本 勅著（医歯薬出版） 「標準整形外科学」広畑和志著（医学書院） 「ベッドサイドの神経の診方」田崎義明、斉藤佳雄著（南山堂） 「運動器疾患の治療 整形外科・現代鍼灸・伝統鍼灸」平澤泰介、北出利勝編（医歯薬出版） 「図解鍼灸療法技術ガイドI、II」矢野 忠編（文光堂）
成績評価	原則として出席基準（講義回数の5分の3以上が必要）を満たした者について試験を実施する。評価は筆記試験の結果にて行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○井上基浩 研究室 : 附属鍼灸センター2階 メールアドレス : mo_inoue@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日16:00 - 17:00 担当教員名 : 今枝美和 研究室 : 附属鍼灸センター2階 メールアドレス : mi_nakajima@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日16:00 - 17:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	2	必修
担当教員			
井上 基浩			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：実習	

授業目標	臨床鍼灸学実習Ⅱ（運動器系）は、運動器系疾患の診察技法および鍼灸治療に必要な知識・技術を修得する。特に鍼灸臨床で遭遇する機会の多い疾患や症候、国家試験に出題される可能性の高い疾患や症候について、基本的な診察法および治療技術を重点的に学習する。
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス、腰部実技（1） [到達目標] 腰部疾患、障害高位の鑑別に必要な理学所見等に関する知識・技術の修得</p> <p>予習：腰・下肢症状に関わる理学検査についての調査 復習：理学検査法の技術確認、および障害高位と理学所見の関係についての理解</p> <p>第2回 腰部実技（2） [到達目標] 腰部傍脊柱部刺鍼の意義と方法の修得</p> <p>予習：腰椎周囲の神経支配に関する知識の確認 復習：傍脊柱部刺鍼に必要な知識の確認と腰部傍脊柱部の触診・刺鍼の練習</p> <p>第3回 腰部実技（3） [到達目標] 主な下肢末梢神経（脛骨神経、腓骨神経、腓腹神経、大腿神経）の走行・支配の理解と障害に応じた刺鍼部選択技術の修得</p> <p>予習：主な下肢末梢神経（脛骨神経、腓骨神経、腓腹神経、大腿神経）の走行・支配の確認 復習：障害に応じた神経走行部刺鍼の理解</p> <p>第4回 腰部実技（4）、（腰部復習） [到達目標] 主な腰下肢筋群への刺鍼法と刺鍼筋の選択技術の修得</p> <p>予習：腰下肢筋の起始・停止・作用についての復習 復習：各腰下肢筋の空間的位置関係の調査</p> <p>第5回 頸部実技（1） [到達目標] 頸部疾患、障害高位の鑑別に必要な理学所見等に関する知識・技術の修得</p> <p>予習：頸肩・上肢症状に関わる理学検査についての調査 復習：理学検査法の技術確認、および障害高位と理学所見の関係についての理解</p> <p>第6回 頸部実技（2） [到達目標] 頸部傍脊柱部刺鍼の意義と方法の修得</p> <p>予習：頸椎周囲の神経支配に関する知識の再確認 復習：傍脊柱部刺鍼に必要な知識の再確認と頸部傍脊柱部の触診・刺鍼の練習</p> <p>第7回 頸部実技（3）、（頸部復習） [到達目標] 主な頸肩 upper 肢筋群への刺鍼法と刺鍼筋の選択技術の修得</p> <p>予習：頸肩 upper 肢筋の起始・停止・作用についての復習 復習：各頸肩 upper 肢筋の空間的位置関係の調査</p> <p>第8回 肩関節実技（1） [到達目標] 1. 肩関節の構造・機能の理解 2. 肩関節の理学検査と疾患の関係についての理解</p> <p>予習：肩関節の解剖・機能の復習 復習：理学所見と疾患の関係についての確認</p> <p>第9回 肩関節実技（2）、（肩関節復習） [到達目標] 肩関節に対する基本的な各種鍼灸治療法の修得</p> <p>予習：肩関節の解剖・機能の復習 復習：肩関節の解剖・機能を踏まえた触察の練習</p> <p>第10回 膝関節実技（1） [到達目標] 1. 膝関節の構造・機能の理解 2. 膝関節の理学検査と疾患の関係についての理解（特に変形性膝関節症について）</p>

第11回	<p>予習：膝関節の解剖・機能の復習 復習：理学所見と疾患の関係についての確認 膝関節実技（2）、（膝関節復習） [到達目標] 膝関節に対する基本的な各種鍼灸治療法の修得（特に変形性膝関節症について）</p>
第12回	<p>予習：膝関節の解剖・機能の復習 復習：膝関節の解剖・機能を踏まえた触察の練習 前期まとめ（習得の確認） [到達目標] 前期実習範囲（腰部、頸部、肩関節、膝関節）における知識、疾患と理学所見の関係、刺鍼技術の修得状況の確認</p>
第13回	<p>予習：前期実習範囲（腰部、頸部、肩関節、膝関節）の復習 復習：前期まとめの再確認 前期まとめ（習得の確認） [到達目標] 前期実習範囲（腰部、頸部、肩関節、膝関節）における知識、疾患と理学所見の関係、刺鍼技術の修得状況の確認</p>
第14回	<p>予習：前期実習範囲（腰部、頸部、肩関節、膝関節）の復習 復習：前期まとめの再確認 手・肘関節実技 [到達目標]</p>
第15回	<p>1. 手・肘関節の構造の理解 2. 手・肘関節に関わる筋・腱の確認 3. 手・肘関節における主な疾患と理学所見、および各種疾患に対する鍼灸治療技術の修得</p> <p>予習：手・肘関節の構造、機能の復習 復習：手・肘関節の解剖・機能を踏まえた触察の練習 前期未習得部分の再学習 [到達目標] 前期未習得部分の確認と習得</p>
第16回	<p>予習：前期未習得部分の確認 復習：再学習部分の復習 股関節実技（1） [到達目標] 1. 股関節の構造・機能の理解 2. 股関節の理学検査と疾患の関係についての理解（特に変形性股関節症について）</p>
第17回	<p>予習：股関節の解剖・機能の復習 復習：理学所見と疾患の関係についての確認 股関節実技（2）、（手・肘・股関節復習） [到達目標] 股関節に対する基本的な各種鍼灸治療法の修得（特に変形性股関節症について）</p>
第18回	<p>予習：股関節の解剖・機能の復習 復習：股関節の解剖・機能を踏まえた触察の練習 絞扼神経障害（1）：胸郭出口症候群 [到達目標] 1. 胸郭出口部の解剖、および絞扼部位と理学所見の関係の確認 2. 胸郭出口症候群に対する診察・鍼灸治療法の修得</p>
第19回	<p>予習：胸郭出口部の解剖の復習 復習：絞扼部位と理学所見の関係についての確認 絞扼神経障害（2）：上肢 [到達目標] 1. 上肢の主な末梢神経（正中神経・尺骨神経・橈骨神経）の走行・支配、および絞扼好発部位と症状・理学所見の関係の確認 2. 主な上肢の絞扼神経障害に対する鍼灸治療法の修得</p>
第20回	<p>予習：上肢の主な末梢神経（正中神経・尺骨神経・橈骨神経）の走行・支配の復習 復習：上肢の主な絞扼神経障害と症状の関係についての理解 絞扼神経障害（3）：下肢 [到達目標] 1. 下肢の主な末梢神経（脛骨神経・腓骨神経・腓腹神経・大腿神経）の走行・支配、および絞扼好発部位と症状・理学所見の関係の確認 2. 主な下肢の絞扼神経障害に対する鍼灸治療法の修得</p>
第21回	<p>予習：下肢の主な末梢神経（脛骨神経・腓骨神経・腓腹神経・大腿神経）の走行・支配の復習 復習：下肢の主な絞扼神経障害と症状の関係についての理解 後期まとめ（習得の確認） [到達目標] 前期の一部（手・肘関節）、および後期の実習範囲（股関節、絞扼神経障害）に関する知識、疾患と理学所見の関係、刺鍼技術の修得状況の確認</p> <p>予習：前期実習範囲の一部（手・肘関節）、後期実習範囲（股関節、絞扼神経障害）の復習 復習：後期まとめの再確認</p>

	<p>第22回 後期まとめ（習得の確認） [到達目標] 前期の一部（手・肘関節）、および後期の実習範囲（股関節、絞扼神経障害）に関する知識、疾患と理学所見の関係、刺鍼技術の修得状況の確認</p> <p>予習：前期実習範囲の一部（手・肘関節）、後期実習範囲（股関節、絞扼神経障害）の復習 復習：後期まとめの再確認</p> <p>第23回 頸部復習 [到達目標] 前期に行った頸部の実習に関する総復習</p> <p>予習：頸部に関して理解していない部分の把握 復習：理解できていなかった部分の復習</p> <p>第24回 腰部復習 [到達目標] 前期に行った腰部の実習に関する総復習</p> <p>予習：腰部に関して理解していない部分の把握 復習：理解できていなかった部分の復習</p> <p>第25回 肩関節復習 [到達目標] 前期に行った肩関節の実習に関する総復習</p> <p>予習：肩関節に関して理解していない部分の把握 復習：理解できていなかった部分の復習</p> <p>第26回 膝関節復習 [到達目標] 前期に行った膝関節の実習に関する総復習</p> <p>予習：膝関節に関して理解していない部分の把握 復習：理解できていなかった部分の復習</p> <p>第27回 前・後期まとめ（習得の確認） [到達目標] 前・後期全体の習得状況の確認</p> <p>予習：前・後期全体の復習 復習：前・後期まとめの確認</p> <p>第28回 前・後期まとめ（習得の確認） [到達目標] 前・後期全体の習得状況の確認</p> <p>予習：前・後期全体の復習 復習：前・後期まとめの確認</p> <p>第29回 前・後期まとめ（習得の確認） [到達目標] 前・後期全体の習得状況の確認</p> <p>予習：前・後期全体の復習 復習：前・後期まとめの確認</p> <p>第30回 前・後期全体の未習得部分の確認・再学習 [到達目標] 前・後期全体の未習得部分の再学習</p> <p>予習：前・後期全体の未習得部分の確認 復習：未習得部分の復習</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	運動器系疾患・症候の理解、それらに対する鍼灸治療法の知識的・技術的修得に関して、必要な最低事項は解剖学的知識であり、少なくとも各講義までに関連した解剖学的な知識の確認を行っておく。
教科書	授業中に配布する資料
参考書	「現代鍼灸臨床の実際」松本 勅著（医歯薬出版） 「標準整形外科学」広畑和志著（医学書院） 「ベッドサイドの神経の診方」田崎義明、斉藤佳雄著（南山堂） 「運動器疾患の治療 整形外科・現代鍼灸・伝統鍼灸」平澤泰介、北出利勝編（医歯薬出版） 「図解鍼灸療法技術ガイドI、II」矢野 忠編（文光堂）
成績評価	原則として出席基準（実施講義回数の5分の4以上が必要）を満たした者について最終実技試験を実施する。評価は前期・後期におこなう見極め試験と最終実技試験により行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○井上基浩 研究室 : 附属鍼灸センター2階 メールアドレス : mo_inoue@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日16:00 - 17:00</p> <p>担当教員名 : 今枝美和 研究室 : 附属鍼灸センター2階 メールアドレス : mi_imaeda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日16:00 - 17:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
木村 啓作			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	スポーツ鍼灸学実習は、前期に開設されるスポーツ鍼灸学の講義によってスポーツ傷害の臨床的な知識の習得と、鍼灸治療に適応する症状を中心に系統別に学習した後、診察・治療技術を習得することを主眼とする。		
授業計画	1回目	<p>スポーツ鍼灸に必要な臨床所見と診察法（その1）</p> <p>[到達目標] スポーツ鍼灸の臨床に必要な臨床所見のとり方について実技実習にて理解し、その実践ができる。</p> <p>[備考] テキストの特に実習中に述べた重要ポイントについて復習する。</p>	
	2回目	<p>スポーツ鍼灸に必要な臨床所見と診察法（その2）</p> <p>[到達目標] スポーツ鍼灸の臨床に必要な臨床所見のとり方について実技実習にて理解し、その実践ができる。</p> <p>[備考] テキストの特に実習中に述べた重要ポイントについて復習する。</p>	
	3回目	<p>上肢のスポーツ傷害に対する鍼灸治療（その1）</p> <p>[到達目標] 上肢の代表的なスポーツ傷害（野球肩、水泳肩）における鍼灸治療の施術技術を理解し、習得する。</p> <p>[備考] テキストの特に実習中に述べた重要ポイントについて復習する。</p>	
	4回目	<p>上肢のスポーツ傷害に対する鍼灸治療（その2）</p> <p>[到達目標] 上肢の代表的なスポーツ傷害（テニス肘）における鍼灸治療の施術技術を理解し、習得する。</p> <p>[備考] テキストの特に実習中に述べた重要ポイントについて復習する。</p>	
	5回目	<p>腰部・大腿部のスポーツ傷害に対する鍼灸治療</p> <p>[到達目標] 腰部・大腿部の代表的なスポーツ傷害における鍼灸治療の施術技術を理解し、習得する。</p> <p>[備考] テキストの特に実習中に述べた重要ポイントについて復習する。</p>	
	6回目	<p>股関節部のスポーツ傷害に対する鍼灸治療</p> <p>[到達目標] 股関節部の代表的なスポーツ傷害における鍼灸治療の施術技術を理解し、習得する。</p> <p>[備考] テキストの特に実習中に述べた重要ポイントについて復習する。</p>	
	7回目	<p>膝関節部のスポーツ傷害に対する鍼灸治療</p> <p>[到達目標] 膝関節部の代表的なスポーツ傷害（ジャンパー膝、オスグッド病、内側側副靭帯損傷）における鍼灸治療の施術技術を理解し、習得する。</p> <p>[備考] テキストの特に実習中に述べた重要ポイントについて復習する。</p>	
	8回目	<p>下腿部のスポーツ傷害に対する鍼灸治療</p> <p>[到達目標] 下腿部の代表的なスポーツ傷害（シンスプリント、アキレス腱炎など）における鍼灸治療の施術技術を理解し、習得する。</p> <p>[備考] テキストの特に実習中に述べた重要ポイントについて復習する。</p>	
	9回目	<p>足関節部のスポーツ傷害に対する鍼灸治療</p> <p>[到達目標] 下腿部の代表的なスポーツ傷害（足関節捻挫）における鍼灸治療の施術技術を理解し、習得する。</p> <p>[備考] テキストの特に実習中に述べた重要ポイントについて復習する。</p>	
	10回目	<p>テーピングの実際（その1：講義）</p> <p>[到達目標] スポーツ鍼灸に必要なテーピングを施行する際の理論を理解し、説明できる。</p> <p>[備考] テキストの特に実習中に述べた重要ポイントについて復習する。</p>	
	11回目	<p>テーピングの実際（その2：実技）</p> <p>[到達目標] スポーツ鍼灸に必要なテーピング（足関節捻挫）を施行する際の技術を理解し、習得する。</p> <p>[備考] テキストの特に実習中に述べた重要ポイントについて復習する。</p>	
	12回目	<p>1. テーピングの実際（その3：実技）、2. まとめ</p> <p>[到達目標] 1. スポーツ鍼灸に必要なテーピング（膝靭帯損傷など）を施行する際の技術を理解し、習得す</p>	

	<p>る。</p> <p>2. 実技試験の傾向と対策</p> <p>[備考]</p> <p>テキストの特に実習中に述べた重要ポイントについて復習する。</p> <p>実技試験（1）</p> <p>13回目</p> <p>14回目 実技試験（2）</p> <p>15回目 鍼灸実技試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の復習のため、一度はテキストを読んでおくこと。 ・スポーツニュースなどを積極的に見て、各種スポーツの競技概要や日本や世界のスポーツ界の現状について把握しておく。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「スポーツ鍼灸学実習テキスト」 講義担当者編（明治国際医療大学）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「スポーツ東洋療法ハンドブック」 東洋療法学校協会編（医道の日本社） ・「スポーツ鍼治療マニュアル」 福林 徹、宮本俊和 編（南江堂）
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席基準を満たした者を対象に試験を実施して評価する。 ・評価は実技試験で行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田行宏 研究室 : 7号館2F教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日 15:10-16:40</p> <p>担当教員名 : 木村啓作 研究室 : 7号館2F教員室 メールアドレス : k_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 15:10-16:40</p> <p>担当教員名 : 片山憲史 研究室 : 7号館1F教授室 メールアドレス : k_katayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 15:10-16:40</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>本講座では21世紀の医療の主流となる疾病予防と健康増進を目的とした鍼灸医学を実践・応用出来る事を目的に、国民の健康状態、健康観、予防医療、東洋医学の未病や養生論などについて幅広く学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康：国民の健康状態や健康増進（健康日本21）、健康観とその変遷、東洋医学の健康観と疾病感、ライフスタイルと健康及び生活習慣病 2. 養生：東洋医学の養生思想、黄帝内経と養生訓の養生論、養生灸、食養生 3. 未病：東洋医学の未病概念、現代医学の未病概念、未病医学の実践 予防医療（ヘルシーピープル2000、健康日本21）
授業計画	<p>第1回 国民の健康状態 国民の健康状態（有訴者、受療状況、主な主訴の内容など）、健康日本21の基本理念について理解する。 配布資料中の設問に答えることが出来る。 講義後は配布資料を復習し、分からない点は質問すること。</p> <p>第2回 健康観について 健康観の変遷を通して、現代の健康概念について理解を深める。 配布資料中の設問に答えることが出来る。 講義後は配布資料を復習し、分からない点は質問すること。</p> <p>第3回 東洋医学の養生思想 東洋医学の養生論、黄帝内経の医学思想と養生論について理解する。 配布資料中の設問に答えることが出来る。 講義後は配布資料を復習し、分からない点は質問すること。</p> <p>第4回 『養生訓』の養生思想 貝原益軒の人物像や養生訓の総論に記載された内容について理解する。養生訓の各論に記載された具体的な養生法やその考え方について理解する。 配布資料中の設問に答えることが出来る。 講義後は配布資料を復習し、分からない点は質問すること。</p> <p>第5回 ライフスタイルと健康 健康に対するライフスタイルの重要性およびライフスタイルと生活習慣病について理解する。 配布資料中の設問に答えることが出来る。 講義後は配布資料を復習し、分からない点は質問すること。</p> <p>第6回 ストレスと健康 ストレスと健康の関連について理解するとともに、ストレス関連疾患についても理解をする。また、具体的なストレス軽減法についても学習する。 配布資料中の設問に答えることが出来る。 講義後は配布資料を復習し、分からない点は質問すること。</p> <p>第7回 未病医療と鍼灸 「治未病」を取り巻く現状、疾病予防の取り組み（ヘルシーピープル2000、2010）、東洋医学における未病概念について理解する。現代医学における未病と未病医療の実践について理解する。 配布資料中の設問に答えることが出来る。 講義後は配布資料を復習し、分からない点は質問すること。</p> <p>第8回 まとめおよび筆記試験 講義全体を通して知識の再確認をする。 配布資料の内容について理解しておく。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布プリントを熟読すること。 配布プリントの内容を参考にし、各テーマについて自身の考えを考察すること。
教科書	自作プリント
参考書	「口語養生訓」松宮光伸（日本評論社）
成績評価	出席基準（欠席は1回まで）をみたした者を対象に筆記試験を実施して評価する。欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。本試験を適切な理由無くして欠席した場合は、追再試験を行わない。 （出席率：20%、試験：80%）
担当教員の基本情報	担当教員名：山崎 翼 研究室：7号館2階教員室 メールアドレス：t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日16:00-17:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	近年、欧米諸国では鍼治療を含めた代替医療が注目され、急速にその需要が高まっている。代替医療の中には鍼灸治療と併用することで治療効果を高めることが期待できる治療法もある。そこで本科目では健康鍼灸学で学習した内容を踏まえて、鍼灸に併用できる代替医療や健康増進のための鍼灸治療手技について実習する。また、代替医療についてはより理解を深め、臨床に応用できるようにグループ発表およびディスカッションを行う。さらに鍼灸の経済効果について理解を深めるために医療費や保険制度についての知識、要介護・慢性疲労の予防についての鍼灸実技について学習する。		
授業計画	第1回	国民医療費と鍼灸医療 1 国民医療費の現状と医療保険制度について述べる事が出来る。 配布資料を見直し、分からない点があれば質問する。	
	第2回	国民医療費と鍼灸医療 2 国民医療費の現状と医療保険制度について述べる事が出来る。 配布資料を見直し、分からない点があれば質問する。	
	第3回	慢性疲労と鍼灸治療 1 慢性疲労（慢性疲労症候群）について述べる事が出来る。 配布資料を見直し、分からない点があれば質問する。	
	第4回	慢性疲労と鍼灸治療 2 疲労および慢性疲労症候群の評価とそれに対する鍼灸治療が出来る。 適切な鍼灸施術が出来るように練習する。	
	第5回	皮膚と鍼灸：美容鍼灸を含めて 1 皮膚に対する鍼灸治療の効果について学習する。 また、その応用として、美容鍼灸の手技についても学習する。 配布資料を見直し、分からない点があれば質問する。	
	第6回	皮膚と鍼灸：美容鍼灸を含めて 2 皮膚に対する鍼灸治療（美容を中心として）について理解し、安全に鍼灸施術が実施できるように練習する。	
	第7回	補完代替医療 1 グループ（約5名）毎に、各種の代替医療について調べ、プレゼンテーションを行う。 プレゼンテーション準備の際に分からない点があれば質問する。	
	第8回	補完代替医療 2 グループ（約5名）毎に、各種の代替医療について調べ、プレゼンテーションを行う。 プレゼンテーション準備の際に分からない点があれば質問する。	
	第9回	健康器具について 1 健康器具と医療機器の違いについて理解する。 また、健康器具による危害や市場規模などについても理解を深める。 配布資料を見直し、分からない点があれば質問する。	
	第10回	健康器具について 2 グループ（約5名）毎に、各種の健康器具について調べ、プレゼンテーションを行う。 プレゼンテーション準備の際に分からない点があれば質問する。	
	第11回	要介護予防のための鍼灸治療 1 高齢者の要介護予防（ロコモティブシンドローム）について述べる事が出来る。 配布資料を見直し、分からない点があれば質問する。	
	第12回	要介護予防のための鍼灸治療 2 ロコモティブシンドロームの評価とそれに対する鍼灸治療が出来る。 適切な鍼灸施術が出来るように練習する。	
	第13回	健康増進を目的とした指導 1 これまでに学習した内容の総括を目的として、自分自身の健康状態について、質問紙などを用いて適切に評価する。 また、現状の生活習慣が続いた場合に、どのような疾病リスクが考えられるか、考察する。 配布資料を見直し、分からない点があれば質問する。	
	第14回	健康増進を目的とした指導 2 グループ（約5名）毎に、東洋学的な所見をとる。 それが「健康増進を目的とした指導 1」で得られた自分自身の健康状態と関連するかを確認する。 適切に東洋医学的所見がとれるよう練習する。	
	第15回	まとめ 講義全体を通して知識の再確認をする。 講義全体で分からない点があれば質問する。 第13回、第14回の実習を通して得られた自分自身の健康状態について理解し、より良好な健康状態を維持するためには、どのようにすればよいのか、レポートの作成を行う。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布資料を熟読すること。 配布資料の内容を参考にし、各テーマについて自身の考えを考察すること。 グループ発表のプレゼンテーションの準備において、分からないことがあれば随時質問すること。発表に必要なものがあれば相談すること。		

教科書	自作プリント
参考書	「医療従事者のための代替医療」今西二郎（フレグランスジャーナル社） 「代替医療のすすめ」渥美和彦（日本医療企画）
成績評価	出席基準（欠席は3回まで）をみたした者を対象にグループ発表とレポートの内容を総合して評価する。欠席した場合は必ず欠席届を提出すること。 （出席率：20%、グループ発表：10%、レポート：70%）
担当教員の基本情報	担当教員名：山崎 翼 研究室：7号館2階教員室 メールアドレス：t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日16:00-17:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	1	必修
担当教員			
北小路 博司			
配当学科：鍼灸学科	時間数：45時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>本科目は基礎医学、臨床医学、鍼灸診断学、臨床鍼灸学に続く鍼灸臨床科目の総仕上げとして附属鍼灸センターにおいて臨床実習を行う。</p> <p>まずは、患者さんとの良好な信頼関係を構築するための過程を理解し、必要な基本行為が実践できることを目的とし、次いで、実地臨床の体験を通じて鍼灸臨床の実際における初歩的・基本的事項を学習し、診察から治療までの一連の過程を理解し、基本的な診察・治療が実践できることを目的とする。</p>
授業計画	<p>ガイダンス [本実習の到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 治療者（医療人）としてふさわしい態度が出来る。 2. 患者さんへの適切な対応（誘導・介助・言葉遣い・心遣い・身だしなみ）が出来る。 3. 快適な治療環境を保持出来る（治療ブース内を清潔に保つ準備と後片付けが出来る）。 4. 消毒および清潔操作（清潔の概念）が出来る。 5. 正確な取穴（解剖学的知識の定着）が出来る。 6. 患者さんへの面接の基本事項が出来る。 7. 正確な理学検査の実施が出来る。 8. 基本的東洋医学的四診の実施が出来る。 9. 初診、再診に応じたカルテ記載が出来る。 <p>臨床実習 1-1 臨床実習（第1クール第1回目）</p> <p>見学を中心に臨床現場を知る。 医療人としてふさわしい態度が出来るよう、日常から心がける。</p> <p>臨床実習 1-2 臨床実習（第1クール第2回目）</p> <p>見学を中心に臨床現場を知る。 医療人としてふさわしい態度が出来るよう、日常から心がける。</p> <p>カンファ1 カンファレンス（第1クール） 第1クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>臨床実習 2-1 臨床実習（第2クール第1回目）</p> <p>コミュニケーションスキルの理解。 コミュニケーションスキルの理解を深め、臨床現場での実践を心がける。</p> <p>臨床実習 2-2 臨床実習（第2クール第2回目）</p> <p>コミュニケーションスキルの理解。 コミュニケーションスキルの理解を深め、臨床現場での実践を心がける。</p> <p>カンファ2 カンファレンス（第2クール） 第2クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>臨床実習 3-1 臨床実習（第3クール第1回目）</p> <p>東洋医学的診察の実施。 基本的東洋医学的四診の実施が出来るよう、予・復習しておく。</p> <p>臨床実習 3-2 臨床実習（第3クール第2回目）</p> <p>東洋医学的診察の実施。 基本的東洋医学的四診の実施が出来るよう、予・復習しておく。</p> <p>カンファ3 カンファレンス（第3クール） 第3クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>臨床実習 4-1 臨床実習（第4クール第1回目）</p> <p>医療面接の実施。 医療面接の技法について、予・復習しておく。</p> <p>臨床実習 4-2 臨床実習（第4クール第2回目）</p> <p>医療面接の実施。 医療面接の技法について、予・復習しておく。</p> <p>カンファ4 カンファレンス（第4クール） 第4クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>臨床実習 5-1 臨床実習（第5クール第1回目）</p> <p>理学検査の実施。 正確な理学検査の実施が出来るよう、予・復習しておく。</p> <p>臨床実習 5-2 臨床実習（第5クール第2回目）</p> <p>理学検査の実施。 正確な理学検査の実施が出来るよう、予・復習しておく。</p>

	<p>カンファ5 カンファレンス（第5クール） 第5クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>臨床実習 6-1 臨床実習（第6クール第1回目） 臨床現場における総復習。 医療面接、基本的東洋医学的四診、理学検査について予・復習しておく。</p> <p>臨床実習 6-2 臨床実習（第6クール第2回目） 臨床現場における総復習。 医療面接、基本的東洋医学的四診、理学検査について予・復習しておく。</p> <p>カンファ6 カンファレンス（第6クール） 第6クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>まとめ1 実習での医療面接をふり返し、鍼灸臨床におけるコミュニケーションスキルについての理解を深め、その重要性についての理解を深める。</p> <p>まとめ2 実習での東洋医学的四診をふり返し、鍼灸臨床における東洋医学的診断の実際についての理解を深める。</p> <p>まとめ3 実習での理学検査の実施をふり返し、鍼灸臨床における病態把握の実際についての理解を深める。</p> <p>まとめ4 カンファレンスで作成したレポートをふり返し、鍼灸臨床におけるカルテ記載の実際についての理解を深める。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ●実習の開始にあたり、個人評価ツールとしてのパーソナルポートフォリオとなるファイルを配布します。 ●ガイダンス終了後、速やかにポートフォリオに実習簿をファイリングしてください。 ●第1回目の実習前日には、教科書の12-20ページを読み、予習を行ってください。 ●実習内容によっては課題を課すことがあります。その際は参考書を元に調べ、調べた内容をまとめた用紙をポートフォリオにファイリングしてください。 ●調べたい内容について指定した参考書の内容では足りない場合、オフィスアワーを活用して質問してください。代替参考書を教示します。
教科書	「鍼灸臨床における医療面接」丹澤 章八 編著（医道の日本社）
参考書	「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎 昭弘 著（医歯薬出版社） 「鍼灸治療における感染防止の指針」鍼灸安全性ガイドライン委員会編（医歯薬出版社） 「新版 経絡経穴概論」東洋療法学校協会（医道の日本社） 「新しい鍼灸診療」北出 利勝 編集（医歯薬出版社） 「現代鍼灸臨床の実際」松本 勲 著（医歯薬出版社） 「スポーツ東洋療法マニュアル」東洋療法学校協会（医道の日本社） 「高齢者ケアのための鍼灸医療」丹澤 章八 編（医道の日本社） 「チーム医療従事者のための臨床医学全科」渡邊 泷 編集（金芳堂）
成績評価	実習内演習7%×6回、レポート7%×6回、ポートフォリオ評価16%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 北小路博司 研究室 : 臨床鍼灸学講座 メールアドレス : h_kitakoji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 福田文彦 研究室 : 臨床鍼灸学講座 メールアドレス : f_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
松久 ミユキ			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	エアロビック（有酸素的）な運動やスポーツを通して生活習慣病の予防や改善をはかる指導法の実際を学ぶ。（特に、レクリエーション・スポーツ、エアロビックダンス、ストレッチング、レジスタンス・トレーニング）		
授業計画	1	エアロビック運動やスポーツを通して、それぞれの特性や安全性を理解させ、その正しい基本動作を学習する。 運動生理学などで得た知識を基に、年齢や体力などを考慮した運動プログラムを作成し、誰でも手軽に安全に行える健康づくり運動やレクリエーション・スポーツの指導法などを実践する。	
	2	オリエンテーション 指導者としての資質や態度について	
	3	ジョギング・ウォーキングの特性について 準備運動の重要性と実際	
	4	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（卓球） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	5	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（卓球） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	6	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バレーボール） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	7	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バレーボール） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	8	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バドミントン） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	9	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バドミントン） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	10	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バスケットボール） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	11	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バスケットボール） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング	ストレッチング
	12	エアロビックダンスについての説明 簡単なエアロビックダンスの実際	
	13	エアロビックダンスの特性についての説明 ベーシックなウォーミングアップの実際	
	14	エアロビックダンスの効果についての説明 ベーシックなメインダンス（アップとダウン）の実際	
	15	ベーシックなプログラムの作り方 パフォーマンスの説明（ステップの種類）	
授業時間外の学習（準備学習等）について	健康運動実践指導者用テキストのDVDを学習する（レジスタンス） エアロビック・ダンスのDVDを学習すること		
教科書	健康運動実践指導者用テキストを利用する。		
参考書	なし		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席5分の4以上（評価50%） ・授業中の実技小テスト（評価25%） ・授業態度（評価25%） 		
担当教員の基本情報	担当教員名：松久 ミユキ（非常勤講師） 研究室： メールアドレス：m-matsuh@hanazono.ac.jp（URL）http://www.hanazono.ac.jp/ オフィスアワー： 担当教員名：山元 正史（非常勤講師） 研究室： メールアドレス：s-yamamo@hanazono.ac.jp（URL）http://www.hanazono.ac.jp/		
備考	トレーニングウェア上下・体育館シューズ		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
山本 世志男			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	スポーツ心理学は、スポーツ活動と心理との関連性を扱う学問で、本科目では、競技スポーツおよび生活習慣病予防のためのスポーツ（一般スポーツ）によって生じる心理学的現象について学習するとともに、自らがスポーツを実践する場面、親として子供に接する場面等に应用できる行動様式・知識について具体的に学習する。		
授業計画	1回目	スポーツと心理 スポーツとは、心理（学）とは	
	2回目	スポーツと心理（スポーツと「こころ」の健康） スポーツ、こころ、健康	
	3回目	スポーツにおける動機づけ（生活習慣病予防のための運動習慣の確立） 動機づけ	
	4回目	コーチング心理 コーチング	
	5回目	コーチング心理（行動や性格の特徴に応じた運動指導） コーチング、性格	
	6回目	グループダイナミックス グループダイナミックス	
	7回目	メンタルマネジメント メンタルマネジメント	
	8回目	リラクセーション リラクセーション	
	9回目	イメージトレーニング イメージ、トレーニング	
	10回目	集中力のトレーニング 集中力、トレーニング	
	11回目	心理的コンディショニング コンディショニング	
	12回目	あがり、スランプの克服 ストレス管理	
	13回目	スポーツ相談の意義 スポーツ相談	
	14回目	スポーツ相談の実際 スポーツ相談	
	15回目	総括（まとめ）	
授業時間外の学習（準備学習等）について	テキストの他に次に示す本も読むこと。 林 成之(著)：「<勝負脳>の鍛え方」（講談社現代新書）		
教科書	「公認スポーツ指導者 養成テキスト 共通科目ⅠⅡ」（財団法人 日本体育協会）		
参考書	「公認スポーツプログラマー専門科目テキスト」（財団法人日本体育施設協会）		
成績評価	出席状況及び小テスト、課題提出、期末試験をもとに総合的に評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名	：山本世志男（非常勤講師）	
	研究室	：	
	メールアドレス	：授業終了後	
	オフィスアワー	：	
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
岡本 武昌			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>“スポーツを楽しむ”ために“スポーツを深く学ぶ”というスタンスを基本としている。つまり、スポーツのパフォーマンスを向上させるためには何が必要であるか理論的に考える。また、普段の日常生活を行うなかであまり意識されていないが、スポーツと深い関わりのあるヒトの基本的な機能を理解する。そして、日常生活以上の負荷がかかるスポーツにおいてはケガが頻繁に発生する。ここではケガ発生のメカニズムを知り、その予防方法についても考える。</p>
授業計画	<p>1 スポーツにおける筋力トレーニング方法 到達目標：筋力トレーニング方法の基礎について理解できる。 準備学習：配付資料等について精読し、わからない箇所は調べる。</p> <p>2 スポーツにおける筋肉と力について 到達目標：スポーツを行う上で大きな役割を担うのが筋肉である。ここでは、筋肉の特性と力との関係について基本を理解できる。 準備学習：配付資料等について精読し、わからない箇所は調べる。</p> <p>3 運動の法則 到達目標：運動の法則を理解できる。 準備学習：配付資料等について精読し、わからない箇所は調べる。</p> <p>4 立つ・歩く 到達目標：立位時の動作についての説明が理解できる。 準備学習：配付資料等について精読し、わからない箇所は調べる。</p> <p>5 走る 到達目標：短距離走において、速く走るためにはどうすればよいか理解できる。 準備学習：配付資料等について精読し、わからない箇所は調べる。</p> <p>6 まとめ 到達目標：これまでの講義内容を理解できる。 準備学習：配付資料等について精読し、わからない箇所は調べる。</p> <p>7 中間テスト</p> <p>8 中間テストの解説 到達目標：中間テストの解説を理解できる。 準備学習：配付資料等について精読し、わからない箇所は調べる。</p> <p>9 跳ぶ 到達目標：高く跳ぶにはどうすればよいか、スポーツバイオメカニクスの観点から理解できる。 準備学習：配付資料等について精読し、わからない箇所は調べる。</p> <p>10 球技（投げる） 到達目標：物体（ボール、槍、ハンマー等）遠くまで投げるにはどうすればよいか理解できる。 準備学習：配付資料等について精読し、わからない箇所は調べる。</p> <p>11 球技（コントロール） 到達目標：球技において、ボールの軌道を調整することは重要である。ここではボールの軌道をコントロールするにはどうすればよいか理解できる。 準備学習：配付資料等について精読し、わからない箇所は調べる。</p> <p>12 総合復習 これまでの授業内容について総合復習を行う。 到達目標：総合復習の内容を理解できる。 準備学習：配付資料等について精読し、わからない箇所は調べる。</p> <p>13 総合復習 これまでの授業内容について総合復習を行う。 到達目標：総合復習の内容を理解できる。 準備学習：配付資料等について精読し、わからない箇所は調べる。</p> <p>14 総合復習 これまでの授業内容について総合復習を行う。 到達目標：総合復習の内容を理解できる。 準備学習：配付資料等について精読し、わからない箇所は調べる。</p> <p>15 試験 期末試験。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>特定の教科書を指定して講義を行うことはありません。そのため、配付資料等について精読し、わからない箇所は調べ、それでもわからなければ質問するなど対応することとします。</p>
教科書	<p>授業プリント使用の為、ありません。</p>
参考書	<p>スポーツ・バイオメカニクス入門 金子 公有 杏林書院 目でみる動きの解剖学 金子公有・松本柚子訳 大修館書店</p>

成績評価	出席基準を満たした者について、試験期間中に試験を行い評価する。 出席状況（10%程度）、授業態度（10%程度）等も加味し総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○赤澤 淳 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 講義終了後の1時間 担当教員名 : 岡本 武昌 研究室 : 8号館4階教授室 メールアドレス : オフィスアワー : 講義終了後の1時間
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	「人間の持つ機能は全て、使わなければ退化、使い過ぎれば委縮、適度に使えば発達する。」これは、ウィリアム・ルー（ドイツ）が言った言葉である。トレーニングにおける理論と方法論を科学的にとらえるとともにスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じた処方に関する理解を深めるとともにその分野における実践研究の方法とその基礎について学習する。
授業計画	<p>第1講 トレーニング概論 [到達目標] 骨と関節、筋の概略、脚・腕・体幹の構造など身体の基礎知識を理解する。</p> <p>第2講 体力の概念と体力要素 [到達目標] 体力とは何か？筋肉の役割と能力。スポーツにおけるパワーの定義を理解する。</p> <p>第3講 トレーニングの原理・原則 [到達目標] 原理・原則を学習することにより、トレーニングの意味と目的を理解する。</p> <p>第4講 ウォーミングアップとクーリングダウン [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解する。</p> <p>第5講 トレーニングの種類 [到達目標] 競技力を向上させるための体力要素別トレーニングを理解する。</p> <p>第6講 全身持久力について [到達目標] 全身持久力の鍵となるのは酸素摂取能力である。呼吸循環器系能力と代謝能力について学習し、負荷パターンによるトレーニングの分類を理解する。</p> <p>第7講 筋持久力トレーニングについて [到達目標] 同じ動作の繰り返しが要求される場面で発揮される筋持久力トレーニングを理解する。</p> <p>第8講 柔軟性・調整力を高めるトレーニングについて [到達目標] 柔軟性向上、バランス、敏捷性向上のための重要ポイントを理解する。</p> <p>第9講 筋力トレーニング（目的別強度の目安） [到達目標] 目的別トレーニング強度の目安を理解する。</p> <p>第10講 筋力トレーニング（正しいトレーニングを実施するための負荷設定） [到達目標] 正しいトレーニングを実施するための負荷設定を理解する。</p> <p>第11講 筋力トレーニング（効果的に行うための順序） [到達目標] 効果的に行うためのトレーニング順序を理解する。</p> <p>第12講 トレーニングプログラムを作成するための要点① [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<①></p> <p>第13講 トレーニングプログラムを作成するための要点② [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<②></p> <p>第14講 トレーニングプログラムを作成するための要点③ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<③></p> <p>第15講 トレーニングプログラムを作成するための要点④ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<④></p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布資料の復習
教科書	授業毎に配布する資料をもとに実施。
参考書	特に指定なし。
成績評価	筆記試験による評価とする。（ただし、授業態度および欠席時数等により、減点対象になる場合がある。）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 三浦 重則</p> <p>研究室 : 6号館1階（非常勤講師室）</p> <p>メールアドレス :</p> <p>オフィスアワー : 授業終了後</p>

備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	トレーニング論で学んだ科学的な理論と方法論をスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じたトレーニングを体験するとともにトレーニング計画を立案し、実践研究の方法とその基礎について学習する。		
授業計画	第1講	ウォーミングアップとクーリングダウン① [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解するための実践	
	第2講	ウォーミングアップとクーリングダウン② [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解するための実践	
	第3講	各種トレーニングのための動き作り① [到達目標]	
	第4講	身体と運動関連を理解し、主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理を学習する。 各種トレーニングのための動き作り② [到達目標]	
	第5講	身体と運動関連を理解し、主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理を学習する。 柔軟性を高めるためのトレーニング [到達目標]	
	第6講	関節の可動域を広げる各種ストレッチの理解と実践 調整力を高めるためのトレーニング [到達目標]	
	第7講	バランス感覚向上のためのトレーニングの理解と実践 全身持久力トレーニング [到達目標]	
	第8講	全身持久力トレーニングの実践 筋持久力トレーニング [到達目標]	
	第9講	筋持久力トレーニングの実践 トレーニングルームの安全な使用法 [到達目標]	
	第10講	トレーニング機器の安全管理および使用法について。 トレーニングプログラムの立案と実践① [到達目標]	
	第11講	目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践 トレーニングプログラムの立案と実践② [到達目標]	
	第12講	目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践 トレーニングプログラムの立案と実践③ [到達目標]	
	第13講	目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践 トレーニングプログラムの立案と実践④ [到達目標]	
	第14講	目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践 トレーニングプログラムの立案と実践⑤ [到達目標]	
	第15講	目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践 トレーニングプログラムの立案と実践⑥ [到達目標]	
	第16講	目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布資料の復習		
教科書	授業毎に配布する資料により実施。		
参考書	特に指定はなし。		
成績評価	成績評価は、出席点を重視し、また、授業態度等を参考とした総合評価とする。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 6号館1階 (非常勤講師室) メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
東 あかね			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	本科目は、健康を維持・増進するための正しく、かつ合理的な食物摂取のあり方について学ぶ。さらに、食事と運動との関連や、運動の効果を最大限に引き出すために必要な食事のあり方や必要に応じたサプリメントの利用法などを、最新の情報を取り入れながら、基礎事項と関連づけて解説する。		
授業計画	1	スポーツと保健栄養学入門 栄養学の歴史を踏まえ、人間の健康増進と疾病予防のための栄養学の全体像を把握する。	
	2	エネルギーと栄養のバランス、食事バランスガイド バランスの良い食事を科学的に理解する。	
	3	栄養素のはたらき 糖質の栄養 糖質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。	
	4	脂質の栄養 脂質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。	
	5	タンパク質の栄養 タンパク質の種類と代謝を知り、それぞれの役割を理解する。	
	6	ビタミンの栄養、ミネラルの栄養 各種ビタミンおよびミネラルの働きと必要性を把握し、欠乏症との関係を理解する。	
	7	日本人の食事摂取基準 日本人の食事摂取基準の概要を理解する。	
	8	水分補給 水分の役割を知り、水分補給の重要性を理解する。	
	9	生体リズムと栄養 生体リズムが食欲や体調、身体能力をコントロールしていること理解し、食事や運動のタイミングを調節する必要性を把握する。	
	10	運動とウエイトコントロール エネルギー収支バランスの調整が体重をコントロールすることを理解し、運動時のエネルギー消費量と適切なエネルギー摂取量を知る。	
	11	運動における栄養素の働き 運動時の各栄養素の代謝を理解する。	
	12	ライフステージと栄養①ジュニア期 ジュニア期のスポーツと栄養・食生活について理解する。	
	13	ライフステージと栄養②シニア期 シニア期のスポーツと栄養・食生活について理解する。	
	14	サプリメントの利用 サプリメントが必要な理由を知り、その正しい利用方法を把握する。	
	15	まとめ	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義内容を復習すること		
教科書	栄養科学シリーズNEXT 「スポーツ・運動栄養学」第3版 加藤秀夫 著（講談社サイエンティフィク）		
参考書	指定しない		
成績評価	定期試験70%、出席30%		
担当教員の基本情報	担当教員名：東 あかね（非常勤講師）、岩佐真代（非常勤講師） オフィスアワー：講義終了後		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
渡邊 康晴			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>「医学」と「統計」は密接な関係にあります。 医学では様々な治療が行われ、優れた治療法を求めて治療効果の判定が常に行われています。このとき、治療効果の優劣を判断する手法が「統計処理」です。 大学院を希望する方や研究に関心を持つ方にとって、必要不可欠な分野となります。</p> <p>この授業では表計算ソフトを用いて統計の基本を理解します。 コンピュータを利用した「データ処理」を身につけ、実践できる能力を身につけることを目指します。</p>		
授業計画	第1講	<p>ガイダンス、代表値、様々な評価スケールと数値尺度 [到達目標] 4つの尺度水準の違いを説明できる。 中央値、最頻値、平均値を求めることができる。 度数分布のグラフを作成できる。 標準偏差を求めることができ、平均値のグラフ作成が行える。</p>	
	第2講	<p>箱ひげ図、統計の考え方 [到達目標] 箱ひげ図を見て、データが解釈できる。 正規分布、大数の法則、期待値の概念が理解できる。 [備考] 授業開始時に復習テストあり。</p>	
	第3講	<p>対応の有無、対応のある t 検定 [到達目標] 2群のデータの対応の有無を判断できる。 表計算ソフトを使って対応のある t 検定が行える。 [備考] 授業開始時に復習テストあり。</p>	
	第4講	<p>分散の偏り（等分散）の評価、対応のない t 検定 [到達目標] 帰無仮説と対立仮説を立てることができる。 片側検定が適する場合と両側検定が適する場合が区別できる。 F 検定の意味を説明でき、実行できる。 表計算ソフトを使って対応のない t 検定を行える。 [備考] 授業開始時に復習テストあり。</p>	
	第5講	<p>カイ二乗 (X²) 検定、感度と特異度 [到達目標] カイ二乗検定とフィッシャーの正確性検定の使い分けができる。 表計算ソフトを使ってカイ二乗検定を行える。 感度と特異度が理解できる。 [備考] 授業開始時に復習テストあり。</p>	
	第6講	<p>統計用語の理解、様々なデータと統計方法 [到達目標] 母集団、標本抽出等の統計専門用語の意味が理解できる。 3群の統計に t 検定が使えない理由を説明できる。 ノンパラメトリックのデータ、3群以上のデータで使うべき統計法が選択できる。 [備考] 授業開始時に復習テストあり。</p>	
	第7講	<p>統計手法の選択と実践 [到達目標] データを見て、適切な統計法を選択できる。 [備考] 授業開始時に復習テストあり。</p>	
	第8講	<p>まとめ [到達目標] 様々な2群の統計が独力でできる。 [備考] PCを使って実際に統計処理を行う期末テストを実施する。</p>	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>この講義は実習形式で行います。時間内に作業が進められるように次の準備と復習を行ってください。 1) 次の講義の最初に前回の小テストを行いますので、必ず復習を行い解答できるようにしましょう。 2) 用語の理解と併せてコンピュータスキルの獲得に努めましょう。</p>		
教科書	<p>ホームページを利用します。</p> <p>学内専用ホームページ http://mmh1.meiji-u.ac.jp/moodle</p> <p>大学webの医療統計</p>		

	http://www.meiji-u.ac.jp/md-medinfo/lecture/med_stat/med_stat1
参考書	活用事例でわかる！ 統計リテラシー (n o a 出版)
成績評価	評価は授業内課題(38%)と復習テスト(12%)、期末テスト(50%)で行います。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○渡邊 康晴 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 梅田雅宏 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 河合 裕子 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
小野 直哉			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>医療社会学とは、医療の社会的機能や位置づけを明らかにすることを通じて、医療者に広い視野を提供し、医療利用者へは医療への参加の手がかりを提供することを目的としている。また、医療における差別、不平等、疎外などを解決し、民主主義と人権の確立に寄与することが医療社会学の究極の目標とされている。更に、少子超高齢社会の日本では、患者の治療から生活者の支援へと、必要とされるニーズが変化し、医療と介護、福祉の境界を越えた社会保障の在り方が必要となっており、それらを解決する手がかりを提供することも本授業の目的である。</p> <p>本科目では、医療社会学とは何かという基本から、それを構成する学術的要素、社会的背景、現代の医療において課題となっている様々な問題（日本の伝統医学や鍼灸が置かれている国際状況も含む）について、通常の講義と参加型講義を通して、グループ間で討論した内容をまとめ発表することにより、理解を深める。</p>
授業計画	<p>1回目 医療社会学1（医療社会学とは） [到達目標] 医療社会学とはどのような学問かを、医療社会学と社会医学との違い、学術的方法論（定量的・定性的研究等）とその根本を成す考え方（反証主義・科学哲学等）等を交え、理解する。 [備考] 鍼灸師として、医療社会学を学ぶことの意味、目的を理解する。 シラバスの説明および講義の全体像を理解する。</p> <p>2回目 医療社会学2（医療観 - 医学と医療 -） [到達目標] 医学と医療、近代西洋医学、伝統医学、相補・代替医療、統合医療の相違と医療観について考える。 [備考] 鍼灸師として、医療観を学ぶことの意味、目的を理解する。 シラバスの説明および講義の全体像を理解する。</p> <p>3回目 医療社会学3（社会健康情報リテラシーの基礎1） [到達目標] 医療と社会の関係を考察するために必要な、学術・メディア・インターネットの情報を批判的吟味するための基礎知識を2回の講義で理解する。 [備考] 「社会健康情報リテラシーの応用1・2」に使用する知識と思考方法のため、次回講義までに復習しておくこと。</p> <p>4回目 医療社会学4（社会健康情報リテラシーの基礎2） [到達目標] 医療と社会の関係を考察するために必要な、学術・メディア・インターネットの情報を批判的吟味するための基礎知識を2回の講義で理解する。 [備考] 「社会健康情報リテラシーの応用1・2」に使用する知識と思考方法のため、次回講義までに復習しておくこと。</p> <p>5回目 医療社会学5（社会健康情報リテラシーの応用1） [到達目標] 先の2回の講義で理解した情報の批判的吟味のための基礎知識を2回の講義で実践し、習得する。 [備考] 参加型講義のため、事前の指示に従い、本講義に必要な資料を受講生各自が事前に用意する。</p> <p>6回目 医療社会学6（社会健康情報リテラシーの応用2） [到達目標] 先の2回の講義で理解した情報の批判的吟味のための基礎知識を、2回の講義で実践し、習得する。 [備考] 参加型講義のため、事前の指示に従い、本講義に必要な資料を受講生各自が事前に用意する。</p> <p>7回目 医療社会学7（医療と社会科学1） [到達目標] 医療と社会の関係を考察するために必要な産業、経済、政策、制度、倫理的側面を理解する。 [備考] 鍼灸師として、医療と社会科学の関係を学ぶことの意味、目的を理解する。 シラバスの説明および講義の全体像を理解する。</p> <p>8回目 医療社会学8（医療と社会科学2） [到達目標] 医療と社会の関係を考察するために必要な諸外国の医療制度や医療政策の現状を把握し、日本の伝統医学及び鍼灸を取り巻く国際社会の現状を理解する。 [備考] 鍼灸師として、日本の伝統医学及び鍼灸が置かれている国際状況を学ぶことの意味、目的を理解する。 シラバスの説明および講義の全体像を理解する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>プリント配布をしますので、授業の事前事後に一読して受講して下さい。また、グループ単位の参加型の講義を実施しますので、能動的に取り組んで下さい。受講生の人数及び志向性により、受講生と協議の上、授業内容を微調整する場合があります。</p>

教科書	プリント教材
参考書	<p>広井良典. 「ポスト資本主義——科学・人間・社会の未来」, 岩波書店, 2015.</p> <p>鎌田東二. 「講座スピリチュアル学 第2巻 スピリチュアリティと医療・健康 (地球人選書 講座スピリチュアル学)」, ビイニングネットプレス, 2014.</p> <p>広井良典. 「人口減少社会という希望 コミュニティ経済の生成と地球倫理」, 朝日新聞出版, 2013.</p> <p>岡本拓也. 「わかりやすい構造構成理論—緩和ケアの本質を解く」, 青海社, 2012.</p> <p>京極真. 「医療関係者のための信念対立説明アプローチ: コミュニケーション・スキル入門」, 誠信書房, 2011.</p> <p>Andrea M. Schultz, Samantha M. Chao, J. Michael McGinnis. Integrative Medicine and the Health of the Public: A Summary of the February 2009 Summit. Natl Academy Pr, 2009.</p> <p>山崎喜比古編. 「健康と医療の社会学」, 東京大学出版会, 2001.</p> <p>佐藤純一, 黒田浩一郎編. 「医療神話の社会学」, 世界思想社, 1998.</p> <p>野村拓, 藤崎和彦. 「わかりやすい医療社会学」, 看護の科学社, 1997.</p> <p>黒田浩一郎編, 「現代医療の社会学 - 日本の現状と課題」, 世界思想社, 1995.</p>
成績評価	<p>①出席状況及び参加型講義への参加状況、レポートの内容により評価する。</p> <p>②出席日数6割以上と参加型講義に参加することをレポート提出資格とする。</p> <p>③事情により、レポート提出資格を満たせない場合は、事前に講師に相談すること。</p> <p>④レポートの評価は、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。</p> <p>⑤レポートの評価が60点以下の者は、追再試験を実施する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小野直哉(非常勤講師)</p> <p>研究室 : 非常勤講師控室</p> <p>メールアドレス : 708ono@gmail.com</p> <p>オフィスアワー : 当日の講義終了後</p>
備考	<p>【参考書 続き】</p> <p>園田恭一編. 「社会学と医療」, 弘文堂, 1992.</p> <p>進藤雄三. 「医療の社会学」, 世界思想社, 1990.</p> <p>マックス・ヴェーバー(著), 清水幾太郎(翻訳). 「社会学の根本概念」, 岩波書店, 1972.</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
廣瀬 英司			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	現代医学における分子遺伝学・遺伝子工学の急速な進歩は、それを理解する知識がなければ新世紀の医療の発展に全く無頓着になってしまう。本講義は学生諸子の基礎的な生物学の知識を前提として展開する予定である。染色体とDNAの複製・組換えに加え、翻訳後の蛋白質の分解を講義した後に、先端医療の文献に披露される諸項目が少しでも身近に感じられるように、先端遺伝子工学を解説する。気楽にしかし意欲を持って参加してもらいたい。
授業計画	<p>第1回目 細胞とDNA、クロマチン、染色体 [到達目標] DNA、染色体の物質的、機能的根本について説明できる。 [備考] 細胞とDNA、クロマチン、染色体の構造。分子遺伝学の中心教義。</p> <p>第2回目 DNA複製 [到達目標] クロマチン、染色体の構造と複製機構について説明できる。 [備考] クロマチンの構造とDNA複製機構。複製起点と複製機序。</p> <p>第3回目 複製と校正、相同組換え、DNA損傷修復 [到達目標] 複製酵素と校正。相同組換えについて説明できる。 [備考] DNA損傷の修復。組換え機構と遺伝の関係。DNA損傷の修復の意義を理解する。</p> <p>第4回目 遺伝子発現調節、転写を中心に [到達目標] 転写の基本とmRNAプロセッシングについて説明できる。 [備考] 非翻訳領域の機能。遺伝子転写と転写産物のその後の分子機構。</p> <p>第5回目 転写後調節（翻訳と蛋白質分解） [到達目標] 遺伝子操作の概論とその応用について説明できる。 [備考] 遺伝子操作の概論とその応用範囲の例を説明。</p> <p>第6回目 先端遺伝子工学1 [到達目標] 翻訳後のタンパク質の寿命と変性、分解機構について説明できる。 [備考] タンパク質やオルガネラの分解についてプロテアソームやオートファゴソームの新しい知見を紹介する。</p> <p>第7回目 先端遺伝子工学2 [到達目標] 遺伝子操作の概論とその応用について説明できる。 [備考] 遺伝子操作の概論とその応用範囲の例を紹介する。</p> <p>第8回目 先端遺伝子工学3 [到達目標] 先端遺伝子工学について説明できる。 [備考] 時事問題に関連した先端遺伝子工学の例について紹介する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	特に準備は必要ないが、基礎生物学、生化学に関連する分野をきちんと理解している必要はある。入学後のこれらの講義をきちんと受講すること。化学反応や化学構造式にアレルギーがあるようでは難しい。
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書	細胞の分子生物学 (Molecular Biology of the Cell 日本語版 B. Alberts 他) ニュートンプレス Essential細胞生物学 B. Alberts 他 南江堂
成績評価	出欠をとり、2/3の出席に満たない者は単位がない。 評価はレポートによって行なう。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 廣瀬英司 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : ehiose@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、金曜日放課後</p> <p>担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木、木曜日放課後</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
桂 昌司			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>授業概要は、薬物療法学（＝薬物治療学）総論と各臓器の生理・疾患を簡単に復習した後、臨床応用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用と主な副作用および臨床使用上の注意点について解説します。</p> <p>薬物療法学は、薬と生体の相互作用の結果起こる生体機能の変化を調べる学問です。授業の到達目標は、臨床で汎用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用に関する基本的な知識を習得することです。</p>
授業計画	<p>1回目 薬理学総論 [到達目標] 薬物の作用点という概念について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>2回目 末梢神経作用薬 [到達目標] 自律神経および自律神経節作用薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>3回目 中枢神経作用薬 [到達目標] 中枢神経作用薬および精神疾患治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>4回目 循環器系作用薬・利尿薬 [到達目標] 循環器疾患および高血圧治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>5回目 抗炎症薬・抗アレルギー薬・血液作用薬 [到達目標] 炎症、アレルギーおよび血液疾患治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>6回目 消化器作用薬・内分泌疾患治療薬 [到達目標] 消化器疾患、糖尿病およびホルモン疾患治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>7回目 化学療法薬・漢方薬 [到達目標] 感染性疾患治療薬および漢方薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。 [備考] 配布プリントで講義中に示した重要語句をぬき出し、ノートにまとめる。</p> <p>8日目 期末試験 [到達目標] 授業目標が到達出来ているかを確認する。 [備考] 試験終了時にポイントを示し、出題された全問題について解答とその解説を作る。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義で用いた資料を用いて、薬物名、作用機序および副作用についてよく理解できるよう必ず復習してください。
教科書	特に指定しない（関係資料は配布します）。
参考書	<p>「コメディカルのため薬理学」 岩月和彦・渡邊泰秀 著（朝倉書店）</p> <p>「カラー図解 これならわかる薬理学」 佐藤俊明（訳）（メディカル・サイエンス・インターナショナル）</p> <p>「イラストで学ぶ薬理学（第2版）」 田中越郎 著（医学書院）</p> <p>「ビジュアルノート（第4版）」 茨木 保 著（MEDIC MEDIA）</p>
成績評価	<p>期末試験（80%）、課題レポート（ノートを含む）提出（10%）および授業態度（10%）により総合的に評価する。</p> <p>追再試験は期末試験欠席者及び不合格者に対して筆記試験形式で行う。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 桂 昌司</p> <p>研究室 : 附属病院 1階薬剤部</p> <p>メールアドレス : m_katsura@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 随時</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
戸田 一男			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	1) 対象者の日常生活を支える援助技術の基礎が理解できる。 2) 対象者の身体状況を考慮した具体的な援助技術を体験する。
授業計画	<p>1・2回 ・ガイダンス ・介護の基本原則と心構え ・介護保険制度の概要 ・コミュニケーション技術 1) 介護の基本原則を理解し、心構えについて考えることができる。 2) 介護保険制度の概要が理解できる。 3) コミュニケーションのとり方について考えることができる。</p> <p>3・4回 ・介護を必要とする対象理解（高齢者・障害者体験）・援助技術の基本（歩行介助・杖歩行・車いす介助・移乗） 1) 介護を必要とする対象を体験的に理解できる。 2) 援助技術の基本を体験し理解する。</p> <p>5・6回 ・衣類着脱の介助 ・排泄の介助 ・緊急時の対応法 ・介護者の健康管理 1) 衣類着脱の介助、排泄の介助を体験する。 2) 事例を通して緊急時の対応を考える。 3) 介護者の健康管理について考える。</p> <p>7・8回 ・安楽な姿勢 ・体位に関する基礎知識 ・ボディメカニクスの概念 ・褥瘡について ・臥床者の体位変換・座位保持 1) 姿勢・体位に関する基礎知識を理解し、安全・安楽に向けての基本的な援助技術を体験する。</p> <p>9・10回 ・環境に関する基礎知識 ・病室環境とベッドメイキングの基本技術 ・感染予防の基礎知識 ・基本的な手洗方法 1) 快適な生活環境調整の必要性を理解し、ベッドメイキングの基本技術を体験する。 2) 感染予防の必要性を理解し、基本的な手洗方法を体験する。</p> <p>11・12回 ・栄養と食事に関する基礎知識 ・食生活援助における留意点 ・嚥下障害、視力障害を持つ人の食事介助 ・口腔ケア 1) 栄養と食生活に関する基礎知識を理解し、食事の援助技術を体験する。</p> <p>13・14回 ・グループワーク ・発表 1) 社会資源・介護用品等にはどのようなものがあるかを調べ、活用方法・援助方法についてグループワークを行う。 2) 発表・質疑応答</p> <p>15回 レポート提出 「高齢者や障害のある方への援助方法と社会資源の活用について」</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	1) 自分の生活や日常的な行動を念頭に置き、人間にとっての生活行動の目的や意義、特性について考えながら介護技術を学ぶ姿勢を期待する。 2) 単元は講義と学内実習連続で構成しているためジャージ着用で臨むこと。
教科書	1) 「介護職員実務者研修テキスト 第5巻「生活支援技術I・II」介護職員実務者研修テキスト作成委員会編集 (財)長寿社会開発センター 2) その他、授業時間中に資料を配布する。
参考書	特になし
成績評価	課題レポート、演習態度等で総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 戸田一男、仲口路子、深田實江子、上仲久、河原照子、田中眞里子、梶川拓馬、伊賀さくら、大橋映里</p> <p>担当教員名 : 戸田 一男 (科目責任者) 研究室 : 10号館 (看護学部棟) 7階 702 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 上仲久 研究室 : 10号館 8階 803 メールアドレス : uenaka@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 随時(事前にメールにてアポイントメントをとること)</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
今枝 美和			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>教育概要：整形外科、内科、神経内科、外科、泌尿器科、眼科、各領域における特定の疾患をテーマに、疾患の病態、診察法、治療方針および診断（評価）方法について、現代医学と鍼灸医学、それぞれの立場から基礎および臨床研究の結果をふまえて教授する。</p> <p>到達目標：各科における現代医学と鍼灸医学の関わりについて理解し、補完代替医療としての鍼灸医学の役割について考える。また、鍼灸治療の適応と限界を見極め、臨床において適切な対応が行えるようになることを目指す。</p>		
授業計画	第1回	<p>医療における鍼灸医学の役割について</p> <p>到達目標：現状における西洋医学と鍼灸医学の関わりについて考えることができる。</p>	
	第2回	<p>整形外科領域における疾患と治療法について</p> <p>到達目標：整形外科領域における疾患と治療法について説明できる。</p> <p>予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。</p> <p>復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p>	
	第3回	<p>整形外科領域における鍼灸治療の関わりについて</p> <p>到達目標：整形外科領域における鍼灸医学の関わりについて説明できる。</p> <p>予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。</p> <p>復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p>	
	第4回	<p>内科領域における疾患と治療法について</p> <p>到達目標：内科領域における疾患と治療法について説明できる。</p> <p>予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。</p> <p>復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p>	
	第5回	<p>内科領域における鍼灸治療の関わりについて</p> <p>到達目標：内科領域における鍼灸医学の関わりについて説明できる。</p> <p>予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。</p> <p>復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p>	
	第6回	<p>神経内科領域における疾患と治療法について</p> <p>到達目標：神経内科領域における疾患と治療法について説明できる。</p> <p>予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。</p> <p>復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p>	
	第7回	<p>神経内科領域における鍼灸治療の関わりについて</p> <p>到達目標：神経内科領域における鍼灸医学の関わりについて説明できる。</p> <p>予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。</p> <p>復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p>	
	第8回	<p>外科領域における疾患と治療法について</p> <p>到達目標：外科領域における疾患と治療法について説明できる。</p> <p>予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。</p> <p>復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p>	
	第9回	<p>外科領域における鍼灸治療の関わりについて</p> <p>到達目標：外科領域における鍼灸医学の関わりについて説明できる。</p> <p>予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。</p> <p>復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p>	
	第10回	<p>泌尿器科領域における疾患と治療法について</p> <p>到達目標：泌尿器科領域における疾患と治療法について説明できる。</p> <p>予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。</p> <p>復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p>	
	第11回	<p>泌尿器科領域における鍼灸治療の関わりについて</p> <p>到達目標：泌尿器科領域における鍼灸医学の関わりについて説明できる。</p> <p>予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。</p> <p>復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p>	
	第12回	<p>眼科領域における疾患と治療法について</p> <p>到達目標：眼科領域における疾患と治療法について説明できる。</p> <p>予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。</p> <p>復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p>	
	第13回	<p>眼科領域における鍼灸治療の関わりについて</p> <p>到達目標：眼科領域における鍼灸医学の関わりについて説明できる。</p> <p>予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。</p> <p>復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p>	
	第14回	<p>各領域における鍼灸研究の現状について</p> <p>到達目標：各領域における西洋医学と鍼灸医学の関わりについて説明できる。</p> <p>講義は討論形式で進める。</p>	
	第15回	<p>医療における鍼灸医学の展望について</p> <p>到達目標：各領域における鍼灸医学の展望について考えることができる。</p>	
授業時間外の学習（準備学習等）に	<p>予習：各科の講義までに、今までに学んだ内容を再確認する。</p> <p>復習：各科の講義で新たに知り得た研究内容について各自、考察する。</p>		

ついて	
教科書	指定なし。
参考書	講義中に適宜紹介する。
成績評価	出席基準（講義回数の5分の3以上）に達した者に対し、レポート提出にて評価する（100%）。
担当教員の基本情報	担当教員：○今枝美和 オフィスアワー：火曜日 16:00～17:00
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
田中 邦雄			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	日常生活における漢方的知識の理解と応用を図る。 漢方医学の全体概念を把握する。		
授業計画	1回目	近代医学と漢方医学 [到達目標] 西洋医学と東洋医学の違いを把握する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	2回目	伝統医学の歴史 [到達目標] 日本・中国各々の伝統医学の歴史を把握する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	3回目	漢方医学と中医学 [到達目標] 日本伝統医学である漢方医学と中国で実践されている中医学の違いを把握・理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	4回目	漢方の疾病概念：三陽三陰 [到達目標] 三陽三陰の「三陽」の概念を把握する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	5回目	漢方の疾病概念：気・血・水 [到達目標] 気・血・水を使つての病態把握を理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	6回目	疾病概念としての五行説 [到達目標] 五行説を理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	7回目	日本の伝統薬について。 [到達目標] 日本の伝統薬について。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	8回目	漢方方剤① [到達目標] 漢方方剤について理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	9回目	漢方方剤② [到達目標] 漢方方剤について理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	10回目	漢方方剤③ [到達目標] 漢方方剤について理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	11回目	漢方方剤④ [到達目標] 漢方方剤について理解する。。	

	<p>12回目</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 漢方生薬① [到達目標] 主な漢方生薬を理解する。</p> <p>13回目</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 漢方生薬② [到達目標] 主な漢方生薬を理解する。</p> <p>14回目</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 漢方医学の養生 [到達目標] 漢方医学の養生論を理解する。</p> <p>15回目</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 今後の漢方医療の役割 [到達目標] 日本の医療における漢方医学の役割を理解する。</p> <p>[備考] 日本における西漢医結合について考えておくこと。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各自希望のテーマがあれば個別に指導
教科書	「専門医のための漢方医学テキスト」(日本東洋医学会学術教育委員会) ※購入は自由
参考書	「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラ ※受講生に配布
成績評価	レポートによる総合的な判定とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中邦雄(教授) 研究室 : 統合医療学(明治国際医療大学附属統合医療センター) メールアドレス : ku_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールで予約して、明治国際医療大学附属統合医療センターにて対応。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
田中 邦雄			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	各疾患の漢方治療と、それに対する一般的西洋医学治療の把握ならびに漢方薬を構成する漢方生薬の紹介。		
授業計画	1回目	西洋医学と漢方医学の疾病観・治療方法 [到達目標] 西洋医学と漢方医学の疾病観・治療方法の違いを把握する。 [備考] あらかじめ、西洋医学の基本的な考えを図書館などでしらべておくこと	
	2回目	消化器疾患の治療（西洋医学と漢方医学） [到達目標] 消化器疾患の治療の西洋医学と漢方医学の方法を把握する。 [備考] あらかじめ、特に西洋医学における消化器疾患についての治療を図書館などでしらべておくこと	
	3回目	外科疾患の治療（西洋医学と漢方医学） [到達目標] 外科疾患の治療の西洋医学と漢方医学の方法を把握する。 [備考] あらかじめ、特に西洋医学における外科疾患についての治療を図書館などでしらべておくこと	
	4回目	皮膚科・泌尿器科疾患の治療（西洋医学と漢方医学） [到達目標] 皮膚科・泌尿器科疾患の治療の西洋医学と漢方医学の方法を把握する。 [備考] あらかじめ、特に西洋医学における皮膚科・泌尿器科疾患についての治療を図書館などでしらべておくこと	
	5回目	眼科・耳鼻科疾患の治療（西洋医学と漢方医学） [到達目標] 眼科・耳鼻科疾患の治療の西洋医学と漢方医学の方法を把握する。 [備考] あらかじめ、特に西洋医学における眼科・耳鼻科疾患についての治療を図書館などでしらべておくこと	
	6回目	精神科・心療内科疾患の治療（西洋医学と漢方医学） [到達目標] 精神科・心療内科疾患の治療の西洋医学と漢方医学の方法を把握する。 [備考] あらかじめ、特に西洋医学における精神科・心療内科疾患についての治療を図書館などでしらべておくこと	
	7回目	産婦人科疾患の治療（西洋医学と漢方医学） [到達目標] 産婦人科疾患の治療の西洋医学と漢方医学の方法を把握する。 [備考] あらかじめ、特に西洋医学における産婦人科疾患についての治療を図書館などでしらべておくこと	
	8回目	風邪・呼吸器科疾患の治療（西洋医学と漢方医学） [到達目標] 風邪・呼吸器科疾患の治療の西洋医学と漢方医学の方法を把握する。 [備考] あらかじめ、特に西洋医学における風邪・呼吸器科疾患についての治療を図書館などでしらべておくこと	
	9回目	心・循環器疾患の治療（西洋医学と漢方医学） [到達目標] 心・循環器疾患の治療の西洋医学と漢方医学の方法を把握する。 [備考] あらかじめ、特に西洋医学における心・循環器疾患についての治療を図書館などでしらべておくこと	
	10回目	生薬学・漢方方剤 [到達目標] 漢方方剤の組み立て方を把握・理解する。 [備考]	

	<p>11回目 左記につき、あらかじめ図書館などでしらべておくこと 生薬1 [到達目標] 生薬解説。</p> <p>12回目 [備考] ポピュラーな生薬を調べておくこと。 武田農園見学 [到達目標] 実際の生薬を見学して体験する。</p> <p>13回目 [備考] ポピュラーな生薬を調べておくこと 武田農園見学 [到達目標] 実際の生薬を見学して体験する。</p> <p>14回目 [備考] ポピュラーな生薬を調べておくこと。 武田農園見学 [到達目標] 実際の生薬を見学して体験する。</p> <p>15回目 [備考] ポピュラーな生薬を調べておくこと。 まとめ [到達目標] 授業全体の総括 [備考] 質問があれば準備</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各自希望のテーマがあれば個別に指導
教科書	「専門医のための漢方医学テキスト」(日本東洋医学会学術教育委員会) 「知っておきたい生薬」日本薬学会編(東京化学同人) ※購入は自由
参考書	「KANPO STUDY NOTEBOOK」(榊ツムラ) ※受講生に配布
成績評価	評価方法と評価割合(レポート100%)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中邦雄(教授) 研究室 : 統合医療学(明治国際医療大学附属統合医療センター) メールアドレス : ku_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールで予約して、明治国際医療大学附属統合医療センターで対応。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	経絡経穴学臨床は、経絡経穴学基礎、経絡経穴学基礎実習を踏まえて、さらに専門的な経絡経穴学を臨床的な視で学習する科目である。 特に本科目では、経穴部位の局所解剖、診断、治療上の臨床的な経穴の運用法などを理解する。それだけに現代医学系の解剖学、生理学等をはじめ、東洋医学概論、伝統鍼灸診断学の関連知識が必要である。 これまで学習した十四経の経穴の名称、取穴法の理解を前提として、講義を行う。
授業計画	<p>1回目 要穴表の運用 [到達目標] 要穴の仕組み、意義、臨床応用を理解する。 [備考] 自習課題1：要穴の名前を理解するとともに、取穴法について、予習・復習を行う。</p> <p>2回目 経脈の流注と経穴の特製（1） [到達目標] 肺・大腸・胃経の流注、病証、代表的経穴の穴性等を理解する。特に関連する経絡の要穴について取穴法を覚える。 [備考] 自習課題2：肺、大腸、胃経の取穴について、予習・復習を行う。特に関連する経絡の要穴については取穴法をしっかりと覚える。</p> <p>3回目 経脈の流注と経穴の特製（2） [到達目標] 脾・心・小腸経の流注、病証、代表的経穴の穴性等を理解する。特に関連する経絡の要穴について取穴法を覚える。 [備考] 自習課題3：脾・心・小腸経の取穴について、予習・復習を行う。特に関連する経絡の要穴については取穴法をしっかりと覚える。</p> <p>4回目 経脈の流注と経穴の特製（3） [到達目標] 腎・膀胱経の流注、病証、代表的経穴の穴性等を理解する。特に関連する経絡の要穴について取穴法を覚える。 [備考] 自習課題4：腎・膀胱経の取穴について、予習・復習を行う。特に関連する経絡の要穴については取穴法をしっかりと覚える。</p> <p>5回目 経脈の流注と経穴の特製（4） [到達目標] 心包・三焦・肝・胆経の流注、病証、代表的経穴の穴性等を理解する。特に関連する経絡の要穴について取穴法を覚える。 [備考] 自習課題5：心包・三焦・肝・胆経の取穴について、予習・復習を行う。特に関連する経絡の要穴については取穴法をしっかりと覚える。</p> <p>6回目 経脈の流注と経穴の特製（5） [到達目標] 任脈・督脈経の流注、病証、代表的経穴の穴性等を理解する。特に関連する経絡の要穴について取穴法を覚える。 [備考] 自習課題6：任脈・督脈経の取穴について、予習・復習を行う。特に関連する経絡の要穴については取穴法をしっかりと覚える。</p> <p>7回目 経絡現象、経穴の治効作用 [到達目標] 経絡現象、経穴の治効作用について理解を深める。 [備考] 自習課題7：経絡現象について理解するとともに、経穴を選択する原理を学ぶ。特に経絡の意義について復習する。</p> <p>8回目 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	臨床的に活用する要穴は復習しておいてください。
教科書	『臨床経穴ポケットガイド361穴』 篠原昭二（医歯薬出版社）
参考書	『新版 経絡経穴概論 第2版』 東洋療法学校協会・日本理療科連盟編（医道の日本社）
成績評価	1. 評価対象：授業回数5分の3以上出席した者に対して評価を行う。 2. 評価割合：授業評価（30%）、筆記試験（70%）特に取穴法を重視する。残り20%が穴性に関する設問である。
担当教員の基本情報	担当教員名：和辻 直 研究室：附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス：t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>本特論では、日本で昭和初期に体系化され、伝承されてきた伝統的な鍼灸治療法の一つである「経絡治療」を取り上げ、診察から治療までの一連の過程を修得する。また中医学の臨床的な活用についても学習する。経絡治療については、特に六部定位の脈診法による脈証の判断、難経16難の腹診や漢方腹診、手足の原穴診、背部俞穴の反応を見る背診、問診といった診察過程の基礎を学習する。また診察情報からの証の決定、証に応じた選経・選穴、補瀉手技等の基礎を学習する。</p>
授業計画	<p>1回目 経絡治療の沿革 [到達目標] 経絡治療誕生の経緯、経絡治療の特色を理解できる。 予習：「経絡治療とは」を調べてみる。 復習：経絡治療の特色を整理する。</p> <p>2回目 六部定位の脈診 [到達目標] 脈診の種類と六部の臓腑配当を覚える、指の当て方を理解する。教科書；p 51-61 予習：「六部定位の臓腑配当や六祖脈」を直ぐに言えるようにする。 復習：「六部定位の脈診」と経絡治療との関連を理解する。基本的な脈診（六祖脈）が取れる。</p> <p>3回目 脈差診の応用 [到達目標] 脈差診による虚・実の判定が出来る。 左右の関上の脈の強弱が比較できるようにする。教科書；p 51-57 予習：脈差診の虚実の判断基準について調べる。 復習：浮・中・沈の三部の押圧について絶えず練習する。</p> <p>4回目 脈状診の応用 [到達目標] 脈状診の中の、滑・洪・弦・緩脈等が理解できる。 特に4つの脈の指に当たるイメージを理解する。教科書；p 50-60 予習：脈状診の中の、滑・洪・弦・緩脈の定義を確認する。 復習：4つの脈状のイメージと指先の感覚を掴む。その脈の臨床的定義を復習する。</p> <p>5回目 腹診、背診の応用 [到達目標] 難経16難の腹診法、漢方腹診を行える、背部俞穴を取穴ができ、反応をみれる。教科書；p81-89 予習：腹部の臓腑配当および五臓六腑と関連する俞穴の取穴法を覚えているかを確認する。 復習：腹診や背診の指の当て方について復習する。</p> <p>6回目 原穴診、切経の応用 [到達目標] 十二原穴の位置と反応のとらえ方を理解する。特に原穴の取穴ができるようにする。教科書；p94 予習：手足の原穴の取穴法を覚えているかを確認する。 復習：原穴診の指の当て方、ツボの反応、切経について復習する。</p> <p>7回目 病証の判断 [到達目標] 脈診、腹・背診、原穴診、切経を用いて、主訴における病証を診断する。教科書；p106-107, 146-154 予習：これまでの診察法を復習すると同時に、鍼の補瀉を復習する。 復習：病証の判断と治療法について復習する。</p> <p>8回目 日本の伝統鍼灸を考える [到達目標] 日本の伝統鍼灸における「経絡治療」の特徴を考える。 「日本の伝統鍼灸」と「経絡治療」をキーワードにレポート作成する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>毎演習ごとに、簡単な小テストを提示する予定である。 このためプリントや教科書は持参すること。</p>
教科書	『すぐ使える若葉マークのための鍼灸臨床指針～臓腑病、経脈病、経筋病の診察法と治療法～』篠原昭二・和辻 直（ヒューマンワールド社）
参考書	『運動器疾患の治療』整形外科・現代鍼灸・伝統鍼灸；平澤康介・北出利勝編集（医歯薬出版社） 『中医針灸治療のプロセス』朱紅ほか編、篠原昭二監訳（東洋学術出版社） 『やさしい鍼を打つための本』中根 一（医道の日本社） 『経絡治療のすすめ』首藤傳明（医道の日本社）
成績評価	<p>評価方法と評価割合（試験0%、レポート50%、授業内演習20%、出席30%、など）を具体的に記載してください。 試験内容はレポート評価とし、選択した「経絡治療の特徴について」と選択した「症候について」、各々、A4レポート用紙2枚以内(2000字以内)で提出することとする（25% X2）。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：和辻 直 研究室：附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス：t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日の午後14：00～16：00</p>
備考	<p>レポート作成に必要な図書 『針灸学〔臨床編〕』（東洋学術出版社） 『新しい鍼灸診療』北出利勝編集（医歯薬出版社）</p>

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
角谷 英治			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	「鍼灸治効学」で学習した鍼灸刺激によって生じる種々の生体反応や作用機構を理解した上で、近年、世界的に研究の進展がみられる基礎系領域(形態系・機能系・生体防御系)における鍼灸作用機構、鍼灸治療の効果機転等の研究の現状と問題点を、情報収集、討論等を通じて理解し、それらを基に自分なりの考えを確立する。
授業計画	<p>1回目 イオンチャネルと熱受容体について 論文、参考書などからイオンチャネルの概要と熱受容体（カプサイシン受容体）についての情報を収集して要点を整理し、理解するとともに自分の考えを確立する。</p> <p>2回目 ツボ・経絡の本態について 論文、参考書などからツボ・経絡の本態についての情報を収集し、基礎医学的にみた経絡・ツボと生体反応点および治療点としてのツボについてについて理解し、自分の考えを確立する。</p> <p>3回目 鍼灸治療の個体差と耐性について 論文、参考書などから鍼灸治療の個体差と耐性についての情報を収集し、理解して討論を行うことにより自分の考えを確立する。</p> <p>4回目 上行性痛覚抑制について 論文、参考書などから上行性痛覚抑制についての情報を収集し、理解して討論を行うことにより自分の考えを確立する。</p> <p>5回目 鍼灸刺激と筋血流について 論文、参考書などから鍼灸刺激の筋血流に及ぼす効果についての情報を収集し、理解して討論を行うことにより自分の考えを確立する。</p> <p>6回目 鍼灸刺激と消化器系について 論文、参考書などから鍼灸刺激の消化管、特に胃の機能に及ぼす効果についての情報を収集し、理解して討論を行うことにより自分の考えを確立する。</p> <p>7回目 鍼灸刺激と泌尿器系について 論文、参考書などから鍼灸刺激の膀胱機能に及ぼす効果についての情報を収集し、理解して討論を行うことにより自分の考えを確立する。</p> <p>8回目 まとめ 「イオンチャネルと熱受容体について」「ツボ・経絡の本態について」「鍼灸治療の個体差と耐性について」「上行性痛覚抑制について」「鍼灸刺激と筋血流について」「鍼灸刺激と消化器系について」「鍼灸刺激と泌尿器系について」について学習した内容をまとめ、鍼灸の作用機序についての自分の考えを確立し、鍼灸治療の可能性について考える。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・「鍼灸治効学資料」を熟読し、よく理解しておく。 ・「人体機能学」（植物機能・動物機能）を良く復習しておく。 ・授業で行った内容の要点をまとめる。
教科書	特になし。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「鍼灸治効学資料集」明治国際医療大学基礎鍼灸学教室編 ・「鍼灸臨床最新科学－メカニズムとエビデンス－」川喜田健司、矢野忠 編集（医歯薬出版） ・「鍼灸最前線」丹澤章八、尾崎昭弘監修・編集（医道の日本社） ・「東洋医学を学ぶ人のために」高木健太郎、山村秀夫 監修（医学書院）
成績評価	評価方法と評価割合（出席50%，受講態度50%）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 角谷 英治 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : e_sumiya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日16:00-17:00</p> <p>担当教員名 : 新原 寿志 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : h_shinbara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日16:00-17:00</p> <p>担当教員名 : 谷口 博志 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : h_taniguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日16:00-17:00</p> <p>担当教員名 : 日野 ころこ 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : hinokokoro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日16:00-17:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
石崎 直人			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	臨床鍼灸学特論Ⅲでは、鍼灸治療が行われている疾患や関連愁訴のうち、内科系、運動器系、外科系、感覚器系の4領域の重要症候・疾患について、現代医学的な知識を深めるとともに、その病態や最新のエビデンスに基づいた鍼灸治療法、客観的な治療効果判定および効果のメカニズムなどについて各学生が自ら学習し発表することにより理解を深め、治療及び評価の実際について実技や見学を通じて体得することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 内科系疾患の病態と鍼灸治療（石崎） 到達目標：内科系疾患の病態と鍼灸治療について、症例を通して病態把握や鍼灸治療について自ら考えることができる。</p> <p>第2回 心身医学系疾患の病態と鍼灸治療（福田） 到達目標：心身医学系疾患の病態と鍼灸治療について、症例を通して病態把握や鍼灸治療について自ら考えることができる。</p> <p>第3回 腰下肢症状に対する新たな治療法、データの紹介（井上） 到達目標：新たな治療法の意義を理解する。 予習：3年次に学習した腰下肢の診察・治療を復習しておく。 復習：神経の循環について理解する。神経痛について調べる。</p> <p>第4回 再生医学（末梢神経・骨・腱）と鍼灸治療（井上、今枝） 到達目標：末梢神経再生・骨癒合・腱癒合と鍼通電の関係について理解する。 予習：末梢神経、骨、腱損傷時の治癒過程について調べる。 復習：末梢神経の再生、骨・腱癒合の促進法について調べる。</p> <p>第5回 不妊に対する鍼灸治療の実際（田口） 到達目標：不妊に対する診察を理解し、鍼灸治療の役割を考える。 備考：3年次の臨床鍼灸学III（外科系）で学習した婦人科疾患と月経の仕組みについて復習しておくこと。</p> <p>第6回 ストレス性消化器疾患に対する鍼灸治療の可能性（谷口） 到達目標：ストレス性消化器疾患について理解し、基礎研究に意義と鍼灸治療の可能性を考える。 備考：授業の進行を踏まえ、指示する。</p> <p>第7回 眼科領域における鍼灸治療（鶴） 到達目標：視力や眼疲労、眼精疲労に対する鍼(灸)の効果について理解する（白内障や緑内障に付随する内容を含む）。</p> <p>第8回 耳鼻科領域における鍼灸治療（鶴） 到達目標：耳鳴（難聴を含む）に対する鍼(灸)治療の効果について理解する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各領域担当者の指示に従ってください。
教科書	講義で提示される資料を基本とし、必要に応じて各領域担当者が指定する。
参考書	講義で提示される資料を基本とし、必要に応じて各領域担当者が指定する。
成績評価	出席状況及び学習態度を基本として、各領域担当者より必要に応じて指示があります。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：石崎直人 メールアドレス：n_ishizaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜～金曜17:00以降</p> <p>担当教員名：福田文彦 メールアドレス：f_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜を除く平日17:00以降</p> <p>担当教員名：井上基浩 メールアドレス：mo_inoue@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日16:00 - 17:00</p> <p>担当教員名：今枝美和 メールアドレス：mi_nakajima@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日16:00 - 17:00</p> <p>担当教員名：田口玲奈 メールアドレス：r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日11:00-17:00</p> <p>担当教員名：谷口 授 メールアドレス：s_yoshimoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 13:30-16:00</p> <p>担当教員名：鶴 浩幸</p>

	メールアドレス : h_tsuru@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日17:00-18:00
備考	各講義は個別に期日指定となります。開講日時については随時情報を確認し、必要に応じて担当者又は教学課に問い合わせてください。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
坂部 昌明			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>本講座では、医療技術のみならず、社会の中において自らの役割を探索し、見つけ出し、実行できる鍼灸師を養成することを目的としています。</p> <p>これからの日本は、少子高齢化が進展し、きわめて困難な状況に直面していきます。既に、日本の政策の中心は、医療・介護などの問題を越えて、生活や住まい・健康などのいわゆる「生活者」を中心とした政策に移行しはじめています。言い方を変えれば、患者を治療することに主眼をおいた、これまでの旧来型＝患者治療モデルでは、社会実情や政策目標に合致しなくなる可能性があるということです。</p> <p>政府は、国民がよりより生活をおくれるような社会を目指しています。従って、これからの鍼灸師は生活者支援モデルを主軸とした「鍼灸」について考えられるようになる必要があります。</p> <p>今年の講座では、法令や社会の流れを汲んだ鍼灸院開業モデルを取り扱います。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション この講義の受け方と、日本社会の実情について把握して頂きます。</p> <p>[到達目標] 半年の講義の内容を把握する。 日本の実情を知る。</p> <p>2回目 鍼灸院のモデリング 鍼灸院を開くにあたり、どのようなことを念頭に置くべきか。また、既存のモデリングの限界について提示するので、既存を超える鍼灸院について検討してほしいです。</p> <p>[到達目標] 鍼灸院のモデリングについて学び、自己のモデリングを検討する。</p> <p>[備考] 予習：次回までに調べてきてほしい範囲を提示するので、調べてくる。</p> <p>3回目 人口が比較的多い～多い地域における開設 いわゆる地方都市～大都市などにおける施術所開設について検討していく。</p> <p>[到達目標] 地方都市～大都市の状況を認識する。</p> <p>[備考] 予習：次回までに調べてきてほしい範囲を提示するので、調べてくる。</p> <p>4回目 人口が少ない地域における開設 いわゆる、地方都市でも小規模のものより少ない市町村あるいは集落等での施術所開設について検討していく。</p> <p>[到達目標] 小規模都市や集落等の状況を認識する。</p> <p>[備考] 予習：次回までに調べてきてほしい範囲を提示するので、調べてくる。</p> <p>5回目 往診・滞在型による施術 往診や滞在型の鍼灸施術の事例について検討する。</p> <p>[到達目標] 往診・滞在施術の違いを把握する。</p> <p>[備考] 予習：次回までに調べてきてほしい範囲を提示するので、調べてくる。</p> <p>6回目 他機関との連携について① 病院あるいは医師との連携について検討する。</p> <p>[到達目標] 病院や医師との連携の実態について知る。</p> <p>[備考] 予習：次回までに調べてきてほしい範囲を提示するので、調べてくる。</p> <p>7回目 他機関との連携について② エステティックなどとの連携について検討する。</p> <p>[到達目標] 非医療系業種との連携の実態について知る。</p> <p>8回目 まとめ</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	学修目標は次の5点です。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 生活者支援モデルについて理解する。 ■ 国内の医療行政について知っている。 ■ 自らの行為の法的適否について、ある程度検討できる。 ■ 話し合いをする場において、しっかり発言できる。 ■ 必要な資料を作成できる。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・『医事法入門』手嶋豊(有斐閣)：教科書購入時最新のものを ・『療養費の支給基準』社会保険研究所：同上
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇六法(色々あります。安価で、これは!と思う名前のものを買いましょう)
成績評価	成績評価の対象となるのは レポート提出：40% および 期末試験：60% です。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 坂部昌明(非常勤講師) 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : info.skb285@gmail.com オフィスアワー : メールでの質問を歓迎します。2、3日後には返信します。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
廣 正基			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>鍼灸治療院の開業に必要な基本事項について学習し、開業の準備に関する知識を学習する。鍼灸治療院を開業するにあたって、工夫と調査が必要であり、本科目ではそれらの基本事項を系統的に学習する。開業に関する事項について学び、開業している学外講師より実際の鍼灸院経営について学ぶ。</p> <p><基本事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 経営理念、目標設定の重要性 2) 鍼灸院の開設（立地条件、競合院調査、マーケティング） 3) 鍼灸院の外観・内装・看板 4) 鍼灸院の宣伝 5) 賠償保険 6) 鍼灸院経営のリスクとその対策 7) 競合院との差別化 8) 鍼灸治療院開業のコツ
授業計画	<p>1回目 インTRODクシヨン [到達目標] 経営の取り組みの必要性や経営理念について理解する [備考] 配布資料を見直しわからない点があれば質問する</p> <p>2回目 鍼灸院の開設 [到達目標] 鍼灸院の立地条件・競合院の調査・マーケティングについて理解する [備考] 配布資料を見直しわからない点があれば質問する</p> <p>3回目 鍼灸院の外観・内装。看板 [到達目標] 鍼灸院の外観や内装の工夫、効果的な看板について理解する [備考] 配布資料を見直しわからない点があれば質問する</p> <p>4回目 鍼灸院の宣伝1 [到達目標] 様々な宣伝媒体とその効果について理解する [備考] 配布資料を見直しわからない点があれば質問する</p> <p>5回目 鍼灸院の宣伝2 [到達目標] 特にWebを利用した宣伝とその効果について理解する [備考] 配布資料を見直しわからない点があれば質問する</p> <p>6回目 鍼灸治療による過誤 [到達目標] 鍼灸治療による過誤について理解する [備考] 配布資料を見直しわからない点があれば質問する</p> <p>7回目 賠償保険 [到達目標] 鍼灸治療による過誤とその対処法、賠償保険の取り扱いについて理解する [備考] 配布資料を見直しわからない点があれば質問する</p> <p>8回目 競合院との差別化 [到達目標] 他院との差別化の重要性とその方法について理解する [備考] 配布資料を見直しわからない点があれば質問する</p> <p>9回目 鍼灸院開業のコツ1-1 [到達目標] 鍼灸院経営者から開業のコツについて理解する。その1：鍼灸院開業と経営の礎 [備考] 配布資料を見直しわからない点があれば質問する</p> <p>10回目 鍼灸院開業のコツ1-2 [到達目標] 鍼灸院経営者から開業のコツについて理解する。その2：鍼灸院経営のリスクとその対策 [備考] 配布資料を見直しわからない点があれば質問する</p> <p>11回目 鍼灸院開業のコツ2-1 [到達目標] 鍼灸・整骨院経営者から開業のコツについて理解する。その1：鍼灸院開業と経営の礎 [備考]</p>

	12回目	配布資料を見直しわからない点があれば質問する 鍼灸院開業のコツ2-2 [到達目標] 鍼灸・整骨院経営者から開業のコツについて理解する。その2：鍼灸院経営のリスクとその対策 [備考]
	13回目	配布資料を見直しわからない点があれば質問する 鍼灸院開業のコツ3-1 [到達目標] モデル治療院（京都駅前鍼灸院）の経営について理解する [備考]
	14回目	配布資料を見直しわからない点があれば質問する 鍼灸院開業のコツ3-2 [到達目標] モデル治療院（京都駅前鍼灸院）の経営について理解する [備考]
	15回目	配布資料を見直しわからない点があれば質問する まとめ レポート作成
授業時間外の学習 （準備学習等）について	配布プリントの内容を参考にし、各テーマについて自身の考えを考察すること。 学外講師には積極的に質問すること。	
教科書	自作プリント	
参考書	「鍼灸院経営のすべて」出端昭男（医道の日本社） 「治療院経営Q&A」目黒章布（医道の日本社）	
成績評価	出席基準をみたした者を対象に、レポートの内容を総合して評価する。欠席した場合は必ず欠席届を提出すること。	
担当教員の基本情報	担当教員名：廣 正基 研究室：鍼灸センター 2階 教員室 オフィスアワー 金曜日 16：40～	
備考		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
西尾 庄平			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	エアロビック実習の選択科目であり、テニス・バドミントンならびにグウンドゴルフの合理的実践を通して、身体や身体運動の幅広い知識を教授するとともに、知的・道徳的・身体的教養を育成し、心身ともに健康でゆとりある生活を実現する能力や態度を育てることを目標とする。また、初心者および中級者を対象として、基礎的ならびに応用技術の練習や試合形式のゲームを通して生涯にわたって楽しめる技術やルール、マナーの修得、体力の向上を実践的に学習するとともに、コミュニケーション能力の向上も図る。
授業計画	<p>1 ガイダンス エアロビック運動実習の目的と評価の方法や各種履修にあたっての諸注意を説明し、理解させる。</p> <p>2 テニス（1）基本・基礎技術の練習 グリップと構え、ラケットイング、ワントラップボレー、ボレー（フォア・バック）、ボレー&ボレーの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。 また、グラウンドストローク（フォア・バック）の動作をそれぞれ説明し、反復練習させる。</p> <p>3 テニス（2）基本・基礎技術の練習 グラウンドストローク（フォア・バック）の動作をそれぞれ説明し、反復練習させる。</p> <p>4 テニス（3）基本・基礎技術の練習 サービス、ロブ、サービス&レシーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>5 テニス（4）ルールとゲーム 審判法とゲームの進め方やマナーを理解させ、ダブルスの簡易ゲームを行なわせる。</p> <p>6 テニス（5）応用技術とゲーム チーム分けを行い、戦術・戦略の理解に重点を置いたダブルスゲームを行わせる。</p> <p>7 テニス（6） 応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、コミュニケーションの理解に重点を置いたダブルスゲームを行わせる。</p> <p>8 バドミントン（1）基本・基礎技術の練習 グリップと構え、基本ストロークならびにサーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>9 バドミントン（2）基本・基礎技術の練習 ドロップ&ロブ、クリア、ヘアピン、プッシュ、スマッシュ、レシーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>10 バドミントン（3）ルールと簡易ゲーム 審判法とゲームの進め方やマナーを理解させ、併せてダブルスの簡易ゲームを行わせる。（半面シングルスでショットを制限して）</p> <p>11 バドミントン（4）応用技術とゲーム チーム分けを行い、ダブルスゲームを行わせる。</p> <p>12 バドミントン（5）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、戦術・戦略の理解に重点を置いたダブルスゲームをおこなわせる。</p> <p>13 バドミントン（6）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、コミュニケーションの理解に重点を置いたダブルスゲームを行わせる。</p> <p>14 グラウンド・ゴルフ（1）基本・基礎技術の練習とルール グリップと構え、基本ストロークの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。 ルールとゲームの進め方やマナーを理解させ、併せて簡易ラウンドを行わせる。</p> <p>15 グラウンド・ゴルフ（2）応用技術とラウンド チーム分けを行い、コミュニケーションの理解に重点を置いたラウンドゲーム（16ホール）を行わせる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業後にストレッチングなど、身体のケアを充分に行うこと。
教科書	授業資料は、適宜配付する。
参考書	授業資料は、適宜配付する。
成績評価	授業態度40%、授業への貢献度20%、実技評価40%。「授業態度、授業への貢献度」では、授業に出席し、自律的に目標を設定し、積極的にグループ活動に参加しているかを評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：西尾庄平 研究室：本館2階 メールアドレス：s_nishio@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日12時50分～13時30分 教員室 また、メールでも受け付ける。</p> <p>担当教員名：中才幸樹</p>

	研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : オフィスアワー :
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
西尾 庄平			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	エアロビック運動実習の選択科目であり、使用可能施設および受講人数に応じて、バレーボール、バドミントン、バスケットボール、スポンジテニス、卓球などレクリエーションスポーツの様々な運動・スポーツ、ルールについて学ぶ。これらの種目における基礎的および応用技術の学習やゲームを通して身体活動が持つ様々な健康意義や生涯発達の意義について理解を深める。
授業計画	<p>1 ガイダンス エアロビック運動実習のねらいと評価の方法や各種目履修にあつたつての諸注意を説明し、理解させる。</p> <p>2 バレーボール（１）基礎技術の練習 スパイク、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、各サーブならびにレシーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>3 バレーボール（２）ルールとゲーム 審判法とゲームの進め方やマナーを理解させ、チーム分けを行いゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>4 バレーボール（３）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、ゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>5 バドミントン（１）基礎技術の練習 グリップと構え、基本ストローク、サーブ、ドロップ&ロブ、クリア、ヘアピンの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>6 バドミントン（２）ルールとゲーム 審判法とゲームの進め方やマナーを理解させ、ダブルスゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>7 バドミントン（３）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行いダブルスゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>8 バスケットボール（１）基礎技術の練習 シュート、パス、キャッチ、ドリブル、ボールキープの反復練習を行い、修得させる。</p> <p>9 バスケットボール（２）ルールとゲーム 審判法とゲームの進め方やマナーを理解させ、ゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>10 バスケットボール（３）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、ゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>11 スポンジテニス（１）基礎技術の練習 グリップと構え、ラケットイング、ワントラップボレー、ボレー（フォア・バック）、ボレー&ボレーの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>12 スポンジテニス（２）ルールとゲーム 審判方法とゲームの進め方やマナーを理解させ、チーム分けを行いダブルスの簡易ゲームを行なわせる</p> <p>13 スポンジテニス（３）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、ゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>14 卓球（１）基礎技術の練習と試合 グリップと構え、基本ストローク、サーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>15 卓球（２）ルールとゲーム 審判法とゲームの進め方やマナーを理解させ、ゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業後にストレッチングなど、身体のケアを充分に行うこと。
教科書	授業資料は、適宜配付する。
参考書	授業資料は、適宜配付する。
成績評価	授業態度50%、授業への貢献度20%、実技評価30%。「授業態度、授業への貢献度」では、授業に出席し、自立的に目標を設定し、積極的にグループ活動に参加しているかを評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 西尾庄平 研究室 : 本館2階 メールアドレス : s_nishio@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・水曜日12時50分～13時30分 教員室 また、メールでも受け付ける。</p> <p>担当教員名 : 中才幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : オフィスアワー :</p>

備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
松元 隆司			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	スポーツ医学における関節運動や関節力学の理解を深め、アスレチックリハビリテーションを理解する。また、各関節毎のコンディショニング、エクササイズの基本理念を理解することにより臨床時の状況判断の向上を最終目的とする。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・定義・概要 [到達目標] アスレチックリハビリテーションの定義を理解する。</p> <p>2回目 基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価 [到達目標] 基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価などの基礎知識を理解する。</p> <p>3回目 足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。</p> <p>4回目 下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。</p> <p>5回目 膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。</p> <p>6回目 膝部のエクササイズ [到達目標] 膝部のエクササイズの基礎知識を理解する。</p> <p>7回目 股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。</p> <p>8回目 股関節のエクササイズ [到達目標] 股関節のエクササイズの基礎知識を理解する。</p> <p>9回目 腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。</p> <p>10回目 腰部、腹部のエクササイズ [到達目標] 腰部、腹部のエクササイズの基礎知識を理解する。</p> <p>11回目 手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。</p> <p>12回目 肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション基礎知識を理解する。</p> <p>13回目 肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。</p> <p>14回目 肩のエクササイズ [到達目標] 肩のエクササイズの基礎知識を理解する。</p> <p>15回目 総合復習 [到達目標] 全範囲に関して基礎知識の理解を深める。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	復習し理解を深める。
教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	筆記試験，小テスト，レポート，授業態度，出席などを総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 松元 隆司 研究室 : トレーナールーム メールアドレス : t_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
松元 隆司			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	アスレチックリハビリテーションの講義にて理解したことを実践できることを目的とする。またコンディショニング、エクササイズの基本技術を習得することを最終目的とする。		
授業計画	1回目	オリエンテーション・定義・概要 [到達目標] 概要を理解，習得する。	
	2回目	基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価 [到達目標] 基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価を理解，習得する。	
	3回目	足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。	
	4回目	下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。	
	5回目	膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。	
	6回目	膝部のエクササイズ [到達目標] 膝部のエクササイズを理解，習得する。	
	7回目	股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。	
	8回目	股関節のエクササイズ [到達目標] 股関節のエクササイズを理解，習得する。	
	9回目	腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。	
	10回目	腰部，腹部のエクササイズ [到達目標] 腰部，腹部のエクササイズを理解，習得する。	
	11回目	手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。	
	12回目	肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションズを理解，習得する。	
	13回目	肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。	
	14回目	肩のエクササイズ [到達目標] 肩のエクササイズを理解，習得する。	
	15回目	総合復習 [到達目標] 全範囲に関して基礎知識の理解を深める。	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	復習をし理解を深める。		
教科書	特になし		
参考書	特になし		
成績評価	実技テスト，授業態度・出席(減点)を総合的に評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 松元 隆司 研究室 : トレーナールーム メールアドレス : t_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
長尾 淳彦 濱口 夏花			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	体育・スポーツの現場における鍼灸師として行える各種手技的アプローチを理解する。 特に、スポーツ選手（アスリート）に特有な外傷・障害の発生メカニズムを理解するとともにテーピング並びに早期現場復帰のための運動療法の理論を習得する。
授業計画	<p>1回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足関節Ⅰ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 足関節の機能解剖の理解</p> <p>2回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足関節Ⅱ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 足関節の機能解剖の理解</p> <p>3回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足関節Ⅲ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 足関節の機能解剖の理解</p> <p>4回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足関節Ⅳ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 足関節の機能解剖の理解</p> <p>5回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足部Ⅰ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 足部の機能解剖の理解</p> <p>6回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足部Ⅱ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 足部の機能解剖の理解</p> <p>7回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（下腿部） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 下腿部の機能解剖の理解</p> <p>8回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（膝関節Ⅰ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 膝関節の機能解剖の理解</p> <p>9回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（膝関節Ⅱ） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 膝関節の機能解剖の理解</p> <p>10回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（大腿部・腰部） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 大腿部・腰部の機能解剖の理解</p> <p>11回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（肩関節） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 肩節の機能解剖の理解</p> <p>12回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（肘関節） 【到達目標】 エピソードとアプローチ 【備考】 肘関節の機能解剖の理解</p> <p>13回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（手指部） 【到達目標】</p>

	<p>エピソードとアプローチ 【備考】 手指部の機能解剖の理解 総合復習</p> <p>1 4 回目</p> <p>1 5 回目 総合評価（まとめ）</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	各関節・周辺部位の機能解剖を理解する。授業時に配布する資料に授業内で理解できない部分を記載して次の授業までに自習または教員に聞き、理解する。
教科書	「テーピングナビ」DVD：著者 長尾淳彦、（有）ラウンドフラット
参考書	「スポーツ・テーピング」：著者 長尾淳彦、池田書店 「柔道整復師のためのテーピングの理論と実践」：著者 長尾淳彦、からだサイエンス 「柔道整復師のための運動療法」：著者 長尾淳彦 からだサイエンス
成績評価	出席基準を充たした者に筆記試験・実技試験を行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 ：長尾淳彦 研究室 ：8号館4階 メールアドレス ：a_nagao@meiji-u.ac.jp オフィスアワー ：授業終了後</p> <p>担当教員名 ：濱口 夏花 研究室 ：8号館4階講師室 メールアドレス ：n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー ：授業終了後</p>
備考	